

横浜市 高齢者実態調査

調査結果報告書

令和2年3月

横浜市

目次

第1章 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査対象および方法、回収状況	2
3. 調査内容	4
4. 報告書の見方	6
第2章 調査結果の概要	10
1. 回答者の属性	10
第3章 第7期計画の基本方針に基づく結果の整理	24
I. 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して	24
1 介護予防・健康づくり	24
2 社会参加	32
3 生活支援	47
II. 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化	54
1 在宅介護・リハビリテーション	54
2 在宅医療・看護	67
3 保健・福祉	71
4 医療・介護・保健福祉の連携	87
III. 認知症にやさしい地域づくり	98
1 市民理解・地域づくり	98
2 認知症予防、早期診断・早期対応	106
IV. ニーズや状況に応じた施設・住まいづくり	112
1 個々の状況に応じた施設・住まいの整備・供給	112
2 相談体制・情報提供の充実	120
V. 安心の介護を提供する体制づくり	124
1 新たな介護人材の確保	124
2 介護人材の定着支援	131
3 専門性の向上	146
VI. 地域包括ケア実現にむけた取組み	154
1 高齢者が安心して暮らせる社会づくりに向けた環境整備	154
2 介護サービスの適正な量の提供と質の向上	155
3 市民に分かりやすい情報の公表と発信	157
4 苦情相談体制の充実	161

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

令和2年度に『第7期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画』を見直し、令和3年度～5年度を計画期間とする第8期計画の策定に向けて、市内に居住する高齢者の健康づくりや生活状況、介護保険サービスの利用状況や今後の意向を確認するとともに、市内の介護サービス事業所・介護福祉施設の運営状況や介護従事者の意見を把握し、次期計画策定に必要となる横浜市における介護保険・高齢者福祉施策の現状把握のための基礎資料を作成することを目的として実施しました。

2. 調査対象および方法、回収状況

① 市民向け調査

対象地域：横浜市に居住する市民

抽出方法：調査区分に該当する母集団から無作為抽出法（一部、全数調査）

調査期間：令和元年11月29日（金）～令和元年12月19日（木）

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査種別による対象者の考え方、配布数は下記の表の通り。

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回収数	回収率
01	健康や介護についてのアンケート	令和元年11月1日時点で、65歳以上の市民【標本調査】	5,000人	3,351人	67.0%
02	健康や介護についてのアンケート（一般調査）	令和元年11月1日時点で、40～64歳の市民【標本調査】	4,000人	1,901人	47.5%
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	令和元年7月に介護保険サービス等を利用した要支援1・2の認定者【標本調査】	1,000人	653人	65.3%
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	令和元年7月に介護保険サービス等を利用した要介護1～5の認定者【標本調査】	5,000人	2,596人	51.9%
05	介護保険在宅サービス未利用者調査	平成30年9月～令和元年7月に介護保険サービスの利用が確認できなかった要介護認定者【標本調査】	2,000人	1,220人	61.0%
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	令和元年7月に小規模多機能型居宅介護サービスもしくは看護小規模多機能型居宅介護サービスを利用した要介護認定者【標本調査】	1,100人	537人	48.8%
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査	令和元年7月に定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを利用した要介護認定者【標本調査】	718人	248人	34.5%
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	令和元年9月1日時点で特別養護老人ホーム入所申込受付センターに申し込みをしている要介護認定者【全数調査】	8,289人	4,826人	58.2%
合計			27,107人	15,332人	56.6%

② 事業所向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所

抽出方法：全数調査

調査期間：令和元年10月31日（木）～令和元年11月15日（金）

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査種別による対象者の考え方、配布数は下記の表の通り。

番号	調査票 名称	対象者の 考え方	対象数	回収数	回収率
09	特別養護老人ホーム調査	市内の特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 【全数調査】	157 件	89 件	56.7%
10	介護老人保健施設調査	市内の介護老人保健施設 【全数調査】	87 件	40 件	46.0%
11	介護サービス事業所（居住系）調査	市内の特定施設、認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム 【全数調査】	716 件	395 件	55.2%
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	市内の在宅介護サービス事業所 ※居宅療養管理指導、福祉用具貸与、福祉用具販売単独事業所を除く 【全数調査】	3,169 件	1,668 件	52.6%
13	居宅介護支援事業所調査	市内の居宅介護支援事業所 【全数調査】	946 件	582 件	61.5%
14	地域ケアプラザ調査	市内の地域ケアプラザ 【全数調査】	138 件	122 件	88.4%
15	横浜市認知症医療に関する調査	市内の医療機関（病院・診療所） ※美容外科、美容皮膚科・小児科及び産婦人科の単科を除く 【全数調査】	2,861 件	1,452 件	50.8%
合計			8,074 件	4,348 件	53.9%

③ 従事者向け調査

対象地域：横浜市にて介護保険サービス等を実施している事業所に従事している職員

抽出方法：事業所ごとに調査数を設定（一部、全数調査）

調査期間：令和元年 10 月 31 日（木）～令和元年 11 月 15 日（金）

調査方法：施設から従事者へ配布、郵送回収

調査種別による対象者の考え方、配布数は下記の表の通り。

番号	調査票名称	対象者の考え方	対象数	回収数	回収率
16	ケアマネジャーアンケート	市内の居宅介護支援事業所で就労しているケアマネジャー 【全数調査】	3,799 人	1,655 人	43.6%
17	訪問介護員（ホームヘルパー）へのアンケート	市内の在宅介護サービス事業所で就労しているホームヘルパー 【標本調査】	1,588 人	878 人	55.3%
18	施設介護についてのアンケート（介護職員アンケート）	市内の特別養護老人ホーム等で就労している介護職員、及び外国籍の介護職員 【標本調査】	2,795 人	1,406 人	50.3%
合計			8,182 人	3,939 人	48.1%

3. 調査内容

① 市民向け調査

番号	調査票名称	調査内容
01	健康や介護についてのアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護予防に関する取組 ・認知症に関する取組
02	健康や介護についてのアンケート（一般調査）	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいや介護に関する情報 ・人生の最終段階に関する取組 ・福祉サービスに関すること ・介護保険制度に関すること ・家族介護に関すること 等
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護予防に関する取組 ・住まいや介護に関する情報 ・人生の最終段階に関する取組 ・福祉サービスに関すること ・通院、リハに関すること ・介護保険制度に関すること ・家族介護に関すること 等

番号	調査票名称	調査内容
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・住まいや介護に関する情報 ・人生の最終段階に関する取組 ・福祉サービスに関すること ・通院、リハに関すること ・介護保険制度に関すること ・家族介護に関すること 等
05	介護保険在宅サービス未利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・地域生活の状況 ・介護予防に関する取組 ・住まいや介護に関する情報 ・人生の最終段階に関する取組 ・福祉サービスに関すること ・介護保険制度に関すること ・家族介護に関すること 等
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・福祉サービスに関すること ・家族介護に関すること ・小規模多機能等サービスの利用状況、満足度 等
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・心と体の健康状態 ・福祉サービスに関すること ・家族介護に関すること ・定期巡回等サービスの利用状況、満足度 等
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいと暮らしの状況 ・福祉サービスに関すること ・介護保険制度について ・家族介護に関すること ・特養の利用意向、相談対応 等

② 事業所向け調査

番号	調査票名称	調査内容
09	特別養護老人ホーム調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について
10	介護老人保健施設調査	<ul style="list-style-type: none"> ・入退所者の状況 ・福祉サービスの実施状況 ・質の向上に関する取組
11	介護サービス事業所（居住系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の状況 ・介護ロボットの導入状況 ・市の支援事業の活用状況 等

番号	調査票名称	調査内容
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制、人材確保について ・福祉サービスの実施状況 ・質の向上に関する取組 ・地域連携の状況 等
13	居宅介護支援事業所調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制 ・質の向上に関する取組 ・地域連携の状況 等
14	地域ケアプラザ調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職員体制 ・ケアプラザ業務の取組状況 ・地域ケア会議に関すること 等
15	横浜市認知症医療に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・認知症診療の実施状況 ・認知症患者への介護支援の実施状況 ・市の認知症施策の認知 等

③ 従事者向け調査

番号	調査票名称	調査内容
16	ケアマネジャーアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること ・勤務実態 ・福祉サービスに関すること ・地域ケア会議に関すること ・ケアマネ業務に関すること 等
17	訪問介護員（ホームヘルパー）へのアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・職場環境に関すること ・キャリアに関すること ・勤務実態
18	施設介護についてのアンケート（介護職員アンケート）	<ul style="list-style-type: none"> ・給与に関すること ・サービス提供に関すること ・外国人材に関すること 等

4. 報告書の見方

【共通事項】

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの有効回収数を示しています。
- ・比率はすべて百分率（％）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ・表として示したもののうち、無回答の回答数が0の場合は「無回答」の表示を省略しています。また、設問文・選択肢の文章を、意味が変わらない程度に簡略化してある場合があります。
- ・調査票及び単純集計表は、別途まとめている資料編に掲載しています。

【02「健康や介護についてのアンケート（一般調査）」について】

- 調査対象について、H28 調査・H25 調査時は対象者の条件を「55 歳～64 歳」として実施していたため、今回調査時の「40～64 歳」と条件が異なっています。

【介護予防判定について】

- P. 28～30 に記載の「介護予防判定」について、次の 25 項目の回答結果から、介護予防の必要性があると考えられる方を「リスクあり」、必要性のない方を「リスクなし」として分析しています。

該当条件	
①～⑫での回答が 10 項目以上で該当	⑬～⑳での回答が 1 項目以上で該当
⑬～⑱での回答が 3 項目以上で該当	㉑～㉕での回答が 2 項目以上で該当
⑲～㉑での回答が 2 項目以上で該当	㉒～㉔の全てに該当
㉕の回答が該当	

※どれか1つでもあてはまれば「リスクあり」とする

(介護予防判定の基本チェックリスト項目)

番号	内容	回答
1	バスや電車で、一人で外出していますか	いいえ
2	日用品の買い物をしていますか	いいえ
3	預貯金の出し入れをしていますか	いいえ
4	友人の家を訪ねていますか	いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	いいえ
8	15分位続けて歩いていますか	いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	はい
10	転倒に対する不安は大きいですか	はい
11	6ヶ月間で2kgから3kg以上の体重減少がありましたか	はい
12	身長、体重を記載してください。	BMI18.5未満
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
15	口の渇きが気になりますか	はい
16	週に1回以上は外出していますか	いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	はい
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	はい
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	はい
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	はい
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	はい
23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる	はい
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	はい
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	はい

【報告書の記載について】

- ・第2章以降では、以下の調査結果（図表、文章）において略称を用いています。

番号	調査票の表題	略称
01	健康や介護についてのアンケート	⇒ 高齢者一般
02	健康や介護についてのアンケート（一般調査）	⇒ 一般 40～64 歳
03	介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）	⇒ 要支援
04	介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）	⇒ 要介護
05	介護保険サービス未利用者調査	⇒ 未利用
06	小規模多機能型居宅介護/看護小規模多機能型居宅介護利用者調査	⇒ 小多機・看多機
07	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査	⇒ 定期巡回
08	特別養護老人ホーム入所申込者調査	⇒ 特養申込者
09	特別養護老人ホーム調査	⇒ 特養
10	介護老人保健施設調査	⇒ 老健
11	介護サービス事業所（居住系）調査	⇒ 居住系
12	介護サービス事業所（訪問・通所系）調査	⇒ 訪問・通所系
13	居宅介護支援事業所調査	⇒ 居宅介護支援
14	地域ケアプラザ調査	⇒ ケアプラザ
15	横浜市認知症医療に関する調査	⇒ 認知症
16	ケアマネジャーアンケート	⇒ ケアマネジャー
17	訪問介護員（ホームヘルパー）へのアンケート	⇒ ホームヘルパー
18	施設介護についてのアンケート（介護職員アンケート）	⇒ 介護職員

第2章

調査結果の概要

第2章 調査結果の概要

1. 回答者の属性

① 調査票の記入者

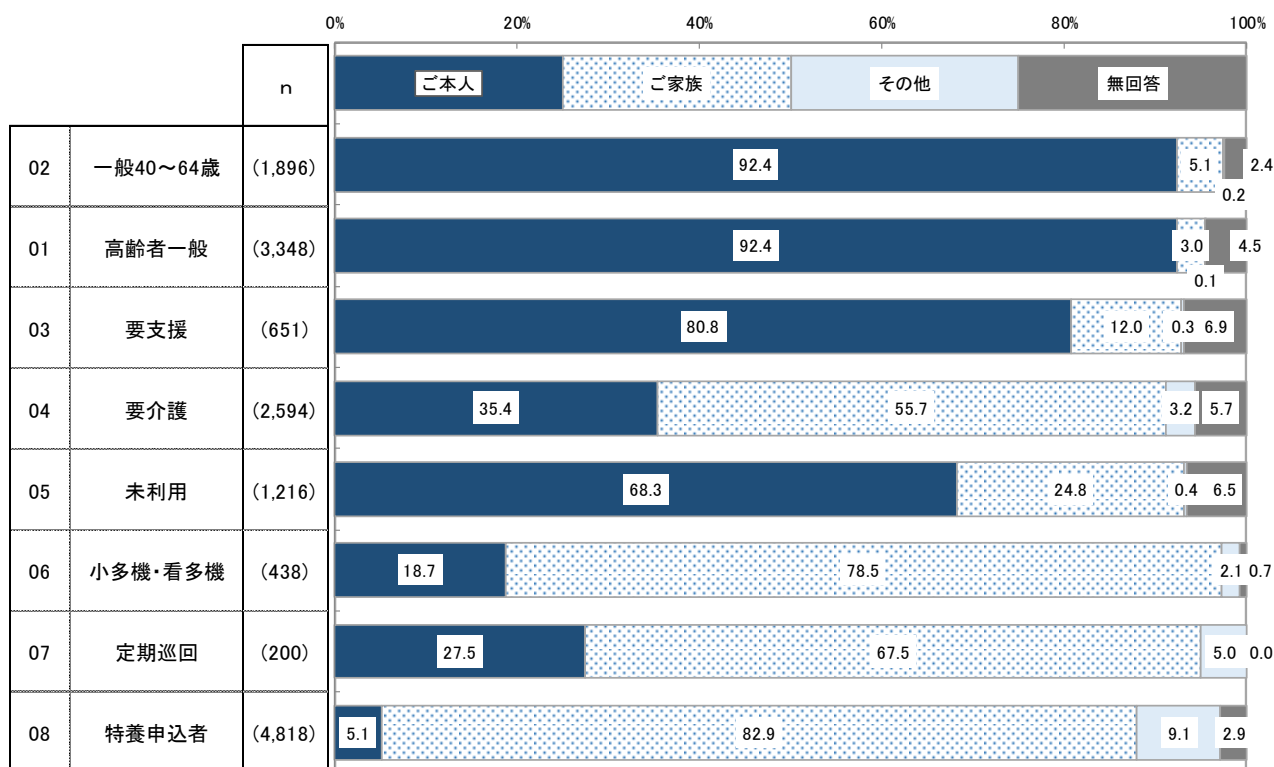
問 この調査票を記入するのはどなたですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	1	1	1	1	1	1	1	1										

調査票の記入者は、“高齢者一般”“一般40～64歳”で「ご本人」が9割以上となっており、“要支援”“未利用”で約7～8割となっている。

一方で、“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”といった、介護サービスを必要としている人では、「ご本人」は4割を下回っており、「ご家族」が5割以上となっている。

図表 1-① 記入者



② 性別

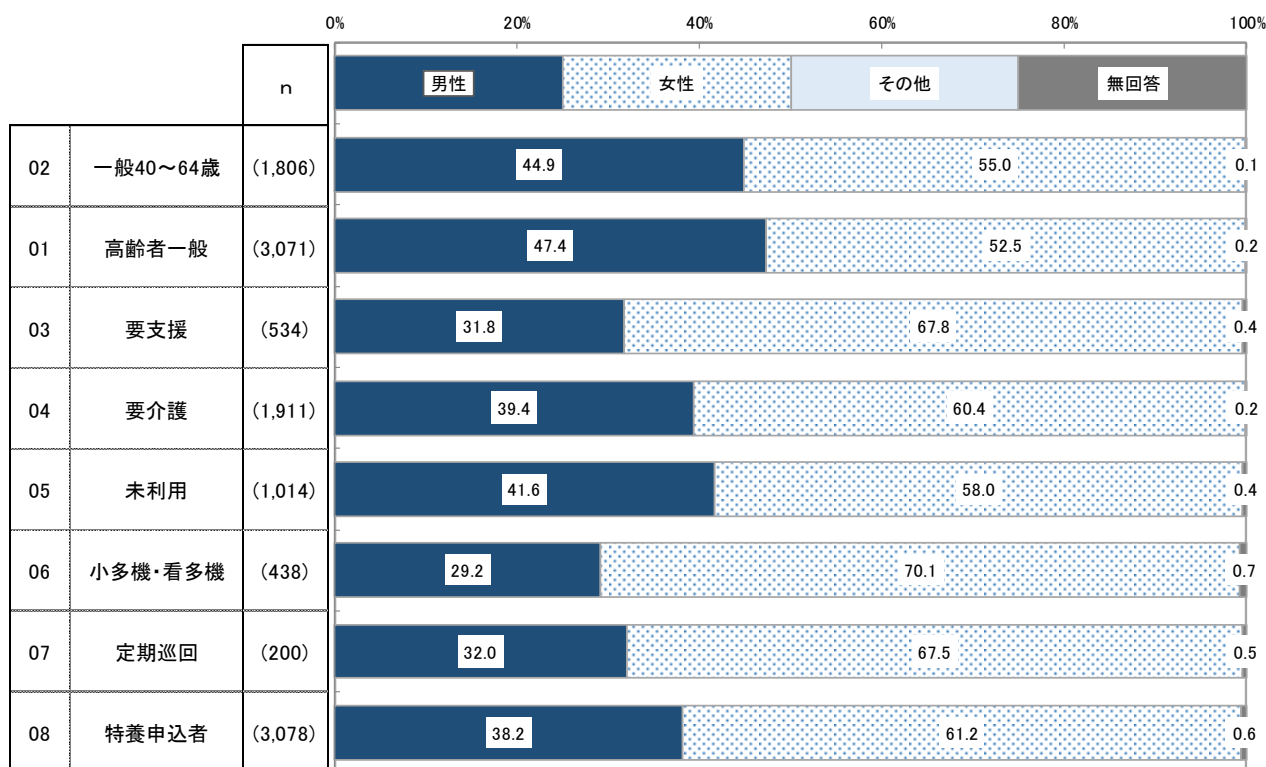
問 あなた（あて名ご本人）の性別をお答えください。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	3	3	3	3	3	3	3	3										

性別は、全体を通じて「女性」が多い傾向にあり、特に“要支援”“要介護”“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”では、「女性」が6割以上となっている。

図表 1-② 性別



③ 年齢

問 あなた（あて名ご本人）の年齢（令和元年11月1日現在）をお答えください。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	4	4	4	4	4	4	4	4										

対象者の年齢は、“高齢者一般”では「65歳～79歳」がボリュームゾーンとなっており、79.0%を占めている。一方で、“要支援”“要介護”など、何らかの介護認定を受けている／介護サービスを利用している対象では「80歳以上」がボリュームゾーンとなっており、6割以上となっている。また、“一般40～64歳”では、区分ごとにバランスよく回答されている。

図表 1-③ 年齢

		調査数 (n)	40歳	45歳	50歳	55歳	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳	90歳	95歳以上	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	16.4	21.4	22.6	20.0	19.3								0.3
01	高齢者一般	(3,071)						26.6	27.8	24.6	14.2	5.8	0.8	0.1	0.2
03	要支援	(534)			1.9			3.9	7.5	15.2	28.3	27.0	13.3	2.4	0.6
04	要介護	(1,911)			2.7			3.8	8.1	15.8	21.4	24.0	16.8	7.4	0.2
05	未利用	(1,014)			2.3			2.8	11.1	18.2	28.5	24.0	11.5	1.5	0.1
06	小多機・看多機	(438)			4.6			2.7	6.4	15.8	20.5	24.7	17.4	7.5	0.5
07	定期巡回	(200)			3.0			7.5	4.5	12.5	18.5	24.5	21.0	8.5	-
08	特養申込者	(3,078)			2.4			3.4	7.7	13.7	21.3	24.5	19.2	7.3	0.5

④ 現在の居住地区

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいの区はどちらですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	5	5	5	5	5	5	5	5										

居住地区は、調査対象による大きな偏りはなく、各区で同様の水準となっている。

ただし、“定期巡回”では、「南区」が17.0%、「港北区」が11.0%となっており、また、“小多機・看多機”では、「戸塚区」が13.0%と、他区に比べて高くなっている。

図表 1-④ 居住地区

		調査数 (n)	青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
02	一般40～64歳	(1,806)	8.6	6.4	5.0	4.4	7.0	4.8	6.3	9.5	2.4	3.3
01	高齢者一般	(3,071)	7.4	8.2	5.2	4.8	5.5	7.1	6.8	7.7	4.2	3.5
03	要支援	(534)	6.0	8.6	4.5	5.2	6.0	6.9	7.1	8.1	5.4	1.3
04	要介護	(1,911)	6.1	8.6	4.6	4.3	5.5	6.7	7.0	7.3	3.2	4.4
05	未利用	(1,014)	6.5	9.6	4.9	5.5	5.1	7.5	7.5	7.6	4.2	3.7
06	小多機・看多機	(438)	4.3	4.8	4.8	2.3	5.0	7.1	5.0	7.3	6.8	7.8
07	定期巡回	(200)	5.5	7.0	1.5	6.0	4.0	6.0	5.5	11.0	1.5	2.0
08	特養申込者	(3,078)	5.0	6.1	3.7	5.7	6.0	5.4	6.8	5.9	3.7	2.9

		調査数 (n)	都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	市外	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	6.5	7.1	6.6	3.6	2.9	5.3	5.5	4.8	-	0.1
01	高齢者一般	(3,071)	4.3	5.8	8.1	2.9	2.3	5.7	5.1	5.5	-	0.2
03	要支援	(534)	3.9	6.0	7.5	3.6	1.7	6.0	5.6	6.4	-	0.2
04	要介護	(1,911)	3.7	7.3	6.8	4.6	2.4	6.5	4.4	6.5	-	0.1
05	未利用	(1,014)	3.5	2.0	8.3	3.4	3.1	6.6	4.4	6.4	-	0.2
06	小多機・看多機	(438)	3.9	9.4	13.0	3.4	1.4	5.3	3.7	4.8	-	-
07	定期巡回	(200)	2.0	8.5	5.5	4.5	4.0	7.0	1.5	17.0	-	-
08	特養申込者	(3,078)	3.6	8.4	7.1	4.6	2.7	5.3	3.8	6.9	5.5	0.9

⑤ 居住年数

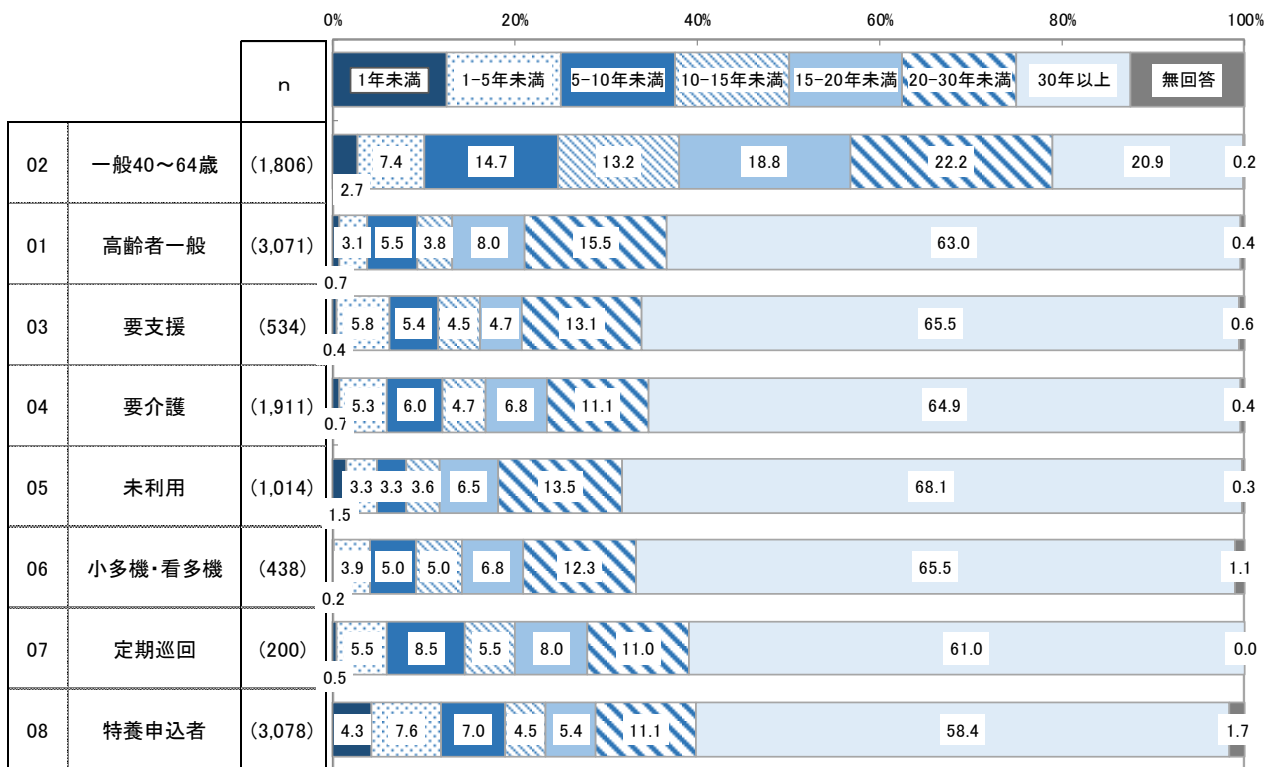
問 あなた（あて名ご本人）のお住まいの区での居住年数をお答えください。
※増改築や改修などされている場合でも通算してお答えください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	6	6	6	6	6	6	6	6										

居住年数は、“一般40～64歳”では「20～30年未満」が最も高く22.2%となっており、他の調査結果と比較しても、居住年数が短い割合が多くなっている。

一方で、“一般40～64歳”以外では「30年以上」が5割以上の大半を占めている。

図表 1-⑤ 居住年数



⑥ 世帯構成

問 あなた（あて名ご本人）の世帯の状況をお選びください (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	7	7	7	7	7	7	7	7										

世帯構成は、“要支援”“定期巡回”“特養申込者”で「ひとり暮らし」が3割以上となっており、特に“定期巡回”では51.0%となっている。“高齢者一般”では「夫婦二人暮らし（どちらも65歳以上）」が41.2%と最も高く、“未利用”では37.4%となっている。“小多機・看多機”“要介護”では「子や孫など同居」が最も高くなっている。“一般40～64歳”では、「子や孫など同居」が35.5%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし」が20.9%となっている。

図表 1-⑥ 世帯構成

		調査数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし (どちらも65歳以上)	夫婦二人暮らし (片方だけ65歳以上)	子や孫など同居	その他 (全員が65歳以上)	その他	無回答
01	高齢者一般	(3,071)	15.7	41.2	4.1	34.1	1.7	2.0	1.3
03	要支援	(534)	38.8	27.9	0.2	29.0	0.9	1.5	1.7
04	要介護	(1,911)	19.0	28.8	1.2	45.1	1.6	2.9	1.5
05	未利用	(1,014)	23.4	37.4	0.9	32.6	1.3	3.4	1.1
06	小多機・看多機	(438)	24.2	17.8	0.9	51.4	1.4	3.7	0.7
07	定期巡回	(200)	51.0	13.0	1.5	31.0	2.0	1.0	0.5
08	特養申込者	(3,078)	30.4	19.3	0.8	35.4	2.2	10.5	1.5

		調査数 (n)	ひとり暮らし	夫婦二人暮らし	子や孫など同居	親と同居	親及び子など同居	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	9.3	20.9	35.5	9.6	15.8	8.5	0.2

⑦ 住まいの形態

問 あなた（あて名ご本人）のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	9	8	8	8	8	8	8	8										

住まいの形態は、“高齢者一般”では「一戸建て（持ち家）」が57.8%と最も高く、“要支援”“要介護”“未利用”“小多機・看多機”では6割を上回っている。

一方で、“一般40～64歳”では「一戸建て（持ち家）」は46.4%と半数を下回り、「マンション（持ち家）」が32.2%となっている。“定期巡回”においても同様の傾向がみられる。

“特養申込者”では「一戸建て（持ち家）」が半数を下回るものの、「マンション（持ち家）」も11.2%と低く、「介護老人保健施設」といった『福祉施設』が18.9%となっている。

図表 1-⑦ 住まいの形態

		調査数（n）	一戸建て（持ち家）	マンション（持ち家）	公営住宅	アパート（民間賃貸）	マンション（民間賃貸）	一戸建て（民間賃貸）	サービス付き高齢者住宅	有料老人ホーム	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	ホームヘルプ	認知症高齢者グループ	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	46.4	32.2	3.5	5.7	8.3	2.5	-	0.1					1.3	0.1
01	高齢者一般	(3,071)	57.8	27.2	4.9	2.9	3.5	2.0	0.2	0.0					0.7	1.0
03	要支援	(534)	60.3	21.2	8.1	2.6	2.4	1.9	1.5	0.7					0.7	0.6
04	要介護	(1,911)	62.6	16.7	7.3	4.0	4.1	2.5	0.8	0.1					1.4	0.6
05	未利用	(1,014)	65.9	17.9	7.6	2.6	3.0	1.6	0.5	-					0.9	0.2
06	小多機・看多機	(438)	64.4	13.2	5.7	4.8	3.9	2.3	2.5	0.9					1.4	0.9
07	定期巡回	(200)	45.5	21.0	7.0	9.5	7.0	2.5	3.5	1.0					2.5	0.5
08	特養申込者	(3,078)	41.9	11.2	6.1	5.3	2.2	1.5	1.6	4.5	14.2	0.6	4.1	5.2	1.7	

⑧ 定期的な収入の内容

問 あなた（あて名ご本人）は、定期的な収入をどこから得ていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	11	10	10	10	10	10	10	10										

定期的な収入について、“一般40～64歳”では「給与等」が81.8%と最も高く、それ以外では「公的年金や恩給」が約9割となっている。

「給与等」は、“高齢者一般”では19.4%となっているが、その他の介護認定等を受けている対象者では1～3%程度となっている。また、「定期的な収入は得ていない」は65歳以上で2～6%程度となっている。

図表 1-⑧ 定期的な収入

		調査数 (n)	(%)							
			公的年金や恩給	給与等	株式の配当	土地・家屋の家賃収入	親族等からの仕送り	その他	定期的な収入は得ていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	9.1	81.8	2.8	2.4	1.1	1.1	10.1	0.5
01	高齢者一般	(3,071)	90.5	19.4	5.7	5.6	0.6	1.5	1.9	1.7
03	要支援	(534)	93.4	3.0	2.6	6.2	1.1	2.6	2.6	1.1
04	要介護	(1,911)	92.4	1.8	2.8	5.9	1.2	3.7	2.6	1.0
05	未利用	(1,014)	91.9	3.1	3.2	5.4	1.0	2.2	2.6	1.8
06	小多機・看多機	(438)	93.2	1.4	1.4	3.9	2.1	0.7	3.0	1.8
07	定期巡回	(200)	88.0	1.0	3.0	5.0	1.5	5.0	6.0	1.0
08	特養申込者	(3,078)	89.5	1.0	0.6	3.9	2.1	5.5	2.7	2.3

⑨ 経済的な状況

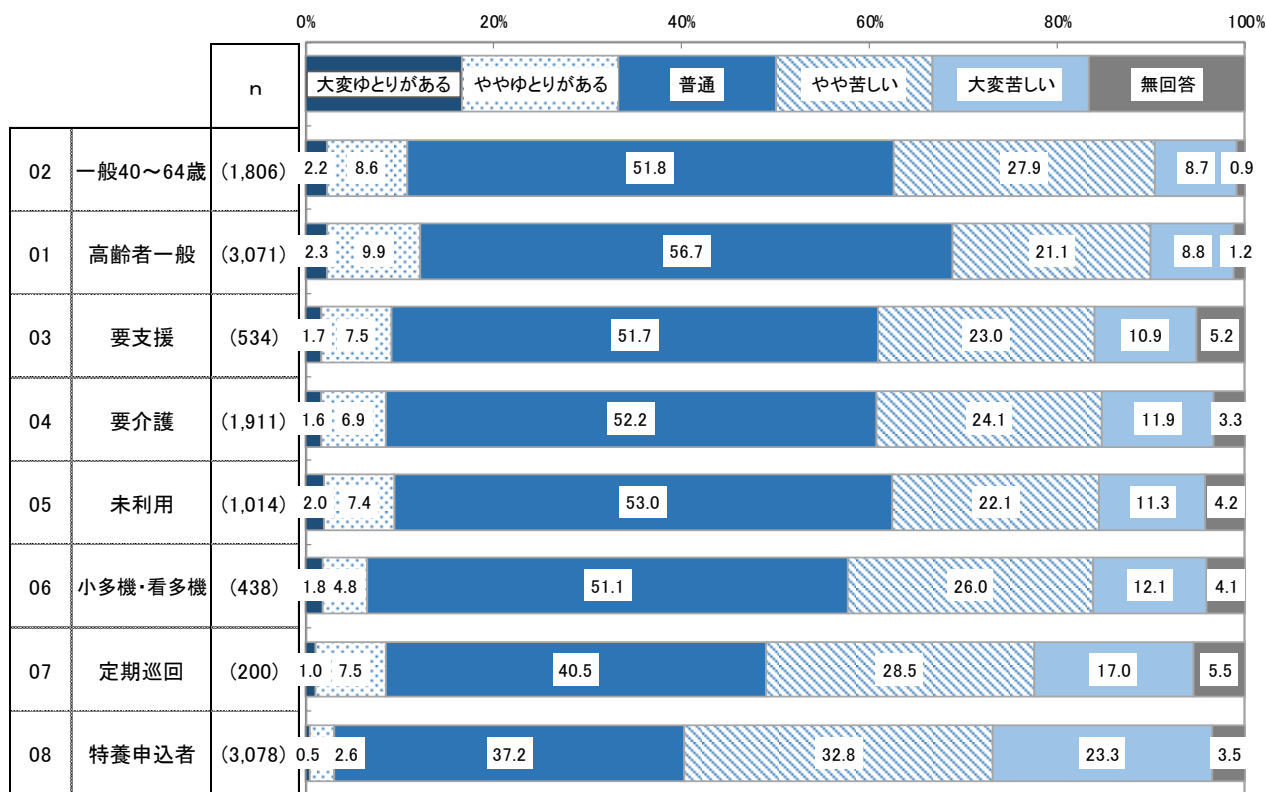
問 あなた（あて名ご本人）は、現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	17	16	16	16	16	16	16	16										

経済的な状況について、“高齢者一般”では「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」は12.2%となっており、「大変苦しい」「やや苦しい」は29.9%となっている。

また、要支援・要介護・各種サービス利用となるにつれて『ゆとりがある』は低くなり、『苦しい』が高くなっている。“特養申込者”では『ゆとりがある』は3.1%、『苦しい』は56.1%となっている。

図表 1-⑨ 経済的な状況



⑩ 事業所の所在地

問 貴事業所の所在地をお選びください。

(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号									2	3	3		3	2	F4			

介護サービス関連事業所の所在地について、“特養”は「旭区」で18.0%と多く、“老健”は「旭区」「泉区」「栄区」「都筑区」「戸塚区」「保土ヶ谷区」で10%以上となっている。また、“居住系”は「戸塚区」で11.6%となっており、他の事業所は各区で1割以下となっている。

図表 1-⑩ 事業所の所在地

		調査数 (n)	青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
09	特養	(89)	4.5	18.0	9.0	5.6	5.6	2.2	7.9	5.6	4.5	6.7
10	老健	(40)	7.5	10.0	10.0	5.0	2.5	2.5	7.5	-	12.5	2.5
11	居住系	(395)	9.6	7.3	6.8	3.3	4.8	4.3	6.3	6.3	4.3	6.6
13	居宅介護支援	(580)	7.1	7.2	5.0	6.2	5.9	4.7	6.9	8.1	2.9	4.1
14	ケアプラザ	(122)	9.0	9.8	4.9	4.9	5.7	6.6	6.6	5.7	3.3	4.1
15	認知症	(1,452)	8.5	5.6	3.5	4.0	6.7	5.7	6.5	9.7	2.8	3.2

		調査数 (n)	都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	無回答
09	特養	(89)	3.4	2.2	7.9	2.2	3.4	4.5	3.4	2.2	1.1
10	老健	(40)	10.0	-	10.0	-	-	10.0	7.5	2.5	-
11	居住系	(395)	7.3	4.1	11.6	1.8	1.3	3.8	6.1	3.5	0.8
13	居宅介護支援	(580)	4.0	6.6	8.8	5.3	2.2	5.7	4.7	4.1	0.5
14	ケアプラザ	(122)	3.3	7.4	6.6	4.9	3.3	4.1	4.9	4.9	-
15	認知症	(1,452)	5.7	6.0	6.3	7.1	4.3	4.6	3.5	4.5	1.6

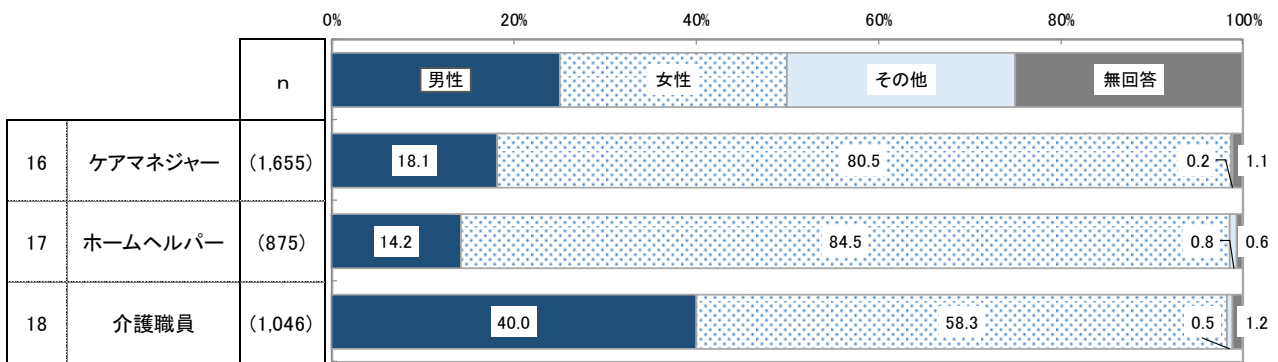
⑪ 介護サービス従事者の性別

問 あなたの性別をお選びください。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																1-1	1-1	1-1

介護サービス従事者の性別について、“ケアマネジャー”“ヘルパー”は「女性」が8割以上と大半を占めている。一方で、“介護職員”は「女性」が58.3%、「男性」が40.0%となっている。

図表 1-⑪ 従事者の性別



⑫ 介護サービス従事者の年齢

問 あなたの年齢をお選びください。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																1-2	1-2	1-2

介護サービス従事者の年齢について、“ケアマネジャー”“ホームヘルパー”では「50歳代」がボリュームゾーンとなっており、“ケアマネジャー”で38.0%、“ホームヘルパー”で33.0%となっている。

一方で、“介護職員”は「30歳代」「40歳代」が多く、合計すると57.1%となっている。

図表 1-⑫ 従事者の年齢

職業	調査数 (n)	年齢 (%)									無回答 (%)
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳代	70歳以上		
16 ケアマネジャー	(1,655)	0.1	0.2	7.0	25.9	38.0	16.4	7.7	3.8	0.9	
17 ホームヘルパー	(875)	0.2	3.7	11.1	24.5	33.0	13.1	7.7	6.3	0.5	
18 介護職員	(1,046)	0.4	18.4	27.8	29.3	14.9	4.0	3.1	0.8	1.3	

⑬ 介護サービス従事者の経験年数

問 介護サービスの仕事に関わってから（ケアマネジャー業務に従事して）の通算の経験年数は、どのくらいですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																8	7	8

介護サービス従事者の経験年数について、すべての職種で「10～20年未満」が最も高く、“ケアマネジャー”で35.8%、“ホームヘルパー”で46.9%、“介護職員”で42.8%となっている。

図表 1-⑬ 従事者の経験年数

		調査数 (n)									無回答
			1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～7年未満	7～10年未満	10～20年未満	20年以上	
16	ケアマネジャー	(1,655)	4.4	5.4	7.9	13.8	16.3	13.6	35.8	1.5	1.5
17	ホームヘルパー	(875)	2.7	2.7	4.5	6.2	12.7	15.8	46.9	7.3	1.3
18	介護職員	(1,046)	5.1	3.8	6.3	8.3	10.2	16.4	42.8	5.0	2.1

第3章

第7期計画の基本方針に基づく

結果の整理

第3章 第7期計画の基本方針に基づく結果の整理

I. 地域共生社会の実現に向けた地域づくりを目指して

1 介護予防・健康づくり

① 市民の健康感

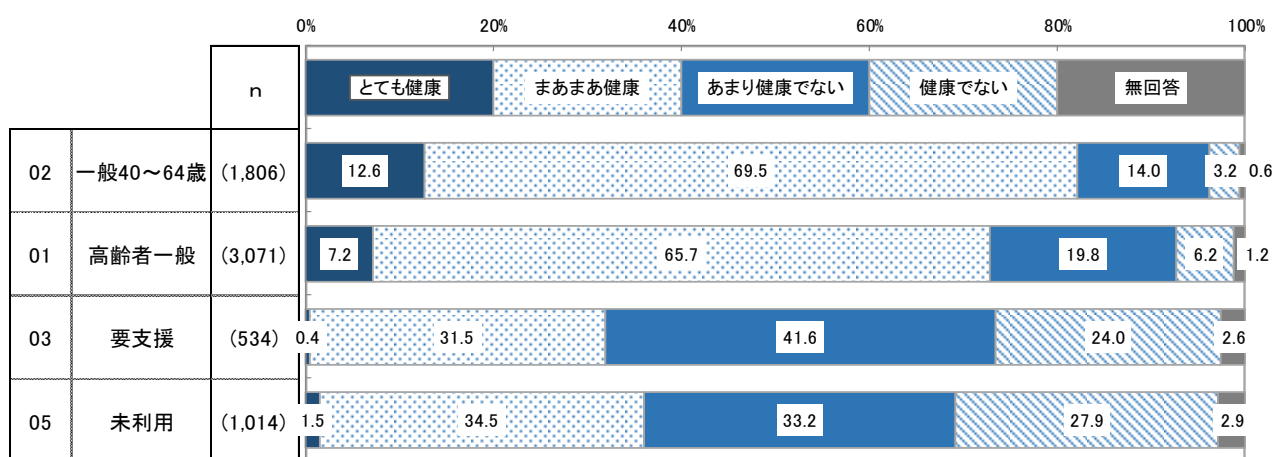
問 あなた（あて名ご本人）はふだん、ご自分で健康だと思いますか。
現在の状況に最も近いものをお選びください。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	20	19	17		17													

自身の健康感について、「とても健康」と「まあまあ健康」を合計した『健康である』は、“高齢者一般”と“一般40～64歳”では7割以上となっている。一方で、“要支援”と“未利用”では「健康でない」「あまり健康でない」の合計が6割以上となっている。

過去の結果と比較してみると、平成28年結果から大きな差はないものの、すべての対象者で『健康である』と回答する割合は低くなっている。

図表 I-1-① 市民の健康感



【経年比較（とても健康+まあまあ健康）】

		（％）		
		R1	H28	H25
		2019年	2016年	2013年
02	一般40～64歳	82.1	85.1	83.8
01	高齢者一般	72.9	73.5	74.0
03	要支援	31.9	38.4	30.7
05	未利用	36.0	36.6	29.6

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

② 生活の状態

問 あなた（あて名ご本人）の現在の状況に最も近いものをお選びください。

（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	21	20	18		18													

生活の状態について、“高齢者一般”と“一般40～64歳”では「大した病気や障害もなく、日常生活は自分で行える」と「日常生活はほぼ自立～」を合わせた値は9割以上と高くなっている。一方で、“要支援”と”未利用”では「屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない」の割合が3割以上となっている。

過去の結果と比較すると、“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに大きな差はない。

図表 I-1-② 生活の状態

		調査数 (n)	大した病気や障害もなく、日常生活は自分で行える	日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる	屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上で生活ができる	1日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替えなどの介助が必要	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	88.0	10.6	0.4	0.2	-	0.8
01	高齢者一般	(3,071)	57.8	37.1	2.4	0.3	-	2.4
03	要支援	(534)	6.6	53.9	33.9	2.8	0.2	2.6
05	未利用	(1,014)	9.7	49.6	32.1	4.2	1.3	3.1

【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
大した病気や障害もなく、日常生活は自分で行える	88.0	86.1	84.2	57.8	55.2	57.1
日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる	10.6	12.9	14.5	37.1	35.7	39.3
屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない	0.4	0.6	1.0	2.4	5.7	2.4
屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上で生活ができる	0.2	0.0	0.1	0.3	1.5	0.4
1日中ベッド上で過ごし、排せつ、食事、着替えなどの介助が必要	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

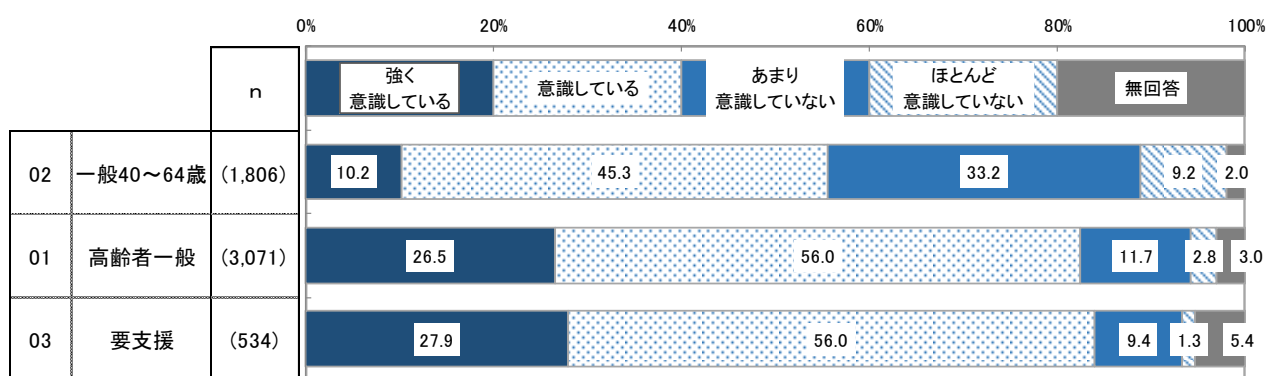
③ 介護予防の意識

問 あなた（あて名ご本人）は、普段から介護予防のためにご自分の健康の維持・増進を意識していますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	41	37	30															

介護予防の意識について、「強く意識している」と「意識している」を合計した『意識している』は、“高齢者一般”と“要支援”では8割以上となっている。一方で、“一般40～64歳”では『意識している』は55.5%となっている。

図表 I-1-③ 介護予防の意識



【経年比較（強く意識している＋意識している）】

		（％）	
		R1	H28
		2019年	2016年
02	一般40～64歳	55.5	73.7
01	高齢者一般	82.5	82.4
03	要支援	83.9	86.3

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

④ 健康・予防のための取組

問 あなた（あて名ご本人）は、普段から健康や介護予防のために取り組んでいることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	42	38	31		25													

健康や介護予防のための取組について、“高齢者一般”は「口の中を清潔にしている」が70.9%と最も高く、次いで「掃除や洗濯・調理など自分でできることは自分でする」が65.9%となっている。

“要支援”と“未利用”では「かかりつけの医師に定期的に診てもらっている」が7割以上と最も高くなっているが、“一般40～64歳”では21.8%と低くなっている。

過去の結果と比較すると、「口の中を清潔にしている」「栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事している」など口腔ケアに関する項目は“高齢者一般”“未利用”で増加傾向にある。

図表 I-1-④ 健康・予防のための取組

調査数 (n)	口の中を清潔にしている (歯みがき、うがいなど)	掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	かかりつけの医師 (主治医) に定期的に診てもらっている	年1回は健康診断を受けている	栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事している	規則的な生活を心がけている (夜更かしをしないなど)	休養や睡眠を十分にとっている	たばこをやめた、または吸っていない	かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっている	年1回は歯科健診を受けている	気持ちよくなる限り明るく保っている	ウォーキングや体操など、自分に合ったペースで定期的に運動をしている	趣味や学習を楽しむ	ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以上、定期的に運動をしている	読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組んでいる	お酒を飲みすぎない	定期的な運動をするために、よこはまウォーキングポイントの歩数計やスマホアプリで歩数を確認している	地域活動やボランティア活動に参加する	その他	特になし	無回答	(%)	
02 一般40～64歳 (1,806)	55.3	44.0	21.8	63.9	34.1	30.7	30.8	45.7	19.4	30.4	23.5	27.6	28.1	20.7	17.2	30.6	11.3	3.6	1.1	5.8	0.5		
01 高齢者一般 (3,071)	70.9	65.9	57.2	55.3	53.6	48.7	48.6	45.5	41.8	38.8	37.0	36.8	35.8	32.1	31.5	31.4	17.5	10.9	0.6	1.6	1.2		
03 要支援 (534)	68.4	65.7	76.8	42.7	46.1	42.3	46.8	38.4	42.3	34.8	36.3	29.0	21.9	22.7	30.9	23.6	7.9	3.7	1.1	2.4	1.1		
05 未利用 (1,014)	65.4	57.7	73.4	45.4	41.4	45.6	56.7	43.3	36.2	32.1	38.0	26.4	19.3	19.7	21.8	22.7	9.7	5.9	0.7	2.0	1.2		

【経年比較 (高齢者一般調査の上位5項目)】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			03 要支援			05 未利用		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
口の中を清潔にしている (歯みがき、うがいなど)	55.3	60.4	57.5	70.9	68.6	67.4	68.4	76.9	74.3	68.4	67.2	60.6
掃除や洗濯、調理など、自分でできることは自分でする	44.0			65.9			65.7			65.7		
かかりつけの医師 (主治医) に定期的に診てもらっている	21.8	33.2	32.0	57.2	60.6	60.6	76.8	80.7	78.9	76.8	72.9	73.7
年1回は健康診断を受けている	63.9	69.8	62.9	55.3	51.7	50.7	42.7	46.0	41.8	42.7	37.8	35.4
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事している	34.1	36.0	39.7	53.6	46.1	46.5	46.1	49.2	49.4	46.1	42.1	44.2

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑤ 取組のきっかけ

問 介護予防に取り組むこととなった主なきっかけは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	42-1	38-1	31-1		25-1													

健康や介護予防に取り組むきっかけについて、“高齢者一般”と“一般40～64歳”“未利用”では「以前からの習慣で、自発的に」が最も高く、特に“高齢者一般”“一般40～64歳”では5割以上となっている。“要支援”では「医師等の専門家からの指導や助言」が39.8%と最も高く、また「家族のアドバイスや一言」についても3割程度と“高齢者一般”や“一般40～64歳”に比べて高くなっている。

介護予防判定別の比較では、『リスクあり』と判定される方は、『リスクなし』に比べると「以前からの習慣で、自発的に」の割合が低くなっている。

図表 I-1-⑤ 取組のきっかけ

		調査数 (n)	以前からの習慣で、自発的に	医師等の専門家からの指導や助言	新聞やテレビなどのマスコミの情報から	検査の結果(数字など)が気になって	家族のアドバイスや一言	具体的に症状が現れたので	友人・知人からのアドバイスや一言	市の広報紙や回覧版などの情報から	となり近所の人からのアドバイスや一言	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,617)	54.7	13.5	17.0	21.3	16.1	15.2	8.1	2.0	0.2	6.9	1.8
01	高齢者一般	(2,933)	53.4	24.0	22.7	20.8	19.9	15.3	11.0	9.3	1.9	3.3	5.5
03	要支援	(507)	39.1	39.8	22.9	13.6	29.0	22.7	12.4	9.7	2.8	3.9	6.7
05	未利用	(940)	39.9	31.3	19.1	14.5	30.5	20.0	9.9	9.4	3.3	2.7	12.1

【介護予防判定別の比較 (高齢者一般調査の上位5項目)】

	02 一般40～64歳		01 高齢者一般		03 要支援	
	リスクあり	リスクなし	リスクあり	リスクなし	リスクあり	リスクなし
以前からの習慣で、自発的に	49.4	56.1	49.0	60.6	38.6	43.8
医師等の専門家からの指導や助言	17.7	12.3	25.5	21.7	40.1	37.5
新聞やテレビなどのマスコミの情報から	19.5	16.3	23.7	21.1	23.3	18.8
検査の結果(数字など)が気になって	22.1	21.1	21.9	18.9	12.9	20.8
家族のアドバイスや一言	16.0	16.1	19.7	20.2	29.6	22.9

※「介護予防判定」の分析方法についてはP.7 参照

⑥ 今後の取組見込み

問 今後、健康や介護予防に取り組みたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	42-2	38-2	31-2		25-2													

今後の健康や介護予防の取り組み意向について、“高齢者一般”や“一般40～64歳”“要支援”では、「きっかけがあれば取り組みたい」が3割以上となっており、“一般40～64歳”は「もう少し歳をとったら取り組みたい」が39.4%と最も高くなっている。

一方で、“未利用”では「取り組むつもりはない」が55.0%と最も高くなっており、“高齢者一般”“要支援”でも、3割以上が「取り組むつもりはない」としている。

介護予防判定別の比較では、『リスクあり』と判定される方は、『リスクなし』に比べると「取り組むつもりはない」が高くなっている。

図表 I-1-⑥ 今後の取組見込み

		調査数 (n)	もう少し歳をとったら取り組みたい (%)	きっかけがあれば取り組みたい (%)	その他 (%)	取り組むつもりはない (%)	無回答 (%)
02	一般40～64歳	(104)	39.4	32.7	6.7	21.2	1.9
01	高齢者一般	(48)	22.9	35.4	4.2	37.5	2.1
03	要支援	(13)	7.7	30.8	-	30.8	38.5
05	未利用	(20)	5.0	20.0	15.0	55.0	10.0

【介護予防判定別の比較】

	02 一般40～64歳		01 高齢者一般		03 要支援	
	リスクあり (%)	リスクなし (%)	リスクあり (%)	リスクなし (%)	リスクあり (%)	リスクなし (%)
もう少し歳をとったら取り組みたい	36.4	40.2	17.6	35.7	7.7	-
きっかけがあれば取り組みたい	36.4	31.7	32.4	42.9	30.8	-
その他	4.5	7.3	5.9	0.0	-	-
取り組むつもりはない	31.8	18.3	41.2	28.6	30.8	-

※「介護予防判定」の分析方法についてはP.7 参照

⑦ ロコモティブシンドロームの認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、ロコモティブシンドロームを知っていますか。
(○はひとつ)

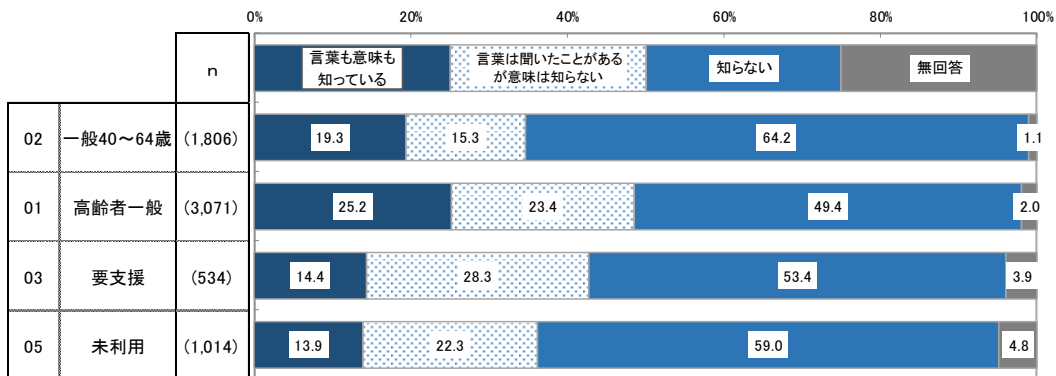
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	43	39	32		26													

ロコモティブシンドロームについて、「言葉も意味も知っている」は“高齢者一般”で25.2%、“一般40～64歳”で19.3%となっている。「知らない」は“一般40～64歳”で64.2%と大半を占めており、“要支援”“未利用”においても5割以上となっている。

過去の結果と比較すると、「言葉も意味も知っている」は“高齢者一般”では22.0%（H28調査）から25.2%（R1調査）と増加しているものの、他の調査対象では減少している。

介護予防判定別の比較では「言葉も意味も知っている」は“高齢者一般”では『リスクなし』で高く、“一般40～64歳”では『リスクあり』で高くなっている。

図表 I-1-⑦ ロコモの認知度



【経年比較（言葉も意味も知っている）】

		R1		H28	
		2019年		2016年	
02	一般(40～64歳)	19.3	23.7	19.3	23.7
01	高齢者一般	25.2	22.0	25.2	22.0
03	要支援	14.4	17.0	14.4	17.0
05	未利用	13.9	14.9	13.9	14.9

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

【介護予防判定別の比較】

	02 一般40～64歳		01 高齢者一般		03 要支援	
	リスクあり	リスクなし	リスクあり	リスクなし	リスクあり	リスクなし
言葉も意味も知っている	22.1	18.6	21.7	31.0	14.0	18.0
言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	18.2	14.5	24.2	22.1	28.7	24.0
知らない	58.2	65.9	52.1	45.1	53.7	50.0

※ 「介護予防判定」の分析方法についてはP.7参照

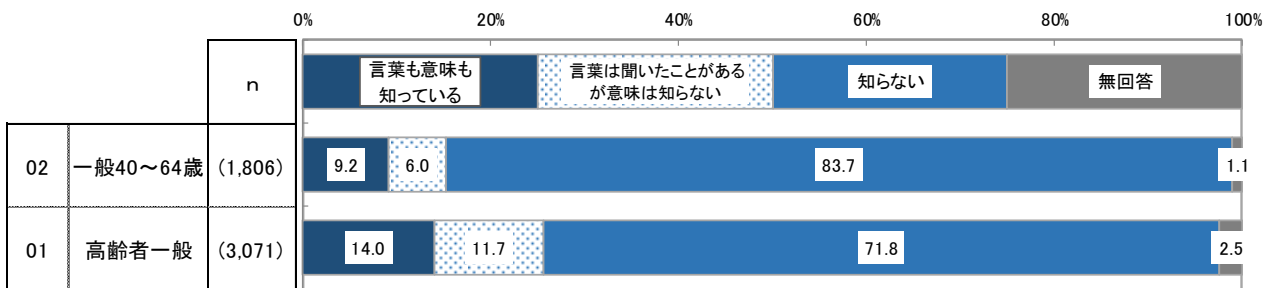
⑧ フレイルの認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、フレイルを知っていますか。 （○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	45	41																

フレイルについて、「言葉も意味も知っている」は、“高齢者一般”で14.0%、“一般40～64歳”では9.2%となっている。また、「知らない」はどちらも7割以上となっている。

図表 I-1-⑧ フレイルの認知度



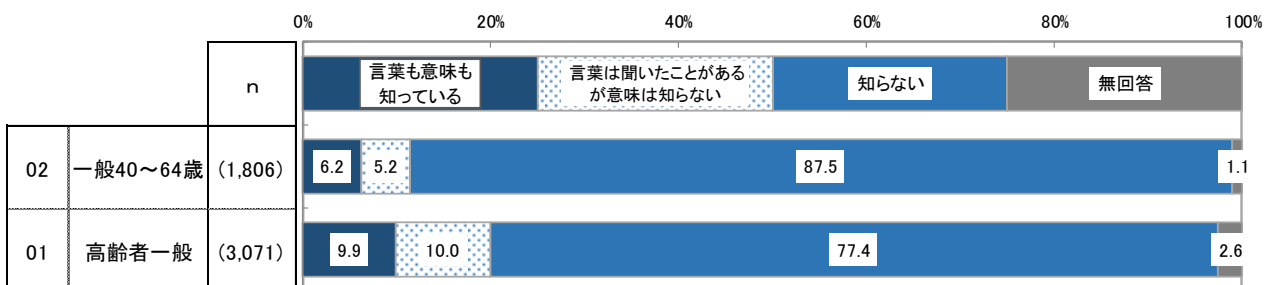
⑨ オーラルフレイルの認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、オーラルフレイルを知っていますか。 （○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	46	42																

オーラルフレイルについて、「言葉も意味も知っている」は、“高齢者一般”で9.9%、“一般40～64歳”では6.2%となっている。また、「知らない」はどちらも7割以上となっている。

図表 I-1-⑨ オーラルフレイルの認知度



2 社会参加

① 就労状況

問 あなた（あて名ご本人）は現在、仕事をしていますか。また、どのくらいの頻度ですか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	18	17																

就労状況について、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」は12.3%、「週に2～3日」は10.0%となっており、「月に数日」と合計した25.2%が、1か月に定期的に働いている。一方で、“一般40～64歳”では「ほぼ毎日」が64.5%となっている。

“高齢者一般”について、過去の結果と比較すると、「ほぼ毎日」「週に2～3日」「月に数日」の合計は、H25調査で20.4%、H28調査で21.2%、R1調査で25.2%と増加している。

また、年齢別でみると、65～69歳では、「ほぼ毎日」が26.0%となっており、「週に2～3日」「月に数日」と合計した44.2%が1か月に定期的に働いている。

図表 I-2-① 就労状況

		調査数 (n)	ほぼ毎日	週に2～3日	月に数日	頻度は決まっていない	仕事はしていない	仕事はしたいが働いていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	64.5	13.7	1.8	2.8	11.8	4.6	0.9
01	高齢者一般	(3,071)	12.3	10.0	2.9	3.6	64.7	4.9	1.5
■高齢者一般									
経年比較	R1年度 (2019年度)	(3,071)	12.3	10.0	2.9	3.6	64.7	4.9	1.5
	H28年度 (2016年度)	(2,108)	9.8	7.5	3.9	1.9	71.1	3.5	2.4
	H25年度 (2013年度)	(2,257)	9.5	6.6	4.3	3.2	74.3		2.1
年齢別比較	65～69歳	(816)	26.0	14.3	3.9	5.0	44.4	6.0	0.4
	70～74歳	(854)	11.4	12.8	3.9	3.7	60.4	6.3	1.5
	75～79歳	(754)	7.0	8.6	2.3	3.4	72.8	4.2	1.6
	80～84歳	(436)	1.8	3.2	1.1	1.6	86.2	3.2	2.8
	85～89歳	(177)	4.0	0.0	1.1	2.3	88.1	1.1	3.4
	90～94歳	(26)	3.8	3.8	0.0	0.0	88.5	3.8	0.0
	95歳以上	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

② 就労している理由

問 仕事をしている最も大きな理由は何ですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	18-2	17-2																

就労している理由について、“高齢者一般”では「生活費を得るため」が40.0%と最も高く、次いで「経済的に余裕が欲しいから」が18.0%、「生活に張りやりズムができるから」が15.9%となっている。一方で、“一般40～64歳”では「生活費を得るため」が76.0%と大半を占めている。

“高齢者一般”について、年齢別でみると、「生活費を得るため」は年齢が若い層で高い傾向にあり、65～69歳では46.0%、70～74歳では39.9%となっている。一方で、高齢になると、「生活に張りやりズムができるから」が高くなる傾向があり、80～84歳では38.2%、85～89歳では23.1%となっている。

図表 I-2-② 就労している理由

		(%)									
		調査数 (n)	生活費を得るため	経済的に余裕が欲しいから	生活に張りやりズムができるから	社会の役に立てるから	仕事の都合でやめることができないから	健康に良いから	友人が欲しいから	その他	無回答
02	一般40～64歳	(1,494)	76.0	11.2	4.7	3.4	1.1	0.4	0.0	1.3	1.9
01	高齢者一般	(885)	40.0	18.0	15.9	8.0	7.7	5.2	0.0	2.3	2.9

■高齢者一般

年齢別比較		調査数 (n)	生活費を得るため	経済的に余裕が欲しいから	生活に張りやりズムができるから	社会の役に立てるから	仕事の都合でやめることができないから	健康に良いから	友人が欲しいから	その他	無回答
	65～69歳	(402)	46.0	18.9	13.7	8.2	7.0	3.0	0.0	1.2	2.0
	70～74歳	(271)	39.9	19.9	13.7	6.6	10.3	4.4	0.0	2.6	2.6
	75～79歳	(161)	31.7	13.7	19.9	9.9	6.2	9.9	0.0	3.1	5.6
	80～84歳	(34)	14.7	20.6	38.2	8.8	2.9	11.8	0.0	0.0	2.9
	85～89歳	(13)	30.8	0.0	23.1	7.7	0.0	15.4	0.0	15.4	7.7
	90～94歳	(2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	95歳以上	(0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

③ 近所付き合いの状況

問 あなた（あて名ご本人）は、ふだん、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。
(○はひとつ)

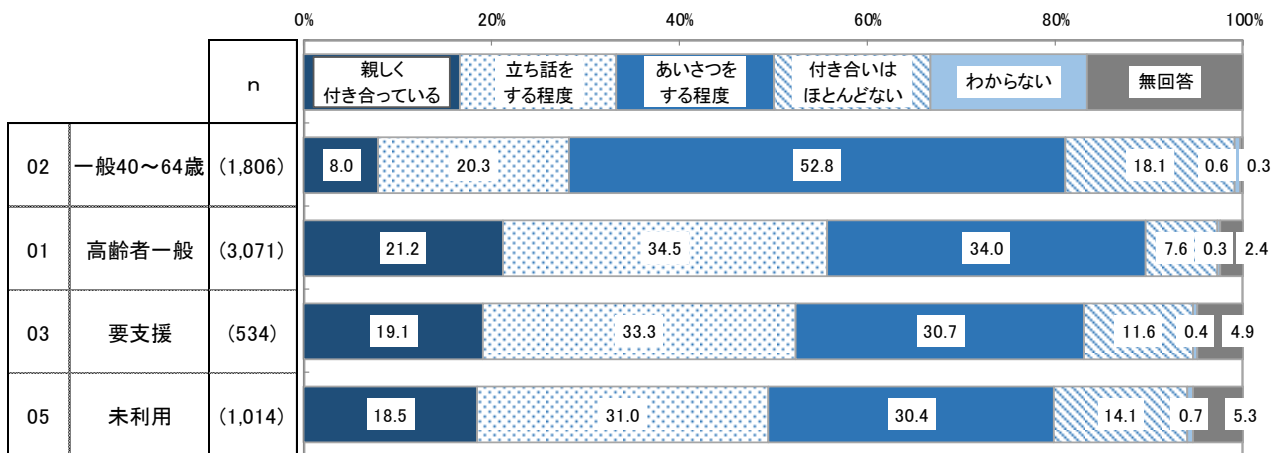
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	27	26	23		23													

近所付き合いの状況について、「親しく付き合っている」は“高齢者一般”で21.2%となっており、“要支援”“未利用”と同様に約2割となっている。一方で、“一般40～64歳”では「親しく付き合っている」は8.0%となっており、「あいさつをする程度」が52.8%と半数以上を占めている。

過去の結果と比較すると、「親しく付き合っている」はすべての調査対象で減少しており、特に“要支援”では30.9%（H28調査）から19.1%（R1調査）となっている。

また、「付き合いはほとんどない」は“一般40～64歳”で増加しており10.8%（H28調査）から18.1%（R1調査）となっている。

図表 I-2-③ 近所付き合いの状況



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			03 要支援			05 未利用		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
親しく付き合っている	8.0	9.3	11.9	21.2	23.1	30.0	19.1	30.9	35.8	18.5	26.7	26.4
立ち話をする程度	20.3	25.1	27.9	34.5	29.7	28.9	33.3	27.1	22.5	31.0	22.4	20.9
あいさつをする程度	52.8	53.7	49.7	34.0	36.7	35.3	30.7	31.1	28.5	30.4	31.4	31.0
付き合いはほとんどない	18.1	10.8	9.1	7.6	7.3	4.0	11.6	7.6	8.8	14.1	12.8	15.1
わからない	0.6	0.1	0.5	0.3	0.4	0.1	0.4	0.4	0.5	0.7	0.5	0.9

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

④ 付き合いのない理由

問 付き合いがほとんどない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	27-1	26-1																

近所付き合いがほとんどない理由について、“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに「普段付き合い機会がないから」が約7割を占めている。また、“高齢者一般”では「気の合う人が近くにいないから」が高く、“一般40～64歳”では「仕事や家事などで忙しく時間がない」が高くなっている。

年齢別でみると、「普段付き合い機会がないから」は多くの年代で高くなっている。一方で、「気の合う人が近くにいないから」は高齢になるにつれて割合が高くなる傾向があり、「仕事や家事で忙しくて時間がない」は若い年代ほど高くなる傾向がある。

図表 I-2-④ 付き合いのない理由

		調査数 (n)	普段付き合い機会がないから	ご近所と知り合うきっかけがないから	あまり関わりをもちたくないから	気の合う人が近くにいないから	仕事や家事などで忙しく時間がない	引っ越してきて間もないから	同世代の人が近くにいないから	その他	特に理由はない	わからない	無回答
02	一般40～64歳	(326)	69.9	37.1	19.9	8.9	35.0	9.8	4.9	2.5	3.1	0.9	0.6
01	高齢者一般	(232)	68.5	36.6	29.7	23.3	17.7	8.2	5.2	5.2	25.9	-	1.3

■年齢別

年齢	調査数 (n)	普段付き合い機会がないから	ご近所と知り合うきっかけがないから	あまり関わりをもちたくないから	気の合う人が近くにいないから	仕事や家事などで忙しく時間がない	引っ越してきて間もないから	同世代の人が近くにいないから	その他	特に理由はない	わからない	無回答
一般40～64歳	40～44歳 (67)	67.2	35.8	23.9	6.0	41.8	9.0	4.5	4.5	1.5	1.5	-
	45～49歳 (77)	74.0	26.0	10.4	5.2	33.8	9.1	2.6	2.6	2.6	2.6	1.3
	50～54歳 (76)	73.7	43.4	19.7	7.9	32.9	10.5	5.3	2.6	5.3	-	1.3
	55～59歳 (58)	69.0	44.8	27.6	15.5	37.9	10.3	10.3	-	1.7	-	-
	60～64歳 (47)	61.7	36.2	21.3	12.8	25.5	10.6	2.1	2.1	4.3	-	-
高齢者一般	65～69歳 (84)	70.2	36.9	27.4	19.0	28.6	11.9	8.3	6.0	21.4	0.0	0.0
	70～74歳 (64)	60.9	37.5	31.3	23.4	10.9	4.7	3.1	1.6	34.4	0.0	3.1
	75～79歳 (48)	77.1	29.2	35.4	22.9	18.8	10.4	2.1	2.1	16.7	0.0	2.1
	80～84歳 (24)	75.0	45.8	25.0	33.3	4.2	0.0	0.0	16.7	25.0	0.0	0.0
	85～89歳 (8)	62.5	62.5	37.5	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	90～94歳 (3)	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0
	95歳以上 (1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑤ 地域活動への参加状況

問 あなた（あて名ご本人）はこの1年間に、個人・団体で次のような地域活動やボランティアに参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	29	28																

この1年で参加した地域活動について、“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに「自治会町内会の活動・行事」が最も高く、次いで「体操、歩こう会、ジム等の健康・スポーツ活動」となっている。

また、「全く参加していない」は“高齢者一般”で38.8%、“一般40～64歳”で54.8%となっている。

過去の結果と比較すると、「全く参加していない」は“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに前回から低くなっている。

年齢別でみると、「全く参加していない」は高齢になるにつれて低くなる傾向があり、40～44歳で57.4%となっているが、85～89歳では35.0%となっている。

図表 I-2-⑤ 地域活動への参加状況

																（％）	
		調査数（n）	自治会町内会の活動・行事	体操、歩こう会、ゲートボール、ラニング等の健康・スポーツ活動	環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	俳句、詩吟、陶芸、美術、音楽等の文化活動	老人クラブの活動・行事	交通安全、防犯・防災等の活動	学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	家事援助、移送等の高齢者の支援活動	保育の手伝い等の子育て支援活動	その他	全く参加していない	無回答	
02	一般40～64歳	(1,806)	16.9	14.3	5.4	1.8	7.5	9.0		6.1	6.8	1.5	2.7	2.0	54.8	5.9	
01	高齢者一般	(3,071)	22.1	21.1	9.9	9.8	9.8	9.4	8.1	7.5	3.9	3.1	1.6	5.3	38.8	13.8	

【経年比較（全く参加していない）】

		（％）		
		R1	H28	H25
		2019年	2016年	2013年
02	一般40～64歳	54.8	58.2	40.8
01	高齢者一般	38.8	42.8	30.3

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

【年齢別の比較】

		調査数 (n)	自治会町内会の活動・行事	体操、歩こう会、ゲートボール、ラニング等の健康・スポーツ活動	環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	俳句、詩吟、陶芸、美術、音楽等の文化活動	老人クラブの活動・行事	交通安全、防犯・防災等の活動	学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	家事援助、移送等の高齢者の支援活動	保育の手伝い等の子育て支援活動	その他	全く参加していない	無回答
一般 40 5 6 4 歳	40～44歳	(296)	16.2	12.2	3.4	1.4	8.1	5.4		6.1	11.5	1.7	3.7	0.3	57.4	4.4
	45～49歳	(387)	18.9	15.2	4.4	1.3	10.6	8.5		8.8	11.6	0.3	2.8	1.0	54.8	5.2
	50～54歳	(408)	14.5	13.2	4.4	0.7	6.1	7.8		4.4	3.9	1.0	2.7	2.7	59.6	4.4
	55～59歳	(361)	17.5	10.5	7.5	2.2	4.2	8.3		4.2	3.6	2.5	1.7	2.5	58.2	6.1
	60～64歳	(349)	18.1	19.8	7.4	3.4	8.9	14.6		7.4	4.3	2.3	2.6	2.9	44.1	9.2
高齢者 一般	65～69歳	(816)	22.5	16.2	9.9	5.9	10.0	7.4	3.3	6.9	3.9	2.6	2.5	5.0	46.7	10.0
	70～74歳	(854)	21.7	20.8	10.7	8.7	10.8	9.0	5.9	6.2	4.1	3.5	1.4	3.9	40.0	13.1
	75～79歳	(754)	24.7	24.8	10.2	11.9	10.9	10.7	10.5	9.9	4.0	2.9	1.6	5.4	34.0	15.1
	80～84歳	(436)	20.9	25.9	9.9	12.8	7.8	11.9	14.0	8.0	3.2	3.7	0.7	7.1	33.0	15.1
	85～89歳	(177)	16.4	18.6	6.2	16.4	5.1	9.0	15.3	5.1	4.0	3.4	1.7	7.9	35.0	20.9
	90～94歳	(26)	15.4	11.5	3.8	11.5	7.7	15.4	19.2	7.7	3.8	0.0	0.0	11.5	15.4	42.3
	95歳以上	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0

⑥ 地域活動に参加したきっかけ

問 地域活動やボランティアに参加した主なきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	29-2	28-2																

地域活動やボランティアに参加したきっかけについて、“高齢者一般”では「健康でいたいから」が35.8%と最も高く、次いで「地域や社会貢献したいから」が25.6%となっている。一方で“一般40～64歳”では“地域や社会貢献したいから”が22.1%と最も高い割合となっており、次いで「内容が楽しそうだったから」が20.9%と高くなっている。

年齢別でみると、「健康でいたいから」は高齢になるにつれて割合が高くなる傾向があり、特に75歳以上の後期高齢者がボリュームゾーンとなっている。「市の広報紙や回覧版などの情報から」は70歳代で高くなっている。

図表 I-2-⑥ 地域活動に参加したきっかけ

		調査数 (n)	健康でいたいから	地域や社会貢献したいから	以前からの習慣で、自発的に	市の広報紙や回覧版などの情報から	内容が楽しそうだったから	友人・知人からのアドバイスや一言	自分の能力を活かせると思ったから	となり近所の人からのアドバイスや一言	家族のアドバイスや一言	新聞やテレビ等のマスコミの情報から	医師等の医療の専門家からの助言	ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家からの助言	その他	無回答	(%)
02	一般40～64歳	(709)	18.1	22.1	16.2	13.4	20.9	11.0	9.3	4.8	8.5	3.2	0.7	0.4	25.7	3.7	
01	高齢者一般	(1,457)	35.8	25.6	23.0	21.2	20.5	17.8	16.3	10.7	7.3	6.2	1.9	0.9	8.6	11.3	

■年齢別

年齢	調査数 (n)	割合 (%)														
		健康でいたいから	地域や社会貢献したいから	以前からの習慣で、自発的に	市の広報紙や回覧版などの情報から	内容が楽しそうだったから	友人・知人からのアドバイスや一言	自分の能力を活かせると思ったから	となり近所の人からのアドバイスや一言	家族のアドバイスや一言	新聞やテレビ等のマスコミの情報から	医師等の医療の専門家からの助言	ケアマネジャー等の福祉・介護の専門家からの助言	その他	無回答	
一般40～64歳	40～44歳	(113)	15.0	18.6	11.5	14.2	21.2	8.8	5.3	2.7	10.6	0.0	0.0	0.0	28.3	4.4
	45～49歳	(155)	14.2	20.0	15.5	9.7	20.6	11.0	7.1	3.2	9.7	2.6	0.6	0.0	37.4	1.3
	50～54歳	(147)	15.0	25.2	19.0	13.6	17.0	10.9	9.5	6.8	7.5	4.1	0.0	0.7	23.8	0.7
	55～59歳	(129)	15.5	21.7	15.5	17.8	19.4	11.6	12.4	3.9	3.9	1.6	0.0	0.8	21.7	7.8
	60～64歳	(163)	28.2	23.9	18.4	12.9	25.2	12.3	11.7	6.7	10.4	6.7	2.5	0.6	17.8	4.3
高齢者一般	65～69歳	(354)	25.4	26.3	23.4	18.9	18.6	16.4	14.7	9.9	6.2	5.1	1.4	0.3	13.6	7.6
	70～74歳	(400)	34.0	27.5	21.0	25.3	24.3	16.8	14.8	11.8	8.0	6.3	1.5	1.0	10.0	8.0
	75～79歳	(384)	41.1	26.3	22.7	22.7	20.6	19.8	19.0	11.5	6.5	7.0	1.0	0.5	5.2	13.0
	80～84歳	(226)	43.8	23.5	25.7	19.5	17.3	17.7	17.3	10.2	10.2	7.1	3.5	1.8	5.8	15.5
	85～89歳	(78)	42.3	16.7	24.4	12.8	15.4	20.5	16.7	7.7	3.8	5.1	3.8	2.6	5.1	20.5
	90～94歳	(11)	27.3	18.2	27.3	0.0	36.4	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3
	95歳以上	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

⑦ 地域にあるといい活動

問 次のうち、活動の場や、参加の機会について、地域の中にあると良いと思うものは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	30	29																

地域にあると良いと思う活動について、“高齢者一般”では「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が32.6%と最も高く、次いで「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」が21.8%となっている。一方で“一般40～64歳”では「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」が37.1%と高く、次いで「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」(29.9%)となっている。

年齢別でみると、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」は55歳から79歳で3割をこえている。また、「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」は、年齢が若い年代において高い傾向となっている。

図表 I-2-⑦ 地域にあるといい活動

		調査数 (n)	ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	パソコンやインターネットなどの学習ができる場	ちょっとした収入を得ることができる就労活動	文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	学校で子ども達の活動をサポートする機会	子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	高齢、障害者施設などでのボランティア活動	就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	農作業を中心とした仲間との活動	障害者との交流の場	地域に住んでいる外国人の方の支援活動	子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	その他	特になし	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	29.9	17.4	19.8	37.1	16.4	19.8	20.9	20.8	13.0	22.0	13.1	11.4	12.7	11.4	1.4	19.9	2.0
01	高齢者一般	(3,071)	32.6	21.8	17.8	17.0	16.2	14.8	10.4	10.2	9.6	8.0	7.6	6.7	5.6	5.0	1.9	25.5	9.7
■年齢別																			
一般40～64歳	40～44歳	(296)	24.3	17.6	14.5	37.8	14.9	20.3	29.4	30.1	12.8	16.2	16.6	13.2	15.2	17.6	1.7	21.3	0.7
	45～49歳	(387)	25.3	15.2	20.4	37.5	13.4	17.1	23.8	24.3	12.1	20.7	13.7	10.3	12.4	12.4	2.1	23.0	1.3
	50～54歳	(408)	26.7	14.7	18.9	38.7	13.7	22.8	18.4	17.4	12.3	24.8	12.3	11.5	13.5	9.3	1.7	19.4	1.0
	55～59歳	(361)	34.1	18.6	22.2	39.3	19.1	21.1	19.4	19.4	15.5	27.7	12.7	11.9	11.1	10.8	0.6	18.0	3.0
	60～64歳	(349)	39.5	22.1	22.6	31.8	21.8	18.1	15.2	14.6	12.6	19.5	10.6	10.3	12.0	8.0	0.9	18.1	3.2
高齢者一般	65～69歳	(816)	35.3	20.8	20.2	26.7	18.1	19.4	14.6	13.8	11.9	12.3	10.3	8.3	7.4	8.0	1.7	24.1	5.3
	70～74歳	(854)	35.5	21.2	19.7	20.0	15.5	15.2	11.9	10.4	9.5	9.3	8.3	6.7	6.7	4.3	1.5	25.3	7.1
	75～79歳	(754)	33.7	22.8	16.6	13.0	16.3	11.9	7.6	9.0	8.6	5.4	7.4	5.6	4.2	4.1	1.7	25.5	12.3
	80～84歳	(436)	29.4	23.9	14.9	6.9	15.1	13.8	6.9	7.6	8.0	4.6	3.4	6.9	3.9	4.1	2.8	25.2	14.0
	85～89歳	(177)	14.7	22.0	11.9	2.8	15.3	8.5	5.1	5.6	8.5	2.8	2.8	4.5	2.8	1.1	2.8	30.5	17.5
	90～94歳	(26)	7.7	11.5	3.8	0.0	11.5	7.7	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	26.9
	95歳以上	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3

⑧ 外出頻度

問 あなた（あて名ご本人）は、平日の日中には、どのくらい外出されていますか。
(○はひとつ)

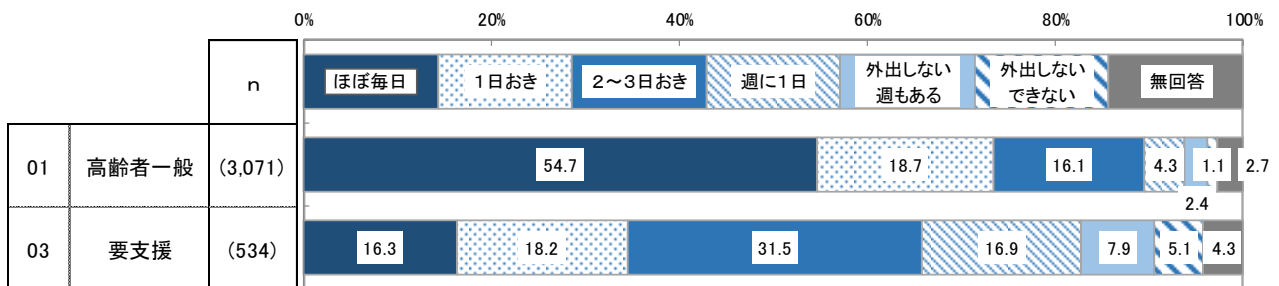
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	34		25															

日中の外出頻度について、“高齢者一般”では「ほぼ毎日」が54.7%と半数以上となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は3.5%となっている。一方、“要支援”では「ほぼ毎日」は16.3%となっており、「外出しない週もある」「外出しない・できない」の合計は13.0%となっている。

過去の結果と比較すると、外出頻度に大きな変化は見られない。

年齢別でみると、“高齢者一般”では高齢になるにつれて「ほぼ毎日」が低くなり、「2～3日おき」や「週に1日」が高くなり、外出頻度が下がる傾向にある。一方で、“要支援”では、「ほぼ毎日」は65歳から69歳で14.3%と低くなっており、加齢とともに頻度が下がる傾向はあるが、“高齢者一般”と比較するとより低い傾向にある。また、「2～3日おき」は年齢に関わらず約3割となっている。

図表 I-2-⑧ 外出頻度



【経年比較】

	01 高齢者一般			03 要支援		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
ほぼ毎日	54.7	52.8	55.5	16.3	21.2	18.9
1日おき	18.7	19.7	20.3	18.2	15.5	14.0
2～3日おき	16.1	15.6	14.1	31.5	32.0	31.9
週に1日	4.3	4.2	4.2	16.9	13.4	16.5
外出しない週もある	2.4	3.0	2.9	7.9	9.3	9.4
外出しない・できない	1.1	2.5	0.7	5.1	6.5	5.3

【年齢別の比較】

			(%)						
		調査数 (n)	ほぼ毎日	1日おき	2～3日おき	週に1日	外出しない週もある	外出しない・できない	無回答
高齢者一般	65～69歳	(816)	67.6	15.1	10.5	2.5	1.7	0.6	2.0
	70～74歳	(854)	58.7	17.6	14.9	3.6	2.2	0.9	2.1
	75～79歳	(754)	50.7	21.2	18.7	4.6	2.0	0.8	2.0
	80～84歳	(436)	40.6	23.2	21.1	5.5	3.9	1.1	4.6
	85～89歳	(177)	33.3	20.3	24.9	9.6	5.1	1.7	5.1
	90～94歳	(26)	23.1	3.8	11.5	19.2	3.8	23.1	15.4
	95歳以上	(3)	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
要支援	65歳未満	(10)	40.0	10.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(21)	14.3	14.3	33.3	19.0	19.0	0.0	0.0
	70～74歳	(40)	35.0	15.0	30.0	10.0	7.5	0.0	2.5
	75～79歳	(81)	24.7	17.3	29.6	14.8	7.4	4.9	1.2
	80～84歳	(151)	15.2	21.2	31.8	14.6	4.6	7.3	5.3
	85～89歳	(144)	11.8	20.1	29.2	16.0	11.8	4.9	6.3
	90～94歳	(71)	8.5	15.5	33.8	26.8	5.6	5.6	4.2
	95歳以上	(13)	0.0	0.0	46.2	38.5	7.7	7.7	0.0

⑨ 外出目的

問 平日の外出の主な目的は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	34-1		25-1															

外出の主な目的について、“高齢者一般”では外出目的は「買い物」が77.8%と最も割合が高く、“要支援”では「通院やリハビリ」が71.9%と最も高くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では「買い物」はすべての年代で高くなっており、一方で「通院やリハビリ」は高齢になるにつれて高くなっている。

“要支援”では、「通院やリハビリ」はすべての年代で高くなっており、「趣味活動」はすべての年代で“高齢者一般”に比べると低くなっている。

図表 I-2-⑨ 外出目的

		(%)										
調査票番号	調査対象	調査数 (n)	買い物	散歩	趣味活動	通院やリハビリ	友人・知人と会う	仕事	身内の者と会う	ボランティア活動	その他	無回答
01	高齢者一般	(2,954)	77.8	43.3	39.0	36.4	31.5	25.0	13.8	7.7	4.6	1.5
03	要支援	(484)	62.6	27.7	19.6	71.9	13.4	3.1	8.5	1.7	3.7	2.5

■年齢別

	年齢	調査数 (n)										
			買い物	散歩	趣味活動	通院やリハビリ	友人・知人と会う	仕事	身内の者と会う	ボランティア活動	その他	無回答
高齢者一般	65～69歳	(795)	75.7	37.6	36.9	26.2	30.3	43.3	14.1	6.3	5.4	0.9
	70～74歳	(828)	78.3	43.7	41.5	31.5	33.0	27.3	14.6	9.9	4.2	1.4
	75～79歳	(733)	80.2	46.8	40.7	41.9	33.0	17.5	13.8	7.6	4.4	1.8
	80～84歳	(411)	79.8	47.7	37.0	49.4	31.9	7.8	13.1	7.5	4.9	1.7
	85～89歳	(165)	71.5	43.6	35.8	50.3	24.2	4.8	11.5	4.8	3.6	3.6
	90～94歳	(16)	56.3	25.0	31.3	50.0	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
	95歳以上	(2)	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援	65歳未満	(10)	40.0	40.0	10.0	70.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	65～69歳	(21)	61.9	23.8	19.0	85.7	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	(39)	53.8	25.6	23.1	69.2	17.9	12.8	7.7	5.1	0.0	5.1
	75～79歳	(76)	65.8	31.6	25.0	72.4	14.5	2.6	9.2	3.9	2.6	1.3
	80～84歳	(132)	69.7	28.0	22.7	72.0	18.9	2.3	9.8	2.3	2.3	3.0
	85～89歳	(128)	60.2	24.2	18.0	71.9	11.7	2.3	6.3	0.0	4.7	2.3
	90～94歳	(64)	57.8	28.1	14.1	70.3	6.3	0.0	10.9	0.0	6.3	3.1
	95歳以上	(12)	66.7	33.3	0.0	58.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0

⑩ 移動手段

問 あなた（あて名ご本人）が、ふだん外出する手段はどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	34-3		25-3															

外出時の移動手段について、“高齢者一般”では「徒歩」が73.3%と最も高く、次いで「バス」が63.1%となっている。一方で、“要支援”では「徒歩」（62.0%）や「バス」（60.3%）が高いものの、“高齢者一般”と比べて「自分で運転する自動車・バイク」が低くなり、「タクシー」「送迎サービス」が高くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”では、高齢になるにつれて「自分で運転する自動車・バイク」が低くなり、85～89歳で12.1%となっている。一方で、“要支援”では、高齢になるにつれて「タクシー」が高くなっている。

図表 I-2-⑩ 移動手段

		調査数 (n)	徒歩	バス	私鉄	JR	市営地下鉄	自分で運転する自動車・バイク	家族等が運転する自動車	自転車	タクシー	金沢シーサイドライン	送迎サービス	その他	無回答
01	高齢者一般	(2,954)	73.3	63.1	37.8	35.3	33.7	32.9	17.8	15.3	8.1	3.9	0.3	0.4	2.5
03	要支援	(484)	62.0	60.3	19.6	15.5	21.7	6.2	21.9	2.9	36.8	2.9	34.3	1.9	0.8

■年齢別

高齢者一般	65～69歳	(795)	74.0	48.7	42.1	42.6	21.6	44.4	18.0	18.6	4.8	2.3	0.3	0.4	2.8
	70～74歳	(828)	75.6	62.4	40.6	35.6	37.9	38.2	16.8	19.1	5.0	3.7	0.2	0.5	1.8
	75～79歳	(733)	71.5	69.3	33.8	31.7	41.1	29.6	18.3	12.7	8.6	5.6	0.3	0.5	3.1
	80～84歳	(411)	72.7	75.7	34.8	31.6	38.0	15.8	17.3	9.7	14.6	4.9	0.7	0.0	2.4
	85～89歳	(165)	67.3	75.8	29.1	26.1	27.3	12.1	19.4	6.7	19.4	3.0	0.0	0.6	1.8
	90～94歳	(16)	87.5	81.3	43.8	18.8	31.3	0.0	31.3	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0	0.0
	95歳以上	(2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援	65歳未満	(10)	80.0	80.0	30.0	40.0	60.0	-	-	-	20.0	-	20.0	10.0	-
	65～69歳	(21)	57.1	57.1	28.6	14.3	23.8	4.8	28.6	4.8	28.6	-	38.1	4.8	-
	70～74歳	(39)	59.0	59.0	10.3	7.7	12.8	23.1	5.1	5.1	17.9	5.1	30.8	-	2.6
	75～79歳	(76)	65.8	67.1	27.6	23.7	31.6	11.8	22.4	3.9	31.6	2.6	31.6	-	-
	80～84歳	(132)	65.2	67.4	19.7	16.7	25.0	5.3	23.5	3.0	40.2	3.8	33.3	1.5	0.8
	85～89歳	(128)	58.6	57.8	18.8	16.4	17.2	1.6	20.3	1.6	42.2	2.3	37.5	2.3	1.6
	90～94歳	(64)	60.9	45.3	17.2	6.3	14.1	3.1	31.3	-	43.8	3.1	34.4	1.6	-
95歳以上	(12)	41.7	33.3	-	-	-	-	33.3	16.7	33.3	-	41.7	8.3	-	

⑪ 敬老パスの所持状況

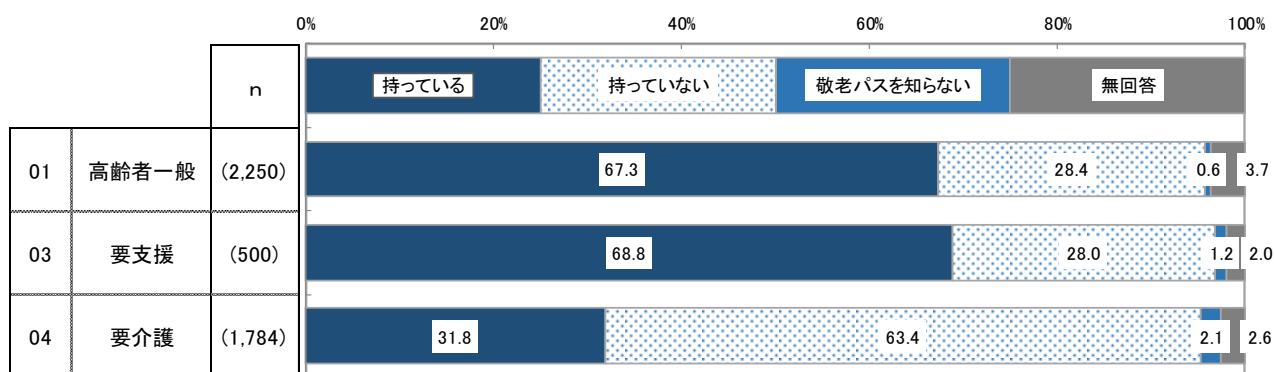
問 あなたは、敬老パス（横浜市敬老特別乗車証）を持っていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	35		27	22														

敬老パスの所持について、“高齢者一般”と“要支援”では「持っている」が約7割となっており、“要介護”では31.8%となっている。

過去の結果と比較すると、敬老パスの所持状況・認知状況に変化は見られない。

図表 I-2-⑪ 敬老パスの所持状況



【経年比較】

	01 高齢者一般 (%)	
	R1	H28
	2019年	2016年
持っている	67.3	68.3
持っていない	28.4	28.8
敬老パスを知らない	0.6	0.6

⑫ 外出時に困ること

問 あなた（あて名ご本人）は、外出することについてどのようにお考えですか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	38		26															

外出時に困ることについて、“高齢者一般”では「特に負担は感じない」が81.4%と大半を占めており、「外出するより、家にいて過ごす方が好き」が12.3%となっている。

一方で、“要支援”では、「特に負担は感じない」は42.3%と“高齢者一般”に比べると低くなっており、「外出はなんとなくおっくうである・好きではない」が26.0%、「自宅の周りに坂や段差が多いので、外出するのが負担に感じる」が23.8%となっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”“要支援”ともに高齢になるにつれて「特に負担は感じない」が低くなる傾向がある。

図表 I-2-⑫ 外出時に困ること

		調査数 (n)	外出するより、家にいて過ごす方が好き	行く場所や用事もないので外出したいとは思わない	外出は、なんとなくおっくうである・好きではない	自宅の周りに坂や段差が多いので、外出するのが負担に感じる	トイレの心配（失禁など）があり、外出するのが負担に感じる	身体が不自由、あるいは健康面で不安なので、外出しように思わない・したくてもできない	交通が不便なので、外出するのが負担に感じる	外での楽しみがない	その他	特に負担には感じない	無回答 (%)
01	高齢者一般	(3,071)	12.3	8.5	7.9	6.8	4.3	2.9	2.5	2.0	2.1	81.4	3.5
03	要支援	(534)	22.3	17.2	26.0	23.8	14.2	22.1	9.6	6.0	4.7	42.3	3.0

■年齢別

	年齢	調査数 (n)	外出時に困ること										特に負担には感じない (%)	無回答 (%)
			外出するより、家にいて過ごす方が好き	行く場所や用事もないので外出したいとは思わない	外出は、なんとなくおっくうである・好きではない	自宅の周りに坂や段差が多いので、外出するのが負担に感じる	トイレの心配（失禁など）があり、外出するのが負担に感じる	身体が不自由、あるいは健康面で不安なので、外出しように思わない・したくてもできない	交通が不便なので、外出するのが負担に感じる	外での楽しみがない	その他			
高齢者一般	65～69歳	(816)	12.7	6.0	5.8	3.3	2.3	1.1	2.1	1.0	1.6	86.0	3.4	
	70～74歳	(854)	13.0	9.4	6.1	4.2	2.8	2.2	1.3	1.9	1.2	85.7	2.5	
	75～79歳	(754)	9.5	7.8	8.4	9.0	6.2	3.3	2.8	2.1	2.8	80.5	4.0	
	80～84歳	(436)	12.4	11.0	11.7	9.6	6.2	4.1	3.9	3.7	2.3	76.6	3.9	
	85～89歳	(177)	14.1	7.9	12.4	16.4	6.2	7.9	5.1	2.3	5.1	62.7	6.8	
	90～94歳	(26)	34.6	38.5	26.9	19.2	11.5	19.2	3.8	7.7	0.0	42.3	0.0	
	95歳以上	(3)	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	
要支援	65歳未満	(10)	30.0	10.0	10.0	30.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	65～69歳	(21)	14.3	9.5	23.8	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	9.5	33.3	9.5	
	70～74歳	(40)	17.5	12.5	20.0	17.5	15.0	20.0	5.0	10.0	0.0	65.0	2.5	
	75～79歳	(81)	25.9	18.5	17.3	21.0	12.3	17.3	7.4	3.7	4.9	44.4	1.2	
	80～84歳	(151)	18.5	15.2	29.1	25.2	16.6	23.2	12.6	6.0	4.6	43.7	4.0	
	85～89歳	(144)	24.3	18.8	29.9	29.2	10.4	23.6	8.3	7.6	7.6	36.1	3.5	
	90～94歳	(71)	21.1	21.1	29.6	19.7	18.3	22.5	12.7	4.2	1.4	39.4	0.0	
95歳以上	(13)	53.8	30.8	23.1	23.1	15.4	15.4	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0		

⑬ ボランティアの受け入れ頻度

問 ボランティアの受け入れ頻度とよこはまシニアボランティアポイント事業の実施状況について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									44	43	42							

よこはまシニアボランティアの施設での受け入れ状況について、“特養”では「週1日程度」が36.0%と最も高く、“老健”では「週1日程度」と「月2回程度」がそれぞれ25.0%となっている。一方で“居住系”では「受け入れていない」が33.7%と最も高くなっている。

その他のボランティアの受け入れ状況について、「週1日程度」が“特養”では22.5%、“老健”では27.5%となっている。“居住系”では「受け入れていない」が33.7%と最も高くなっている。

図表 I-2-⑬ ボランティアの受け入れ頻度
【よこはまシニアボランティアポイント事業】

		調査数 (n)	(%)						
			ほぼ毎日	週1日程度	月2回程度	月1回程度	その他	受け入れていない	無回答
09	特養	(89)	21.3	36.0	13.5	13.5	9.0	7.9	19.1
10	老健	(40)	15.0	25.0	25.0	2.5	7.5	2.5	22.5
11	居住系	(395)	0.3	2.8	2.5	4.3	4.1	33.7	52.4

【その他のボランティア】

		調査数 (n)	(%)						
			ほぼ毎日	週1日程度	月2回程度	月1回程度	その他	受け入れていない	無回答
09	特養	(89)	10.1	22.5	14.6	10.1	5.6	7.9	38.2
10	老健	(40)	10.0	27.5	7.5	20.0	7.5	2.5	40.0
11	居住系	(395)	0.5	9.6	7.8	15.4	11.1	33.7	25.3

3 生活支援

① 心配・悩みごと

問 あなた（あて名ご本人）は、現在次のような心配ごとや悩みがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	24	23	20	19	20													

心配や悩み事について、“一般 40～64 歳”を除くすべての調査対象で「自分の健康のこと」が最も高く 6 割以上の大半を占めている。一方で、“一般 40～64 歳”では「親族の健康のこと」が 51.1% と最も高く、「生活費等経済的なこと」(36.1%) と「時間的なゆとりがないこと」(18.2%) が他の調査対象に比べて高くなっている。

過去の結果と比較すると、“一般 40～64 歳”において「生活費等経済的なこと」が 26.7% (H28 調査) から 36.1% (R1 調査) と高くなっている。

図表 I-3-① 心配・悩みごと

		調査数 (n)	自分の健康のこと	親族の健康のこと	生活費等経済的なこと	ひとり暮らしや孤独になること	病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	精神的なゆとりがないこと	時間的なゆとりがないこと	趣味や生きがいがないこと	安心して住める場所がないこと	その他	心配ごとや悩みはない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	47.5	51.1	36.1	11.5	9.4	14.6	18.2	7.7	4.3	5.3	13.0	0.9
01	高齢者一般	(3,071)	61.0	37.3	23.0	9.7	7.9	6.0	4.6	4.4	2.3	4.8	14.1	3.6
03	要支援	(534)	80.1	29.0	21.9	18.0	18.5	9.0	2.8	9.0	1.3	5.1	3.4	3.0
04	要介護	(1,911)	73.5	30.4	25.3	14.8	8.3	11.3	2.2	14.2	3.1	6.5	7.8	4.1
05	未利用	(1,014)	76.7	34.5	21.8	14.9	14.4	10.2	3.4	11.1	2.3	5.0	5.9	3.0

【経年比較（高齢者一般の上位5項目+心配ごとやなやみはない）】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			03 要支援			04 要介護			05 未利用		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
自分の健康のこと	47.5	47.7	48.5	61.0	62.0	62.2	80.1	75.6	75.6	73.5	72.8	74.4	76.7	72.2	68.5
親族の健康のこと	51.1	48.0	47.6	37.3	39.2	40.5	29.0	35.2	31.9	30.4	29.4	30.6	34.5	32.9	33.8
生活費等経済的なこと	36.1	26.7	31.7	23.0	23.0	21.5	21.9	21.4	18.1	25.3	24.5	22.5	21.8	22.1	20.1
ひとり暮らしや孤独になること	11.5	9.0	12.0	9.7	12.7	12.6	18.0	20.6	17.2	14.8	16.4	17.1	14.9	14.5	16.4
病気などのときに面倒を見てくれる人がいないこと	9.4	7.6	8.2	7.9	10.5	9.9	18.5	17.6	23.7	8.3	11.3	10.9	14.4	13.0	15.1
心配ごとや悩みはない	13.0	14.9	13.6	14.1	13.3	12.1	3.4	5.1	6.5	7.8	8.1	6.3	5.9	8.1	6.5

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

② 悩みごとの相談相手

問 あなた（あて名ご本人）は、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり、相談したりしますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	24-1	23-1	20-1	19-1	20-1													

心配や悩み事の相談相手について、“高齢者一般”“一般40～64歳”では「配偶者」が最も高く5割以上となっている。一方で、“要支援”“要介護”“未利用”では「子ども」が最も高くなっている。

「かかりつけの医師」については、“一般40～64歳”は11.4%となっており、他の調査対象に比べて低くなっている。また、「地域包括支援センター」は“要支援”“要介護”で約2割となっているものの、他の調査では低くなっている。

年齢別でみると、“高齢者一般”“一般40～64歳”では高齢になるにつれて「子ども」「かかりつけの医師」が高くなり、「友人・知人」「その他の家族・親族」が低くなる傾向がある。

“要支援”“要介護”“未利用”では、“要支援”は他の2種に比べてほぼ全年代で「配偶者」が低くなっている。

図表 I-3-② 悩みごとの相談相手

		調査数 (n)	配偶者	子ども	かかりつけの医師	友人・知人	その他の家族・親族	市や区の相談窓口	となり近所の人	地域包括支援センター	民生委員・児童委員	自治会や町内会の役員	その他	相談したりする人はいない	無回答
02	一般40～64歳	(1,554)	56.5	21.9	11.4	38.7	32.8	1.5	1.5	1.0	0.1	0.2	3.5	8.0	8.9
01	高齢者一般	(2,526)	54.2	50.3	25.6	24.1	16.3	3.6	2.9	2.9	1.5	0.8	1.6	5.3	8.9
03	要支援	(500)	30.0	61.2	31.8	16.2	17.2	3.2	5.6	22.6	4.6	1.0	2.2	2.0	6.8
04	要介護	(1,683)	38.9	62.4	33.6	7.7	13.7	2.4	2.7	20.0	3.1	1.2	8.1	1.8	5.1
05	未利用	(924)	45.5	60.9	31.0	13.2	14.0	5.0	4.1	13.1	4.2	1.1	1.7	4.9	6.4

■年齢別

40～64歳	40～44歳	(243)	51.0	8.2	7.0	44.0	49.0	1.2	0.8	0.4	0.0	0.0	5.3	9.5	6.6
	45～49歳	(331)	56.5	11.5	9.4	39.9	37.5	0.6	0.6	0.0	0.0	0.3	3.0	10.0	9.4
	50～54歳	(358)	58.1	22.3	10.6	37.4	31.6	1.1	2.5	1.1	0.0	0.3	3.1	7.0	8.7
	55～59歳	(317)	58.7	33.1	12.3	38.5	30.9	1.9	1.3	2.2	0.3	0.0	2.8	6.6	8.5
	60～64歳	(302)	57.0	32.1	17.2	35.1	18.5	3.0	2.0	1.0	0.3	0.3	4.0	7.6	10.3
高齢者一般	65～69歳	(685)	58.7	40.0	20.6	29.6	21.3	2.9	1.6	1.3	0.3	0.3	2.0	5.5	9.5
	70～74歳	(693)	56.0	48.6	24.0	27.4	15.2	2.7	2.0	1.4	0.6	0.4	1.3	6.9	9.8
	75～79歳	(621)	53.5	55.1	27.1	22.1	16.7	4.0	4.2	3.2	2.1	1.3	1.4	4.5	8.5
	80～84歳	(354)	51.1	59.3	30.5	15.5	11.0	5.1	4.8	6.5	3.7	1.4	0.8	3.7	8.5
	85～89歳	(145)	40.0	61.4	37.2	13.8	9.0	6.9	3.4	6.9	3.4	2.1	3.4	4.1	5.5
	90～94歳	(21)	33.3	61.9	33.3	14.3	14.3	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8
	95歳以上	(3)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年齢別の比較】

		(%)													
		調査数 (n)	配偶者	子ども	かかりつけの 医師	友人・知人	その他の家族・ 親族	市や区の 相談窓口	となり近所 の人	地域包括 支援セン ター	民生委員・ 児童委員	自治会や 町内会の 役員	その他	相談した りする人 はいない	無回 答
要 支 援	65歳未満	(9)	33.3	0.0	22.2	33.3	22.2	22.2	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1
	65～69歳	(20)	50.0	35.0	25.0	25.0	25.0	10.0	5.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	70～74歳	(36)	36.1	55.6	36.1	30.6	22.2	0.0	13.9	25.0	2.8	0.0	0.0	2.8	5.6
	75～79歳	(76)	36.8	51.3	32.9	23.7	18.4	3.9	1.3	19.7	2.6	0.0	5.3	3.9	10.5
	80～84歳	(140)	29.3	60.0	30.0	15.7	16.4	3.6	5.7	25.7	6.4	2.1	2.1	1.4	10.7
	85～89歳	(138)	29.7	72.5	30.4	8.7	10.1	2.9	4.3	21.7	5.1	0.7	2.2	1.4	2.2
	90～94歳	(67)	14.9	67.2	37.3	14.9	26.9	0.0	10.4	20.9	4.5	1.5	1.5	3.0	1.5
	95歳以上	(12)	16.7	83.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
要 介 護	65歳未満	(48)	60.4	31.3	33.3	20.8	29.2	0.0	2.1	14.6	4.2	0.0	12.5	4.2	2.1
	65～69歳	(66)	51.5	40.9	33.3	13.6	21.2	4.5	0.0	16.7	1.5	0.0	21.2	3.0	4.5
	70～74歳	(146)	52.1	39.0	37.7	10.3	13.0	4.1	2.7	19.9	0.7	0.7	9.6	5.5	9.6
	75～79歳	(282)	52.5	58.2	34.4	8.9	11.7	2.5	2.8	22.3	3.2	1.8	8.9	1.4	6.4
	80～84歳	(374)	44.4	61.5	32.1	7.5	12.6	2.4	3.2	22.5	4.8	1.1	8.6	0.8	4.5
	85～89歳	(394)	34.3	68.5	34.0	7.4	14.0	2.3	1.8	16.2	3.0	2.5	6.6	0.8	3.8
	90～94歳	(262)	20.2	77.5	30.9	4.6	13.7	1.9	4.6	23.3	2.7	0.4	6.5	1.9	3.8
	95歳以上	(107)	11.2	75.7	36.4	1.9	12.1	1.9	0.9	16.8	2.8	0.0	2.8	2.8	7.5
未 利 用 者	65歳未満	(23)	60.9	39.1	8.7	34.8	47.8	4.3	4.3	17.4	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3
	65～69歳	(24)	58.3	33.3	29.2	16.7	16.7	0.0	4.2	8.3	0.0	0.0	0.0	12.5	8.3
	70～74歳	(105)	50.5	49.5	24.8	20.0	16.2	4.8	2.9	5.7	2.9	1.9	4.8	3.8	12.4
	75～79歳	(169)	57.4	55.0	34.3	17.8	11.8	9.5	5.3	18.9	4.1	2.4	1.8	4.1	4.1
	80～84歳	(270)	44.4	64.8	32.2	10.4	12.6	5.2	4.8	14.8	5.6	1.1	1.1	6.7	6.3
	85～89歳	(221)	41.6	68.8	33.5	9.0	13.6	4.1	3.6	13.1	4.5	0.5	0.9	4.5	5.9
	90～94歳	(99)	27.3	67.7	28.3	10.1	11.1	0.0	3.0	7.1	4.0	0.0	2.0	2.0	5.1
	95歳以上	(12)	25.0	58.3	33.3	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0

③ 現在、治療中の病気やけが

問 あなた（あて名ご本人）は、以下の中で現在、治療中の病気やけがはありますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	25	24	21	20	21													

治療中の病気やけがについて、すべての調査種別で「高血圧症」が最も高く、「高齢者一般」では39.6%、「要支援」では52.2%となっている。

“要介護”では「高血圧症」に次いで「認知症」が29.1%となっている。一方で、“一般40～64歳”では「特にない」が46.8%となっている。

図表 I-3-③ 治療中の病気やけが

	(%)				
	02 一 般 4 0 ～ 6 4 歳	01 高 齢 者 一 般	03 要 支 援	04 要 介 護	05 未 利 用
調査数(n)	(1,806)	(3,071)	(534)	(1,911)	(1,014)
高血圧症	13.1	39.6	52.2	43.8	46.0
目の病気 (白内障など)	5.5	20.8	28.3	24.0	28.1
お口の病気 (むし歯、歯周病、入れ歯など)	10.4	20.2	31.3	23.2	25.9
脂質異常症 (高コレステロール血症、中性脂肪など)	11.5	19.1	15.2	11.7	14.8
腰痛症	6.9	16.2	35.8	19.9	30.3
糖尿病	4.6	12.3	15.0	17.8	17.0
関節症 (膝・股関節など)	3.5	11.3	25.5	14.1	23.3
泌尿器の病気 (腎臓病、前立腺肥大など)	1.2	9.2	15.5	15.7	18.0
消化器の病気 (胃炎、肝炎など)	3.7	7.7	8.8	8.5	11.0
骨粗しょう症	0.8	7.6	21.9	16.2	17.2
耳の病気(難聴など)	1.7	7.4	17.6	13.9	17.5
狭心症・心筋梗塞	1.4	6.4	13.9	11.6	12.6
がん	2.2	5.2	7.9	7.2	12.0
呼吸器の病気 (ぜん息、慢性閉塞性肺疾患など)	3.3	4.6	6.4	6.9	8.0
動脈硬化症	0.3	3.0	7.1	5.3	5.0
脳血管疾患 (脳出血、脳梗塞など)	1.0	2.9	9.2	16.9	8.9
鼻の病気	2.1	2.8	4.5	2.8	4.3
リウマチ	0.9	1.7	6.0	3.3	4.5
心の病気	3.7	1.5	3.9	4.7	4.8
骨折・外傷	0.8	1.4	6.7	8.0	7.6
認知症	0.0	0.6	3.7	29.1	11.4
その他	8.5	6.1	9.6	11.1	6.9
特にない	46.8	13.7	1.7	2.7	2.7
無回答	2.8	2.7	2.4	2.2	1.5

④ 今後必要になる生活支援

問 今後必要と考える活動やサービスはありますか。 (〇は5つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号			39	36	33													

要介護認定者が今後必要だと考える生活支援のサービス等について、“要支援”“未利用”では「通いの場」が最も高くなっており、次いで「通院・福祉施設・役所への送迎」となっている。

一方で、“要介護”では「緊急時の通報システム」が19.2%と最も高くなっている。

図表 I-3-④ 今後必要になる生活支援

		(%)																
	調査数 (n)	通いの場	通院・福祉施設・役所への送迎	緊急時の通報システム	生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	通いの場への送迎	ごみ出し	見守り・安否確認	栄養改善を目的とした配食	訪問による理美容	通院・福祉施設・役所への送迎前後の付き添い	介護等が必要になった場合の住宅改造	歯科などの訪問診療	紙おむつの購入	話し相手	その他	特になし	無回答
03	要支援 (534)	23.2	22.1	19.7	19.7	15.7	12.7	11.8	8.8	8.8	7.5	6.7	6.2	5.1	3.9	2.1	16.7	13.3
04	要介護 (1,911)	12.9	18.8	19.2	13.9	11.1	9.0	10.8	9.7	15.3	11.5	7.1	15.8	14.2	9.6	2.4	22.0	10.3
05	未利用 (1,014)	24.2	21.0	18.2	19.9	15.6	10.4	10.9	9.3	7.2	10.0	11.5	6.7	5.6	5.0	2.4	20.1	12.1

⑤ 今後必要になる生活支援（施設）

問 所管する圏域で、今後充実が必要だと思う活動やサービスはありますか。（〇は5つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号												30		14		27		

介護サービス事業者や従事者が今後必要だと考える生活支援のサービス等について、“介護事業所”では「見守り・安否確認」が20.4%と最も高くなっている。

一方で、“ケアプラザ”“ケアマネジャー”では「通いの場への送迎」が最も高く、ともに5割以上となっている。

図表 I-3-⑤ 今後必要になる生活支援（施設）

		(%)																
調査数 (n)	見守り・安否確認	通いの場への送迎	通いの場	通院・福祉事業所・役所の送迎	通院・福祉事業所・役所の送迎前後の付き添い	緊急時の通報システム	話し相手	ごみ出し	栄養改善を目的とした配食	生活援助（掃除・洗濯・買い物・調理など）	訪問による理美容	歯科などの訪問診療	介護等が必要になった場合の住宅改造	紙おむつの購入	その他	特になし	無回答	
12 訪問・通所系 (1,666)	20.4	19.2	17.4	17.3	14.9	13.8	12.5	11.0	7.1	7.1	5.3	4.3	3.8	2.6	1.1	21.2	33.4	
14 ケアプラザ (122)	60.7	72.1	43.4	41.8	41.8	22.1	34.4	25.4	11.5	42.6	0.0	1.6	0.8	0.0	3.3	0.0	6.6	
16 ケアマネジャー (1,655)	32.3	51.7	34.2	27.9	30.9	12.6	32.0	10.9	10.1	24.2	3.4	2.2	1.0	2.2	2.6	4.0	9.2	

⑥ 地域組織との連携状況

問 地域のどのような組織と連携をとっていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									37	36	35							

地域組織との連携状況について、すべての調査対象で「自治会・町内会」が8割以上と高くなっている。“特養”“老健”では「ボランティアグループ」や「学校関係」が6割以上となっているが、“居住系”では、「ボランティアグループ」は50.9%、「学校関係」は32.9%となっている。
また、“特養”では「企業」が23.6%となっており、他の調査対象に比べて高くなっている。

図表 I-3-⑥ 地域組織との連携状況

		(%)								
		調査数 (n)	自治会・ 町内会	ボ ラ ン テ ィ ア グ ル ー プ	学 校 関 係	家 族 会	企 業	そ の 他	連 携 を と っ て い な い	無 回 答
09	特養	(89)	86.5	79.8	65.2	28.1	23.6	6.7	1.1	1.1
10	老健	(40)	87.5	70.0	62.5	10.0	7.5	15.0	-	2.5
11	居住系	(395)	84.1	50.9	32.9	22.8	7.8	8.9	6.3	1.3

II. 地域生活を支えるサービスの充実と連携強化

1 在宅介護・リハビリテーション

① 在宅介護サービスの利用状況

問 以下の介護保険の在宅サービスのうち、令和元年11月に利用したサービスをすべてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号			36	28														

“要支援”では、「通所介護相当サービス」が28.5%と最も高く、次いで「通所リハビリ」(26.2%)、「訪問介護相当サービス」(25.1%)となっている。過去の結果と比較すると、「訪問介護相当サービス」は、サービスの利用が低くなっている。

“要介護”では、「福祉用具貸与」が53.4%と最も高く、次いで「通所介護」(52.9%)、「訪問介護」(30.6%)となっている。過去の結果と比較すると、「福祉用具貸与」・「通所介護」といった利用の高いサービスは経年で増加しており、同様に、「訪問リハビリ」や「通所リハビリ」などのリハビリテーションのサービスも経年で増加している。

図表 II-1-① 在宅介護サービスの利用状況

【要支援】

	R1			H28			H25		
	2019年			2016年			2013年		
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
横浜市訪問介護相当サービス(ホームヘルプ)	25.1	34.8	32.6						
横浜市訪問型生活援助サービス	11.4	15.7							
介護予防訪問入浴介護	1.5	1.5	1.6						
介護予防訪問看護	4.5	4.7	2.5						
介護予防訪問リハビリ	8.1	5.9	5.0						
介護予防居宅療養管理指導	0.6	2.3	2.3						
横浜市通所介護相当サービス(デイサービス)	28.5	28.0	27.1						
介護予防通所リハビリ(デイケア)	26.2	22.7	16.5						
介護予防短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	0.7	0.8	0.9						
介護予防短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	0.2	0.8	0.2						
介護予防特定施設入居者生活介護	0.2	0.4	0.4						
介護予防福祉用具貸与	24.0	23.3							
介護予防福祉用具購入	6.9	8.0	7.8						
介護予防住宅改修費	5.4	7.0	4.2						
介護予防認知症対応型通所介護	0.2	0.0	0.0						
介護予防小規模多機能型居宅介護(1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供)	0.4	0.6	0.7						
介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.0	0.2	0.0						
利用していない	6.9	7.8	15.9						
無回答	7.1	7.4	11.3						

【要介護】

	R1			H28			H25		
	2019年			2016年			2013年		
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
訪問介護	30.6	27.0	29.0						
訪問入浴介護	10.8	12.3	12.6						
訪問看護	24.2	19.1	14.4						
訪問リハビリテーション	19.4	14.9	10.6						
居宅療養管理指導	5.1	3.1	2.5						
通所介護(デイサービス)	52.9	47.1	47.0						
通所リハビリテーション(デイケア)	23.4	20.7	20.4						
短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	12.9	14.0	14.3						
短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	1.6	1.5	1.1						
福祉用具貸与	53.4	49.7	38.8						
福祉用具購入	13.5	13.8							
住宅改修	7.3	9.4	7.9						
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス)	0.4	0.9	0.5						
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4.2	1.8	1.3						
夜間対応型訪問介護	1.6	0.9	1.1						
認知症対応型通所介護	2.0	1.6	1.7						
小規模多機能型居宅介護(1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供)	1.7	2.3	2.6						
看護小規模多機能型居宅介護	0.4	0.4							
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.4	0.5	0.5						
地域密着型通所介護(18人以下の小規模な通所介護)	1.8	2.2							
地域密着型特定施設入居者生活介護(29人以下の小規模な特定施設入居者生活介護)	0.2	0.4	0.1						
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(29人以下の小規模な特別養護老人ホーム)	0.1	0.2	0.1						
あてはまるものはない	2.7	3.1	3.5						
無回答	2.5	6.6	6.6						

② 希望通り利用できなかったサービス

問 以下の介護保険の在宅サービスのうち、事業所が近くにない、利用したいが予約がいっぱいで利用できないなど、事業者側の都合で、利用したいのに利用できない（できなかった）サービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号			38	30														

希望通り利用できなかったサービスについて、“要支援”では「通所リハビリ」が7.3%と最も高くなっている。“要介護”では「通所介護」が5.0%と最も高くなっている。

図表 II-1-② 希望通り利用できなかったサービス

【要支援】

	(%)
	R1 2019年
横浜市訪問介護相当サービス（ホームヘルプ）	5.8
横浜市訪問型生活援助サービス	3.4
介護予防訪問入浴介護	1.1
介護予防訪問看護	0.6
介護予防訪問リハビリ	2.2
介護予防居宅療養管理指導	0.2
横浜市通所介護相当サービス（デイサービス）	5.2
介護予防通所リハビリ（デイケア）	7.3
介護予防短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）	0.4
介護予防短期入所療養介護（医療施設等のショートステイ）	0.4
介護予防特定施設入居者生活介護	0.2
介護予防福祉用具貸与	4.1
介護予防福祉用具購入	2.1
介護予防住宅改修費	2.4
介護予防認知症対応型通所介護	0.6
介護予防小規模多機能型居宅介護（1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供）	0.4
介護予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	0.0
利用していない	21.5
無回答	53.9

【要介護】

	(%)
	R1 2019年
訪問介護	2.6
訪問入浴介護	1.3
訪問看護	1.9
訪問リハビリテーション	1.9
居宅療養管理指導	0.4
通所介護（デイサービス）	5.0
通所リハビリテーション（デイケア）	3.8
短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）	4.0
短期入所療養介護（医療施設等のショートステイ）	0.9
福祉用具貸与	3.6
福祉用具購入	1.7
住宅改修	0.9
特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス）	0.3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.5
夜間対応型訪問介護	0.4
認知症対応型通所介護	0.5
小規模多機能型居宅介護（1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供）	0.5
看護小規模多機能型居宅介護	0.1
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	0.4
地域密着型通所介護（18人以下の小規模な通所介護）	0.3
地域密着型特定施設入居者生活介護（29人以下の小規模な特定施設入居者生活介護）	0.3
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（29人以下の小規模な特別養護老人ホーム）	0.7
あてはまるものはない	55.3
無回答	26.6

③ サービスの満足度

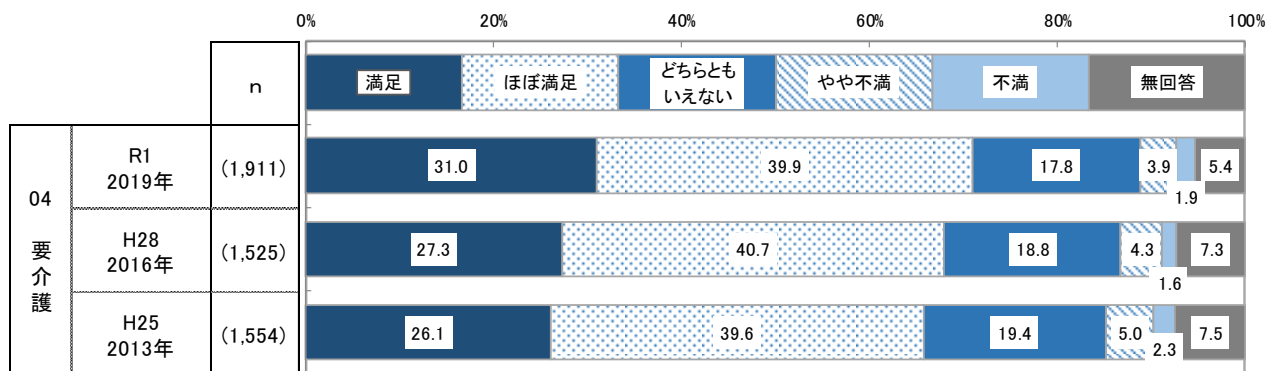
問 現在受けている介護サービスの質に、満足していますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号				35														

現在受けている介護サービスの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、70.9%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』はH25で65.7%、H28では68.0%となっており、経年で増加している。

図表 II-1-③ サービスの満足度



④ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

問 あなた（ご利用者本人）が現在利用している小規模多機能等のサービスは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号						24												

利用している小規模多機能等のサービスについて、「通いサービスが」79.0%と最も高く、次いで「宿泊サービス」が49.8%となっている。

過去の結果と比較すると、すべてのサービスで割合が低くなっている。

図表 II-1-④ 小規模多機能型居宅介護の利用状況

		(%)					
		調査数 (n)	通い サー ビス	訪 問 サー ビス	宿 泊 サー ビス	看 護 サー ビス	無 回 答
06 小 多 機 ・ 看 多 機	R1 2019年	(438)	79.0	25.8	49.8	18.0	2.1
	H28 2016年	(473)	84.4	34.2	59.2	26.8	1.1
	H25 2013年	(548)	86.9	31.6	59.7	24.5	1.6

⑤ 小規模多機能型居宅介護の満足度（通い・訪問・宿泊・看護）

問 あなた（ご利用者本人）は「通い／訪問／宿泊／看護サービス」にどの程度満足していますか。（それぞれ〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号						28 35 39 43												

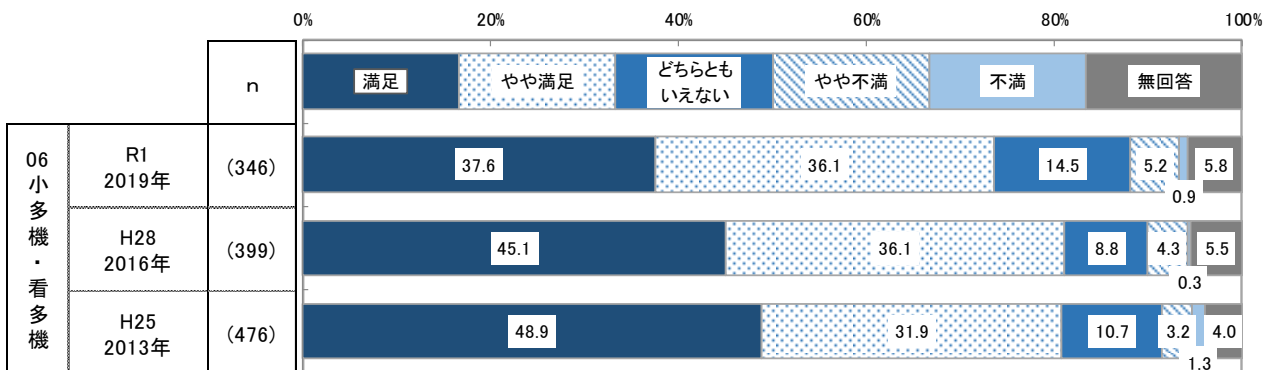
小規模多機能型居宅介護の満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、“通いサービス”で73.7%となっており、過去の結果と比較すると、『満足』が低くなっている。

“訪問サービス”では、『満足』は73.4%となっており、過去の結果と比較すると、H28調査の67.9%から増加している。

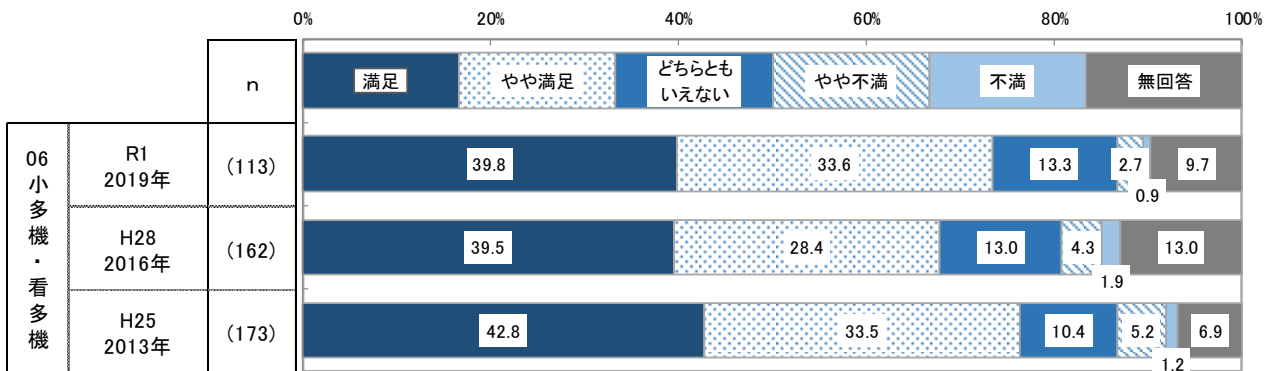
“宿泊サービス”では、『満足』は66.9%となっており、過去の結果と比較すると、H28調査の78.6%から減少している。

“看護サービス”では、『満足』は70.9%となっており、過去の結果と比較すると、H28調査の74.8%から減少している。

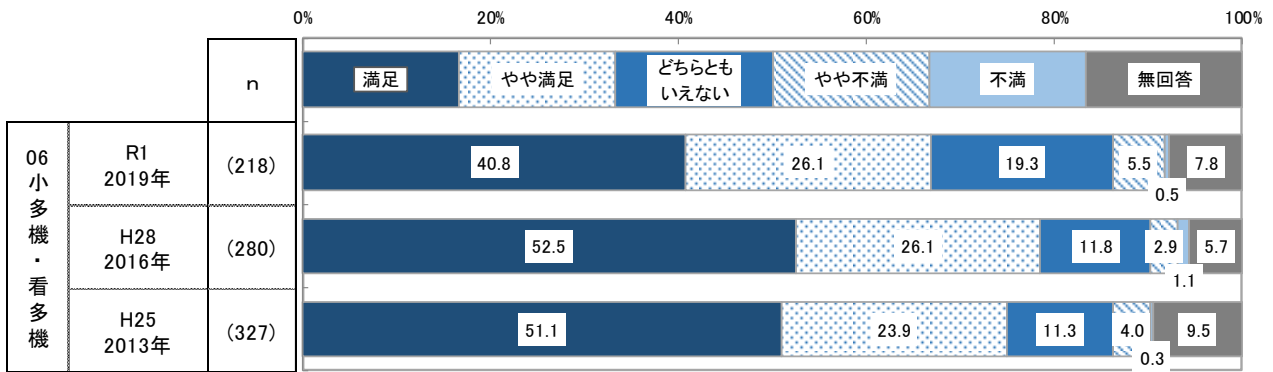
図表 II-1-⑤ 小規模多機能型居宅介護の満足度（通い）



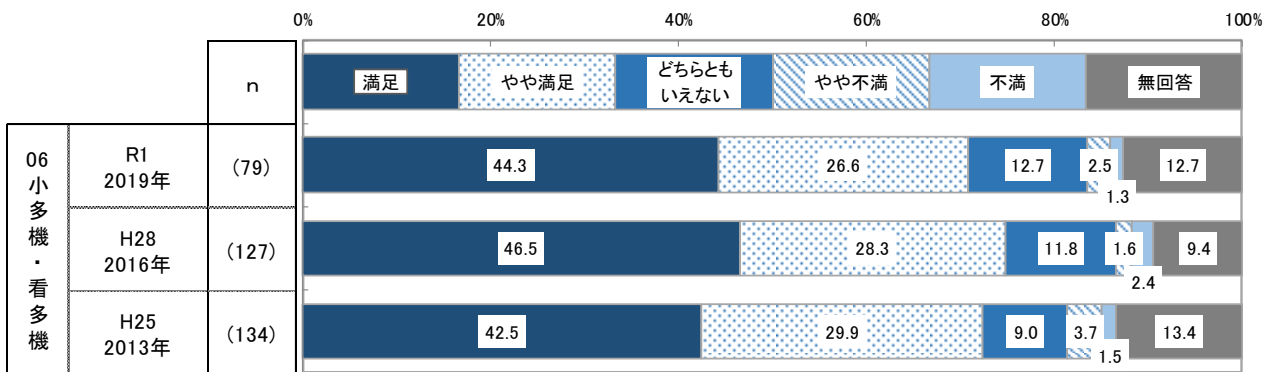
図表 II-1-⑤ 小規模多機能型居宅介護の満足度（訪問）



図表 II-1-⑤ 小規模多機能型居宅介護の満足度（宿泊）



図表 II-1-⑤ 小規模多機能型居宅介護の満足度（看護）



⑥ 定期巡回・随時対応型訪問介護の利用状況

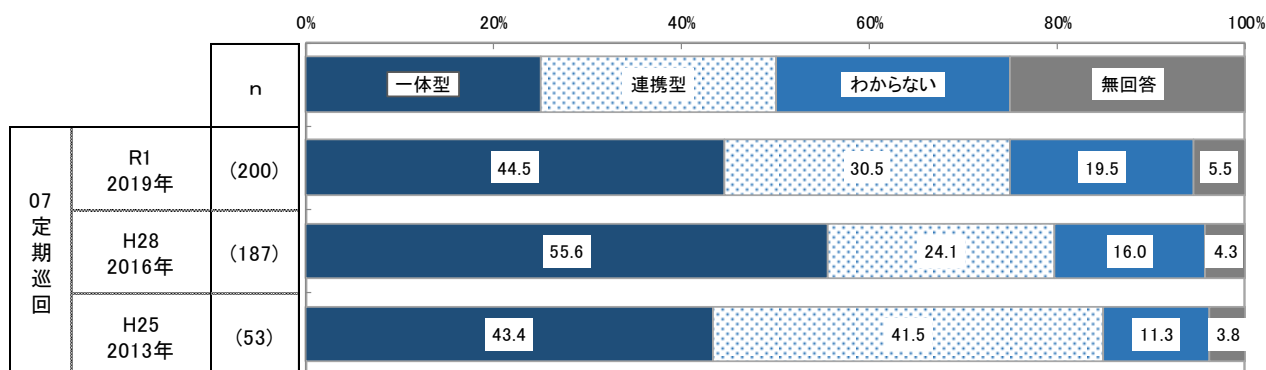
問 一体型・連携型のどちらを利用していますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号							21											

定期巡回・随時対応型訪問介護について、「一体型」が44.5%となっており、「連携型」は30.5%となっている。

過去の結果と比較すると、「一体型」がH28調査の55.6%に比べて低くなっている。

図表 II-1-⑥ 定期巡回・随時対応型訪問介護の利用状況



⑦ 定期巡回サービスの満足度

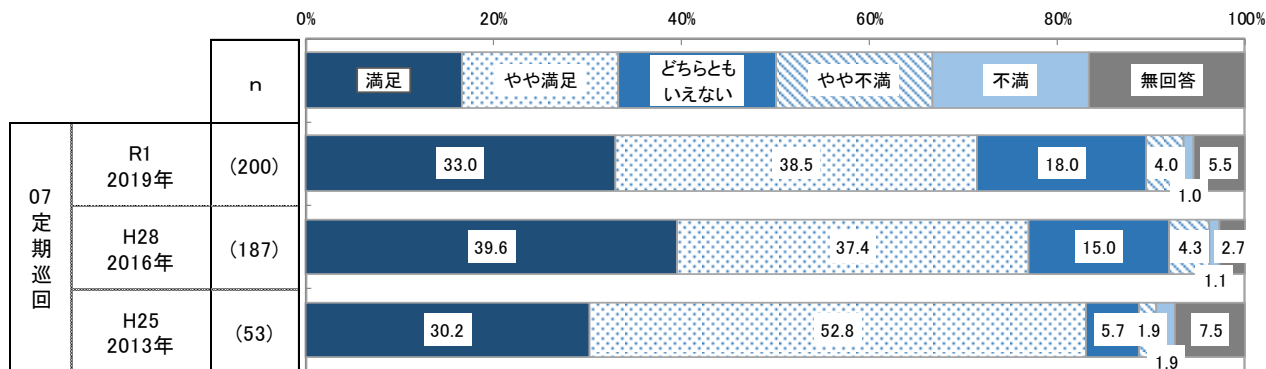
問 あなた（ご利用者本人）は「定期巡回サービス」にどの程度満足していますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号							32											

定期巡回サービスの満足度について、「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、71.5%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』はH25調査で83.0%、H28調査では77.0%となっており、経年で低くなっている。

図表 II-1-⑦ 定期巡回サービスの満足度



⑧ 介護サービス以外に必要なサービス

問 あなた（あて名ご本人）が、安心して在宅で生活をするためには、現在の介護サービス以外に、必要なサービスがありますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号			41-1	37-1	35-1													

現在の介護サービス以外に必要なサービスについて、“要支援”“未利用”では「自宅に医師が訪問して診療してくれること」が約4割と最も高くなっている。一方で、“要介護”では「介護者の入院などの緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が30.1%と最も高くなっている。

過去の結果と比較すると、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」は“要支援”“未利用”ともにH28調査から高くなっている。一方で、“要介護”の「介護者の入院などの緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」はH28調査の45.1%から低くなっている。

図表 II-1-⑧ 介護サービス以外に必要なサービス

		調査数（n）	自宅に医師が訪問して診療してくれること	夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスを受けられること	介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	その他	必要なサービスはない	無回答
03	要支援	(218)	40.4	32.6	27.5	24.8	22.9	5.5	4.1	13.3
04	要介護	(1,035)	29.6	25.7	20.5	17.8	30.1	17.8	2.7	19.3
05	未利用	(511)	42.3	25.0	20.2	24.9	26.4	7.2	2.5	16.8

【経年比較（要支援の上位5項目＋必要なサービスはない）】

	03 要支援			04 要介護			05 未利用		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
自宅に医師が訪問して診療してくれること	40.4	31.6		29.6	37.0	39.3	42.3	37.6	
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	32.6	30.0		25.7	27.7		25.0	26.7	
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	27.5	28.4		20.5	26.7	20.6	20.2	22.3	
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスを受けられること	24.8	24.4		17.8	29.1	22.1	24.9	26.7	
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	22.9	22.4		30.1	45.1	43.3	26.4	30.8	
必要なサービスはない	13.3	16.8		19.3	13.0	11.7	16.8	17.0	

⑨ 実施している介護サービス以外のサービス

問 介護保険以外のサービスで、実施または実施予定のある活動やサービスはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号												30-1						

介護事業所で実施している介護サービス以外の活動やサービスについて、「生活援助」が 16.6%と最も高く、次いで「通院・福祉事務所・役所の送迎前後の付き添い」が 15.2%となっている。また、「特になし」は 21.8%となっている。

図表 II-1-⑨ 実施している介護サービス以外のサービス

																(%)		
調査数 (n)	生活援助 (掃除・洗濯・買い物・調理など)	通院・福祉事務所・役所の送迎前後の付き添い	通院・福祉事務所・役所の送迎	通いの場 (体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	見守り・安否確認	ごみ出し	話し相手	紙おむつの購入	通いの場への送迎	訪問による理美容	歯科などの訪問診療	緊急時の通報システム	栄養改善を目的とした配食	介護等が必要になった場合の住宅改造	その他	特になし	無回答	
12	訪問・通所系 (1,666)	16.6	15.2	14.4	13.9	12.9	11.9	9.1	8.2	7.7	7.1	6.5	6.3	5.3	2.4	1.7	21.8	36.1

⑩ 要介護認定の回復状況

問 直近の要介護認定を受けた後、状態はどのように変わりましたか。 (○はひとつ)

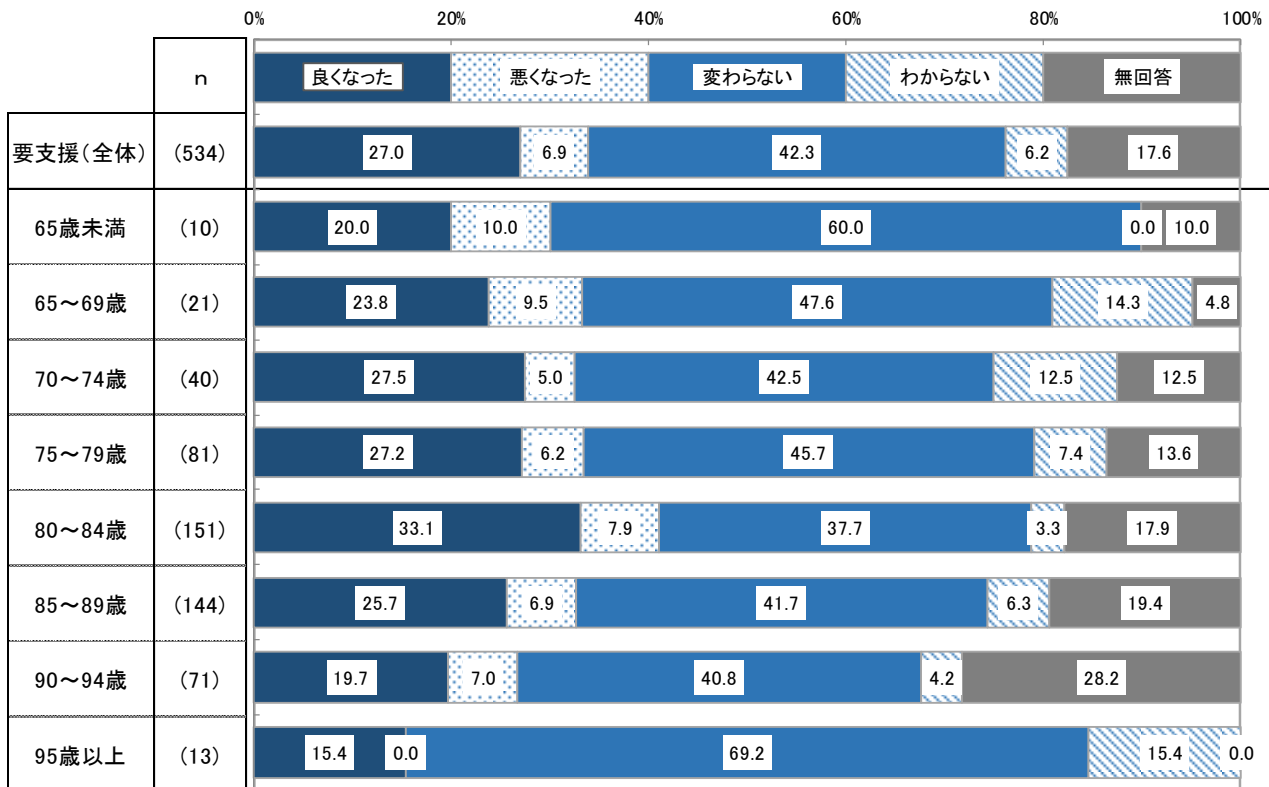
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号			45	42														

要介護認定を受けた後の回復状況について、“要支援”では「良くなった」は27.0%となっている。年齢別でみると、「良くなった」は80～84歳で33.1%と最も高くなっている。

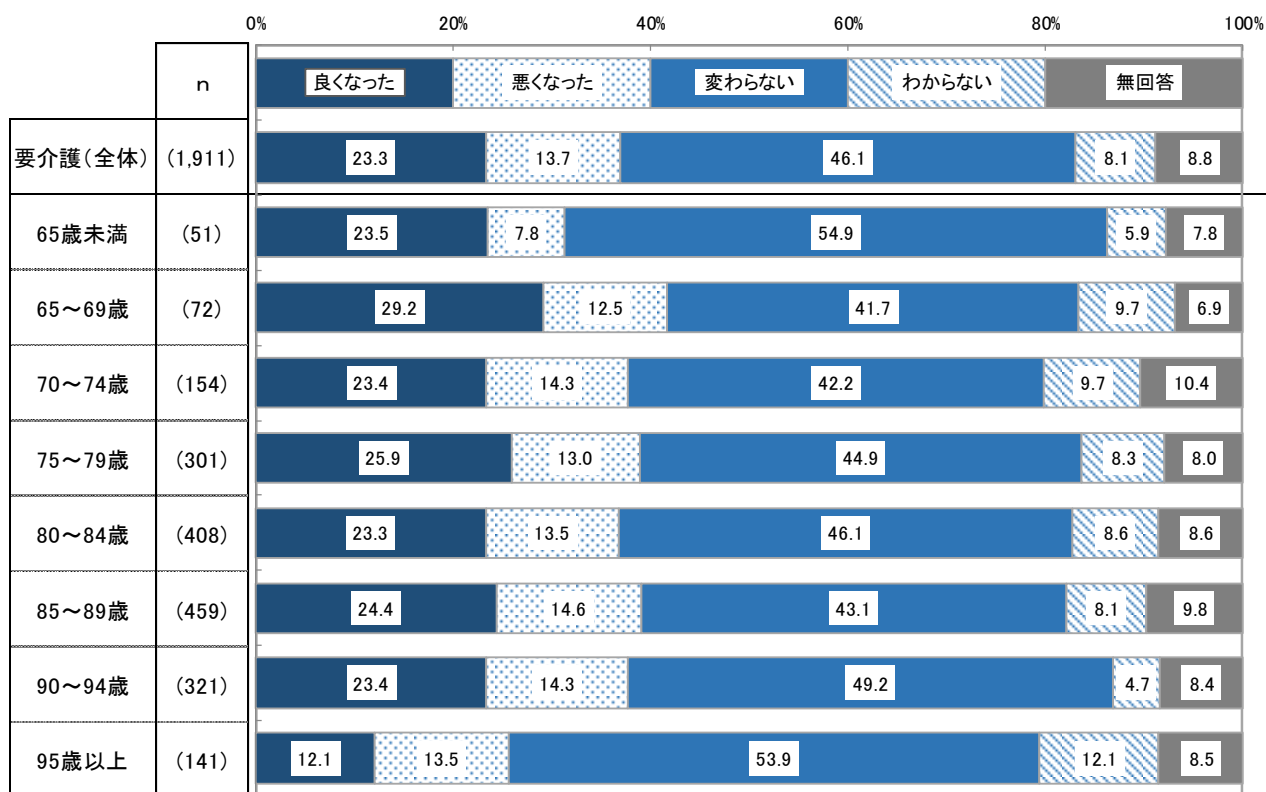
“要介護”では、「良くなった」は23.3%となっており、年齢別でみると「良くなった」は65～69歳で29.2%と最も高くなっている。

過去の結果と比較すると、「良くなった」は“要支援”“要介護”ともに、前回調査時から増加しており、「悪くなった」が減少している。

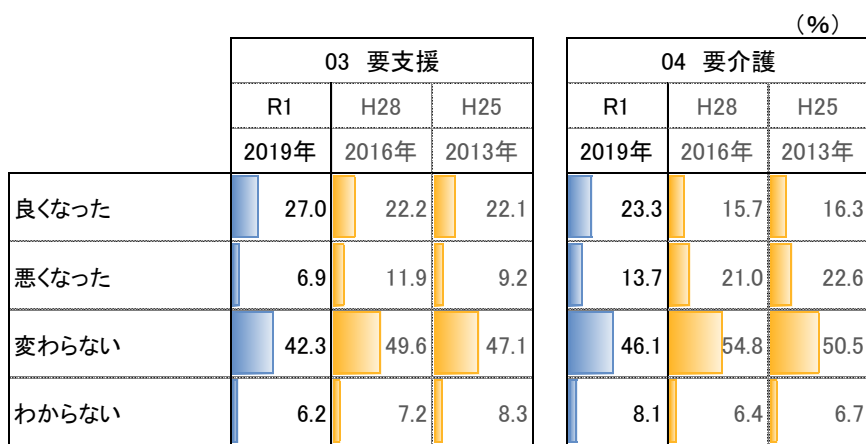
図表 II-1-⑩ 要介護認定の回復状況（要支援）



図表 II-1-⑩ 要介護認定の回復状況（要介護）



【経年比較】



⑪ 回復した要因

問 要介護状態が良くなった原因は何だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号			45-1	42-1														

要介護状態が良くなった要因について、“要支援”では「自分でできる限り動くようにしたため」が61.8%と最も高くなっている。“要介護”では「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」が43.0%と最も高く、次いで「自分でできる限り動くようにしたため」が42.4%となっている。

年齢別でみると、“要支援”は70～94歳までで「自分でできる限り動くようにしたため」が高い。一方で、“要介護”では「医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため」が、74歳以下の前期高齢者では高いが、後期高齢者では低くなっている。

図表 II-1-⑪ 回復した要因

		調査数 (n)	自分でできる限り動くようにしたため	医療機関等で専門家の指導を受けてリハビリを受けたため	治療を受け、病気が治ったため	治療を受け、骨折が治ったため	認知症が改善もしくは安定したため	その他	わからない	無回答
03	要支援	(144)	61.8	52.1	18.8	11.8	0.7	4.9	2.1	1.4
04	要介護	(446)	42.4	43.0	19.5	16.1	11.7	9.6	2.2	1.8
■年齢別										
要支援	65歳未満	(2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	(5)	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	70～74歳	(11)	81.8	45.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	75～79歳	(22)	50.0	54.5	13.6	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0
	80～84歳	(50)	62.0	60.0	14.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	85～89歳	(37)	64.9	48.6	21.6	18.9	2.7	2.7	2.7	2.7
	90～94歳	(14)	78.6	35.7	21.4	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0
	95歳以上	(2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要介護	65歳未満	(10)	41.7	83.3	25.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0
	65～69歳	(21)	47.6	66.7	19.0	9.5	4.8	14.3	0.0	0.0
	70～74歳	(40)	41.7	63.9	22.2	27.8	5.6	11.1	5.6	0.0
	75～79歳	(81)	47.4	33.3	14.1	16.7	9.0	12.8	1.3	3.8
	80～84歳	(151)	40.0	51.6	15.8	17.9	7.4	6.3	1.1	1.1
	85～89歳	(144)	44.6	40.2	24.1	11.6	15.2	8.9	1.8	3.6
	90～94歳	(71)	37.3	29.3	20.0	17.3	21.3	9.3	2.7	0.0
	95歳以上	(13)	35.3	17.6	23.5	17.6	11.8	11.8	11.8	0.0

⑫ サービスを利用しない理由

問 令和元年7月時点では介護保険のサービスを全く利用されていませんが、その理由は
何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
問 番号					32														

介護保険のサービスを利用しない理由について、「より重度の要介護状態になったとき利用したい」が25.0%と最も高く、次いで「介護者の体力が衰えたときに利用したい」が18.8%となっている。

過去の結果と比較すると、「より重度の要介護状態になったとき利用したい」はH25調査の12.2%に比べて高くなっている。

図表 II-1-⑫ サービスを利用しない理由

		調査数 (n)	いより より 重度の 要介護 状態に なった とき 利用 した	介護 者の 体力 が衰 えた とき 利用 した い	家族 が介 護を する ため 必要 ない	サー ビス の内 容が よく 分か らな い	家 族な どの 介護 者が 急に 病気 にな った 時な ど に、 ショ ート ステ ィを 利用 した い	た 8 月以 降サ ービ ス利 用を 始め た(ま たは 決め た)	施 設、 病院 など に入 所・ 入院 して いた	家 族以 外の 介護 を受 けたく ない	介 護サ ービ スを 利用 した いが、 経済 的な 負担 が大 きい	使 いた いサ ービ スが ない	特 別養 護老 人ホ ーム 等 の介 護保 険施 設の みの 利用 を予 定し てい る	介 護保 険に ない サー ビス (紙 おむ つ の支 給、 食事 サー ビス など) のみ を利 用し てい る	そ の 他	無 回 答	(%)
05 未 利 用	R1 2019年	(1,014)	25.0	18.8	16.6	16.0	12.3	11.6	8.5	8.4	7.5	7.2	3.5	1.7	15.6	12.8	
	H28 2016年	(860)	22.8	18.7	11.9	16.7	10.6	8.4	9.3	6.3	6.7	7.9	3.5	1.9	16.5	24.2	
	H25 2013年	(819)	12.2	7.3		8.2	3.9	7.1	7.6	8.2	2.3	5.0	1.0	0.1	13.2	23.9	

2 在宅医療・看護

① かかりつけ医の有無

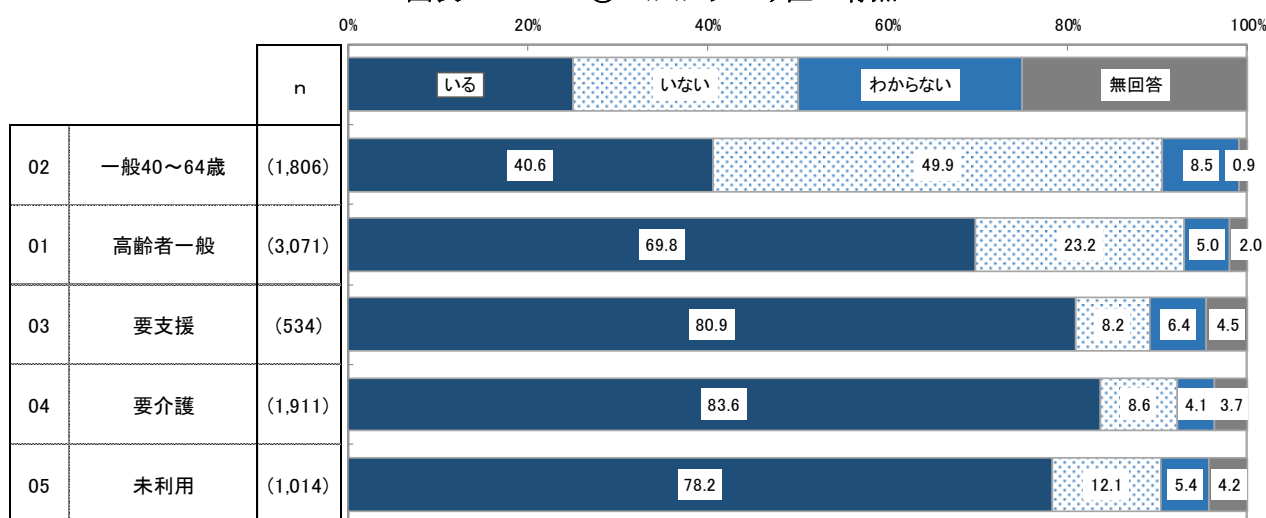
問 あなたには、健康について気軽に相談できる、かかりつけ医がいますか。

(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
問番号	22	21	19	18	19														

かかりつけの医の有無について、“高齢者一般”“要支援”“要介護”“未利用”では、かかりつけ医が「いる」方が約7割以上となっているのに対し、“一般40～64歳”では40.6%となっている。
年齢別でみると、どの調査種別でも年齢が高くなるにつれて「いる」が高くなっている。

図表 II-2-① かかりつけ医の有無



【年齢別の比較（「いる」の割合）】

	年齢別 (%)				
	02 一般40～64歳	01 高齢者一般	03 要支援	04 要介護	05 未利用
40～44歳	32.8				
45～49歳	34.9				
50～54歳	42.4		90.0	78.4	73.9
55～59歳	45.4				
60～64歳	47.0				
65～69歳		60.5	61.9	75.0	53.6
70～74歳		65.7	75.0	77.9	63.7
75～79歳		76.5	79.0	81.1	80.0
80～84歳		77.8	82.8	84.6	81.0
85～89歳		81.9	82.6	85.0	82.7
90～94歳		92.3	83.1	85.7	81.2
95歳以上		66.7	92.3	89.4	73.3

② かかりつけ医とケアマネジャーの連携

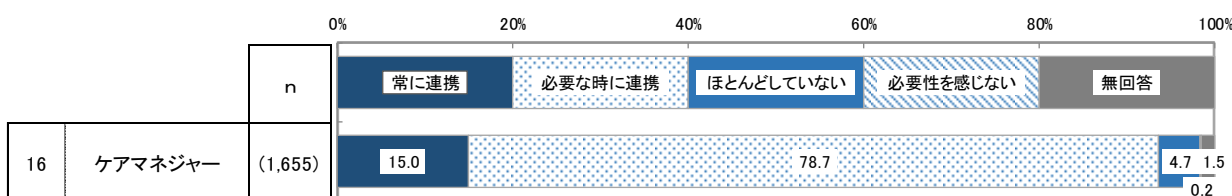
問 かかりつけ医（主治医）と具体的にどのような連携をしていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																32		

かかりつけ医とケアマネジャーとの連携について、「必要な時に連携」が78.7%と最も多くなっている。また「ほとんどしていない」「必要性を感じない」は合わせて4.9%となっている。

図表 II-2-② かかりつけ医とケアマネジャーの連携



③ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集

問 ケアプラン作成にあたって、医療機関等からの情報収集などを行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																33		

ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集について、「主治医の意見書を入手」するが92.9%と最も多く、次いで「医療相談室MSWを通じた情報収集等」が72.3%となっている。

図表 II-2-③ ケアプラン作成にあたっての医療機関からの情報収集

調査数 (n)	主治医の意見書を入手	医療相談室MSWを通じた情報収集等	往診・受診・通院・入院時に同行	カンファレンス	家族を通じて医師に指示を確認	入院歴のある人の場合は入院して情報収集	医療機関に対して問合せ・連絡・情報収集	意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に直接電話・面談等で直接問い合わせ・連絡・情報収集	その他	特に行っていない	無回答 (%)
16 ケアマネジャー (1,655)	92.9	72.3	63.1	62.3	53.2	36.1	26.0	11.4	1.8	0.5	1.0

④ 医療連携を円滑に進めるための工夫

問 医療連携を円滑に進めるために工夫していることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																34		

医療連携を円滑に進めるための工夫について、「電話や FAX でこまめに連絡をとっている」が 54.1%と最も高く、次いで「連絡ノート等を活用している」が 21.9%となっている。また、「特になし」が 21.6%となっている。

図表 II-2-④ 医療連携を円滑に進めるための工夫

		調査数 (n)	電話や FAX でこまめに連絡をとっている	連絡ノート等を活用している	在宅医療連携拠点に相談している	定期的な会議等の場を設けている	その他	特になし	無回答
16	ケアマネジャー	(1,655)	54.1	21.9	12.0	9.0	11.4	21.6	3.7

⑤ 医療機関との連携で困っていること

問 医療機関との連携で困ることがあれば教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																35		

医療機関との連携で困っていることについて、「サービス担当者会議の日程調整が難しい」が 48.6%と最も割合が高く、次いで「医師といつ連絡を取ればよいか分からない」が 44.5%となっている。

図表 II-2-⑤ 医療機関との連携で困っていること

		調査数 (n)	サービス担当者会議の日程調整が難しい	医師といつ連絡を取ればよいか分からない	退院までの準備期間が短い	主治医意見書の到着が遅い	書類を頼んでも対応が遅い、嫌がられる	医療側からの一方的な意見で支援方法が決定されない、介護側の意見が考慮されない	退院してからの連絡が取りにくい	個人情報保護で医療的な情報が取りにくい	専門用語が多く理解が困難	遅い	その他	困ったことはない	無回答
16	ケアマネジャー	(1,655)	48.6	44.5	36.1	28.0	19.5	16.9	16.9	16.0	15.8	7.3	4.8	5.4	3.7

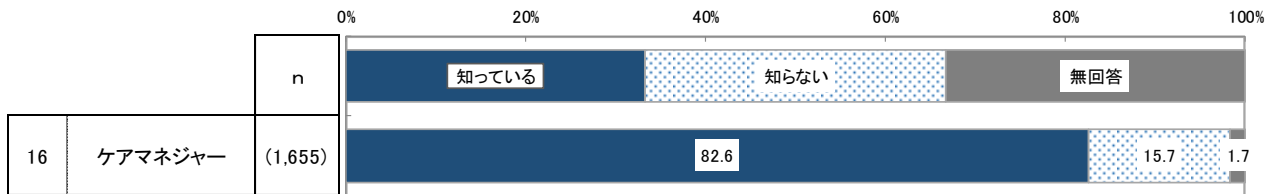
⑥ 在宅医療連携拠点の認知度

問 在宅医療・介護の相談窓口として各区に設置する在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）をご存知ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号																36		

在宅医療連携拠点の認知度について、「知っている」方は82.6%となっている。

図表 II-2-⑥ 在宅医療連携拠点の認知度



⑦ 介護施設と医療機関の連携

問 医療機関とどのように連携していますか。(あてはまるものすべてに〇)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号									38	37	36	25						

介護施設と医療機関の連携方法について、「特養」と「居住系」の8割以上で「往診をしてくれる医師・医療機関がある」となっており、「特養」と「老健」の約8割で「提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている」となっている。

一方で、「認知症の周辺症状について助言を受けている」は、「特養」で30.3%、「居住系」で38.0%となっている。

図表 II-2-⑦ 介護施設と医療機関の連携

調査票番号	施設タイプ	調査数 (n)	連携方法 (%)											無回答 (%)	
			往診をしてくれる医師・医療機関がある	提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている	ついでに健康管理や処置を受ける	急変時の受け入れを依頼している	認知症の周辺症状について助言を受けている	在宅医療連携拠点に相談している	職員研修	緊急時の対応	その他	連携していない			
09	特養	(89)	82.0	76.4	70.8	58.4	30.3						1.1	0.0	3.4
10	老健	(40)	27.5	82.5	37.5	57.5	5.0						5.0	0.0	2.5
11	居住系	(395)	94.2	46.1	74.2	39.5	38.0						1.8	0.8	2.3
12	訪問・通所系	(1,666)	32.5	8.8	44.8	11.2		8.3	15.1	34.2	2.7	20.8			6.1

3 保健・福祉

① 業務の達成度

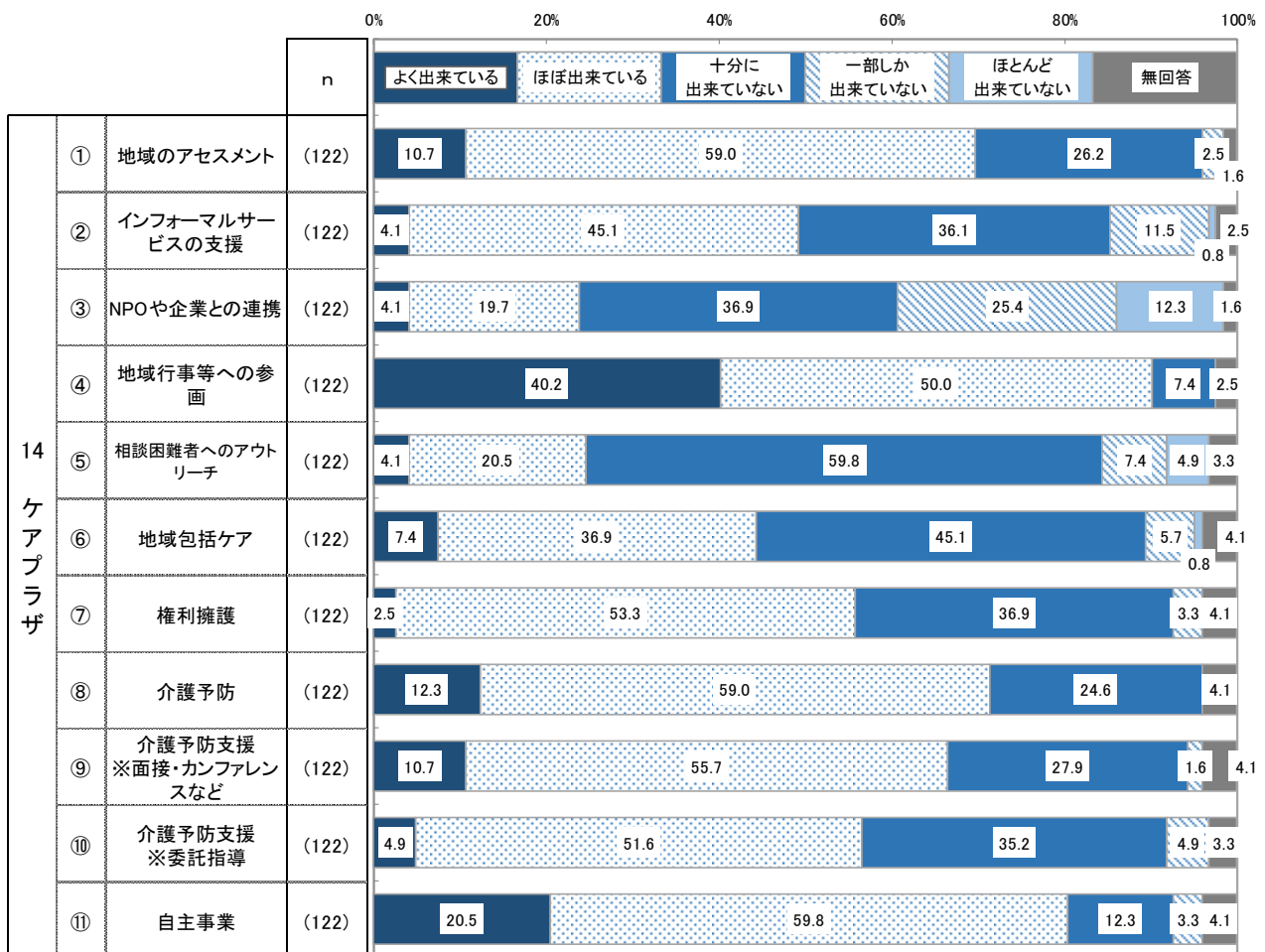
問 各業務の項目ごとに達成度を回答してください。また、達成度を選択した理由についても回答してください。
(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														24				

業務の達成度について、「よく出来ている」と「ほぼ出来ている」を合計した『出来ている』は、①地域のアセスメント、④地域行事等への参画、⑧介護予防、⑨介護予防支援（面接など）、⑩自主事業で6割を超えている。

一方で、「一部しか出来ていない」「ほとんど出来ていない」を合計した『出来ていない』は、③NPOや企業との連携で37.7%となっている。

図表 II-3-① 業務の達成度



② 総合相談・支援事業の課題

問 総合相談・支援業務の課題と考えることは何ですか。(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号														9				

総合支援・支援業務の課題について、「業務が繁忙で訪問による相談・支援が思うようにできない」が62.3%と最も高く、次いで「平日・土曜日の夜間の相談件数が少ない」が60.7%と高くなっている。

図表 II-3-② 総合相談・支援事業の課題

		(%)														
調査数 (n)	支援業務が繁忙で訪問による相談・支援が思うようにできない	平日・土曜日の夜間の相談件数が少ない(窓口を空ける必要性)	平日・土曜日の夜間の相談件数が少ない	地域包括支援センターの存在・役割が利用者・高齢者に十分に周知されていない	地域包括支援センターの存在・役割が利用者・高齢者に十分に周知されていない	制度改正が複雑・頻繁なこと、利用者への説明が追いつかない	生活支援コーディネーター・地域活動交流コーディネーターとの連携	困難から、職員の習熟度を上げるのが	制度改正が複雑・頻繁なこと、職員の習熟度を上げるのが	三職種(社会福祉士・保健師等・主任ケアマネジャー)間の連携	十分である	区役所からのケース引継ぎが不十分である	行政からの情報提供が少なく、伝達が体系化されていない	その他	特になし	無回答
14	ケアプラザ	(122)	62.3	60.7	35.2	19.7	17.2	17.2	11.5	10.7	7.4	11.5	-	2.5		

③ 権利擁護業務の課題

問 権利擁護業務の課題と考えることは何ですか。(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号														10				

権利擁護業務の課題について、「支援困難事例等への対応力」と「経済的問題に対する対応」の割合が50.0%と最も高く、次いで「地域福祉権利擁護事業のサービス提供量が少ない」が34.4%と高くなっている。

図表 II-3-③ 権利擁護業務の課題

		(%)													
調査数 (n)	支援困難事例等への対応力(複雑な家族関係に介入する知識・経験など)	経済的問題に対する対応(生活困窮・経済的虐待・消費者被害など)	地域福祉権利擁護事業(区社協あんしんセンター)のサービス提供量が少ない	弁護士、医師等の専門家と連携した対応	成年後見制度等の権利擁護に関する広報が足りていない	地域包括支援センターとしての高齢者虐待への関わり方	三職種(社会福祉士・保健師等・主任ケアマネジャー)が連携・協議する時間少ない	成年後見制度等の権利擁護に関する知識が足りない	その他	特になし	無回答				
14	ケアプラザ	(122)	50.0	50.0	34.4	29.5	25.4	24.6	17.2	13.1	9.8	-	2.5		

④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題

問 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題と考えることは何ですか。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														11				

包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題について、「介護・福祉にとどまらない地域課題の解決に向けた知識・経験が少ない」の割合が39.3%と最も高く、次いで「地域のインフォーマルサービスの開発支援・育成支援・連携支援の知識・経験が少ない」が37.7%となっている。

図表 II-3-④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題

		(%)															
調査数 (n)		介護・福祉にとどまらない地域課題の解決に向けた知識・経験が少ない	地域のインフォーマルサービスの開発支援・育成支援・連携支援の知識・経験が少ない	診療所医師との関係づくり	地域連携の成功事例の蓄積、相互の情報提供が少なく、参考にできるものが少ない	病院の医療ソーシャルワーカーとの関係づくり	担当圏域内の要援護者情報や既存の社会資源の情報不足している	在宅医療連携拠点との関係づくり	三職種(社会福祉士・保健師等・主任ケアマネジャー)間の連携	ケアマネジャーから相談を受けた際にヒントを与えられるような知識・経験が少ない	生活支援コーディネーター・地域活動交流コーディネーターとの連携	歯科医師との関係づくり	薬剤師との関係づくり	その他	特になし	無回答	
14	ケアプラザ	(122)	39.3	37.7	31.1	29.5	14.8	13.9	13.1	13.1	10.7	9.8	9.0	5.7	7.4	4.1	2.5

⑤ 生活支援体制整備を進める上での課題

問 地域ケアプラザにおいて生活支援体制整備を進めていく上で困難と感じている点は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														20				

生活支援体制整備を進める上での課題について、「担い手の育成」の割合が73.8%と最も高く、次いで「新たな活動・団体の立ち上げ支援」が63.9%となっている。

図表 II-3-⑤ 生活支援体制整備を進める上での課題

																	(%)
調査数 (n)	担い手 (ボランティア) の育成	新たな活動・団体の立ち上げ支援	生活支援コーディネーターの活動の評価	地域資源情報の把握、分析 (Ayamu の活用を含む)	高齢者の生活支援ニーズの把握、分析	支援者間のネットワーク (協力関係) の構築	ボランティア団体・NPO等 (テーマ系団体) の活動支援	地域ケアプラザ内の5職種連携	区役所・区社会福祉協議会との連携	地域住民等との情報共有及び信頼関係の構築	自治会町内会や地区社協等 (地縁団体) の活動支援	助成金等、支援制度の活用	地域資源情報の周知 (広報)	その他	特になし	無回答	
14 ケアプラザ	(122)	73.8	63.9	42.6	41.0	40.2	35.2	32.0	25.4	25.4	22.1	22.1	22.1	18.9	11.5	1.6	2.5

⑥ 成年後見制度の認知度

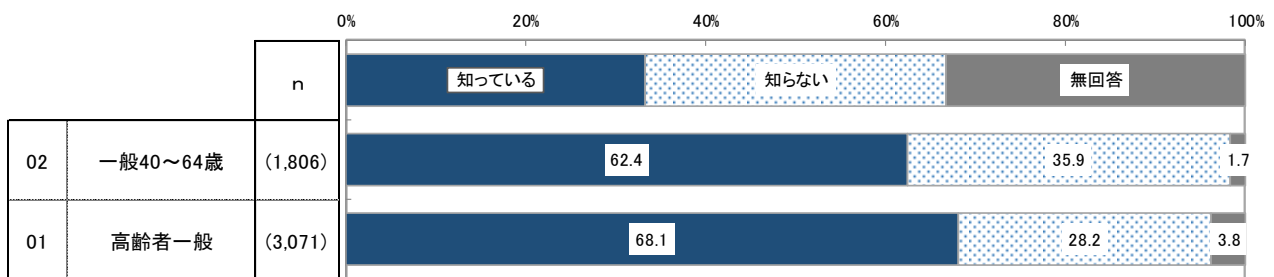
問 あなた（あて名ご本人）は、成年後見制度（判断能力が低下した方の後ろだて）を知っていますか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	60	68																

成年後見制度の認知度について、“高齢者一般”では「知っている」は68.1%となっている。一方で、“一般40～64歳”では62.4%となっている。

過去の結果と比較すると、“高齢者一般”は認知度が増加しているが、“一般40～64歳”では減少している。

図表 II-3-⑥ 成年後見制度の認知度



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
知っている	62.4	66.1	67.5	68.1	60.5	61.9
知らない	35.9	32.1	31.2	28.2	32.8	31.1

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑦ 孤立死に対する意識

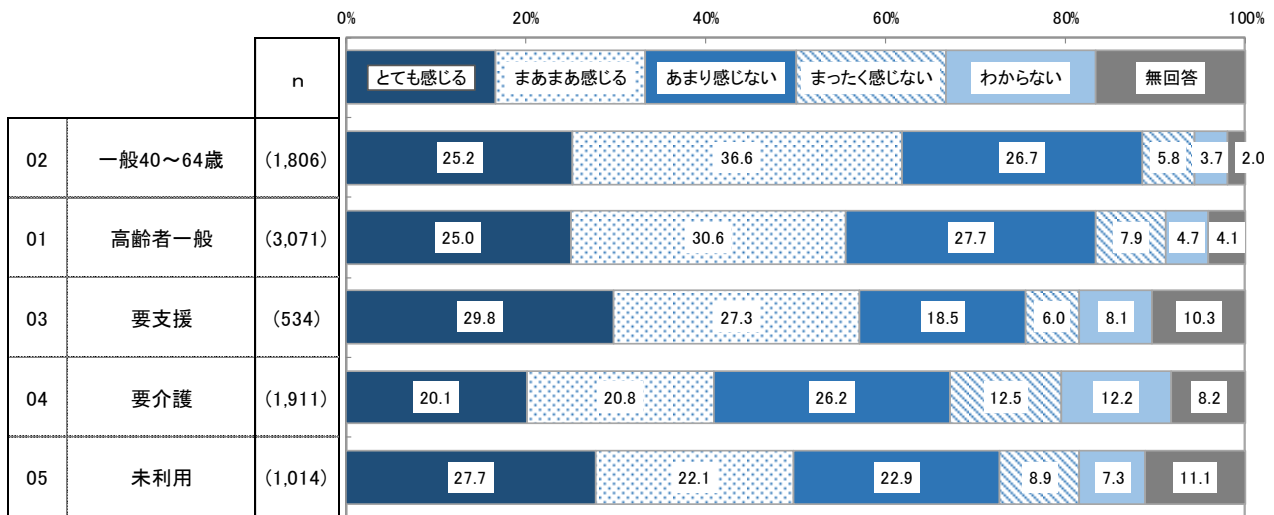
問 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死）について、身近な問題だと感じますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	57	55	42	38	36													

孤立死に対する意識について、「とても感じる」と「まあまあ感じる」を合計した『身近に感じる』は、“高齢者一般”“一般40～64歳”“要支援”で半数を超えている。一方で、“要介護”では「まったく感じない」が12.5%となっている。

過去の結果と比較すると、“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに、前回調査から『身近に感じる』が増加している。

図表 II-3-⑦ 孤立死に対する意識



【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
とても感じる	25.2	17.5	16.9	25.0	19.2	22.1
まあまあ感じる	36.6	35.3	28.5	30.6	27.5	23.8
あまり感じない	26.7	32.7	38.3	27.7	31.3	31.9
まったく感じない	5.8	7.1	7.9	7.9	7.7	9.0
わからない	3.7	5.1	6.4	4.7	6.0	5.4

※ “一般40～64歳”は、H28調査以前は55～64歳が対象

⑧ 人生の最終段階に向けた心づもり

問 あなたは、病気で意思疎通ができなくなった場合や死が近い場合に備えて、延命措置や看取りなどに関するご自身の希望について、どのように意思表示をしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	58	56	43	39	37													

人生の最終段階に向けた心づもりについて、“高齢者一般”“要支援”“未利用”では「家族と話し合っている」が4割を超えている。一方で、“一般40～64歳”では23.9%、“要介護”では35.1%となっている。また、“一般40～64歳”では、「特にしていない」が72.1%となっている。

年齢別でみると、「家族と話し合っている」は高齢になるにつれて割合も高くなる傾向にある。

図表 II-3-⑧ 人生の最終段階に向けた心づもり

		(%)									
調査数 (n)	家族と話し合っている	エンディングノートを作成している	遺言状を作成している	リビングウィルを作成している	もしも手帳を書き記している	かかりつけ医に希望を伝えている	その他	特にしていない	無回答		
02 一般40～64歳	(1,806)	23.9	1.7	0.6	0.5	0.2	0.3	1.1	72.1	1.4	
01 高齢者一般	(3,071)	42.4	7.6	4.4	2.5	2.4	2.2	1.5	45.7	4.1	
03 要支援	(534)	42.5	7.3	9.7	4.3	3.0	5.6	1.7	36.9	8.1	
04 要介護	(1,911)	35.1	4.1	6.3	2.2	1.4	5.6	2.0	48.5	7.1	
05 未利用	(1,014)	42.3	7.1	7.4	3.2	2.8	3.6	1.2	40.8	7.2	

【年齢別の比較】

(%)

		調査数 (n)	家族と話し合っている	エンディングノートを作成している	遺言状を作成している	リビングウィルを作成している	もしも手帳を書き記している	かかりつけ医に希望を伝えている	その他	特にしていない	無回答
一般 40 5 6 4歳	40～44歳	(296)	13.5	1.4	0.7	0.3	-	-	0.3	84.1	0.7
	45～49歳	(387)	22.7	1.3	0.3	0.5	0.3	-	0.5	73.6	1.8
	50～54歳	(408)	24.0	1.0	0.5	0.5	-	0.2	0.7	73.5	0.5
	55～59歳	(361)	26.6	2.2	0.6	0.3	0.6	0.6	1.9	68.7	1.7
	60～64歳	(349)	31.2	2.9	0.9	0.9	0.3	0.9	1.7	62.2	1.7
高齢者 一般	65～69歳	(854)	41.5	5.0	2.1	1.7	1.1	1.1	1.2	54.3	1.8
	70～74歳	(754)	44.6	6.7	3.3	2.0	2.6	1.1	2.0	48.1	2.8
	75～79歳	(436)	47.7	9.3	4.6	2.8	2.5	3.3	1.3	41.8	6.0
	80～84歳	(177)	40.7	10.3	8.3	4.6	4.4	3.2	1.1	35.3	5.3
	85～89歳	(26)	53.8	9.6	8.5	2.8	3.4	6.2	1.7	39.5	8.5
	90～94歳	(3)	33.3	11.5	11.5	0.0	0.0	3.8	0.0	23.1	15.4
	95歳以上	(2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
要 支 援	65歳未満	(10)	30.0	-	-	-	-	-	-	70.0	-
	65～69歳	(21)	23.8	-	-	-	4.8	4.8	-	66.7	-
	70～74歳	(40)	42.5	7.5	2.5	2.5	5.0	7.5	-	45.0	5.0
	75～79歳	(81)	40.7	9.9	11.1	-	-	3.7	2.5	34.6	7.4
	80～84歳	(151)	46.4	8.6	6.6	7.9	4.0	4.0	2.0	31.1	11.3
	85～89歳	(144)	47.2	4.2	13.9	4.2	2.8	5.6	1.4	34.0	6.9
	90～94歳	(71)	39.4	12.7	16.9	4.2	4.2	8.5	2.8	32.4	9.9
	95歳以上	(13)	15.4	-	-	-	-	15.4	-	76.9	-
要 介 護	65歳未満	(51)	21.6	-	-	2.0	-	5.9	-	64.7	9.8
	65～69歳	(72)	25.0	5.6	6.9	2.8	-	4.2	5.6	54.2	6.9
	70～74歳	(154)	29.2	3.9	3.2	1.9	1.9	4.5	2.6	53.2	9.7
	75～79歳	(301)	36.5	7.3	6.0	1.7	2.3	5.0	2.0	46.2	6.0
	80～84歳	(408)	37.3	2.7	4.7	1.7	1.7	4.9	1.5	47.1	8.1
	85～89歳	(459)	34.6	5.9	6.5	2.6	1.5	5.7	2.4	47.7	7.2
	90～94歳	(321)	40.2	1.6	9.0	3.1	0.9	5.9	0.9	48.9	4.4
	95歳以上	(141)	32.6	2.8	9.9	1.4	-	9.9	2.8	45.4	7.1
未 利 用	65歳未満	(23)	39.1	-	4.3	-	8.7	4.3	4.3	56.5	-
	65～69歳	(28)	46.4	3.6	-	3.6	-	-	-	46.4	3.6
	70～74歳	(113)	39.8	7.1	5.3	0.9	1.8	-	0.9	50.4	5.3
	75～79歳	(185)	41.6	9.2	6.5	5.4	3.8	4.3	1.6	38.4	7.0
	80～84歳	(289)	43.6	7.6	6.2	4.2	2.4	2.8	0.7	41.5	8.3
	85～89歳	(243)	46.5	6.6	8.2	2.1	2.5	4.1	2.1	36.6	7.4
	90～94歳	(117)	37.6	6.0	12.8	2.6	2.6	6.0	-	36.8	8.5
	95歳以上	(15)	13.3	6.7	20.0	-	6.7	13.3	-	46.7	6.7

⑨ 地域に対する愛着

問 地域に対する愛着や考え方について、あなた（あて名ご本人）のお考えにもっとも近いものをお選びください。（○はひとつ）

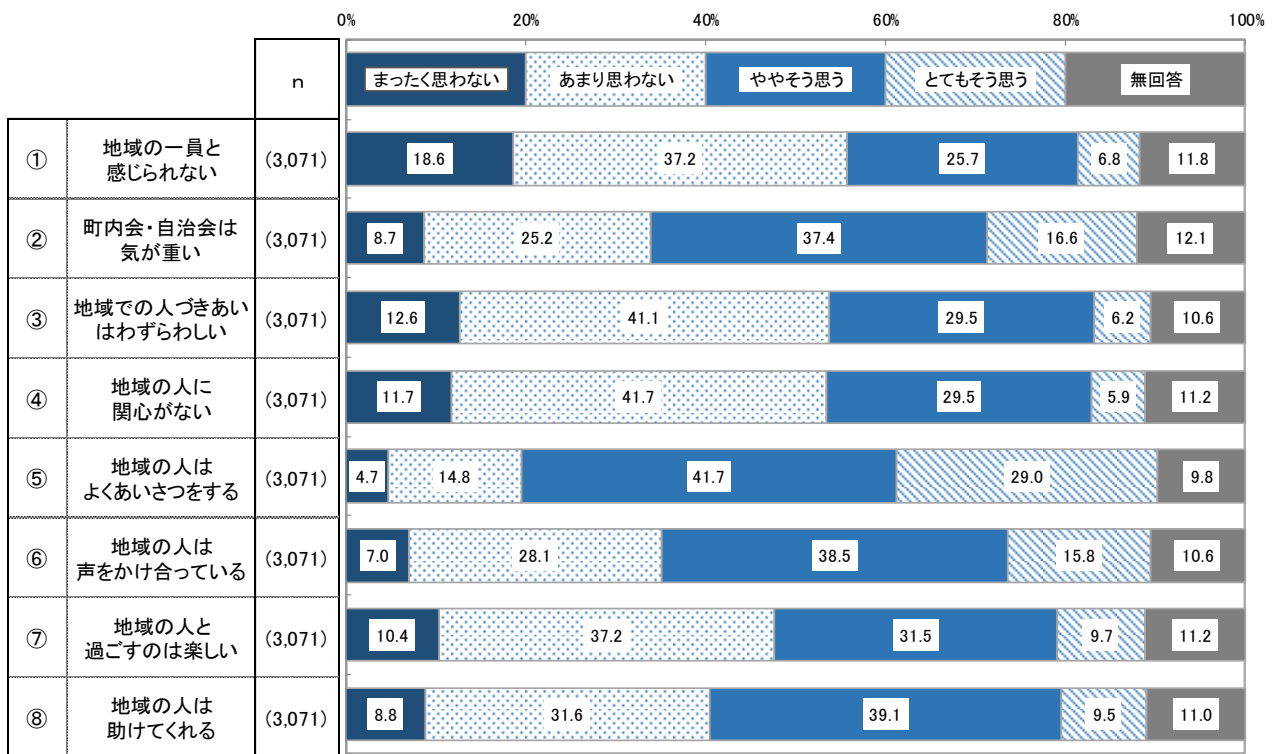
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	31	30																

地域に対する愛着について、“高齢者一般”では、「まったく思わない」「あまり思わない」を合計した『思わない』は、①地域の一員と感じられない、③地域の人つきあいはわずらわしい、④地域の人には関心がない、で半数を超えている。

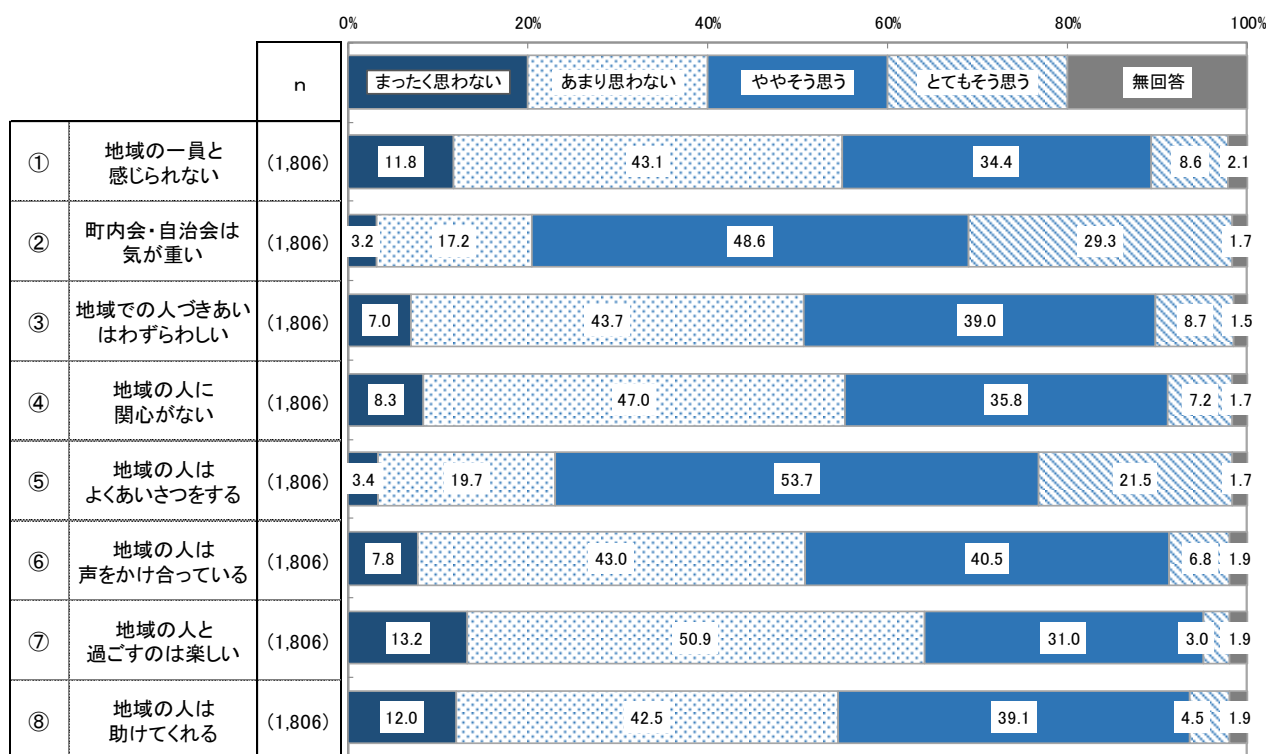
“一般40～64歳”では、①地域の一員と感じられない、③地域での人つきあいはわずらわしい、④地域の人には関心がない、⑥地域の人とはよく声をかけ合っている、⑦地域の人と過ごすのは楽しい、⑧地域の人には助けてくれる、で『思わない』が半数を超えている。

年齢別でみると、①地域の一員と感じられない、③地域での人つきあいはわずらわしい、④地域の人には関心がないは、40～84歳代の幅広い年代で『思わない』が約5割となっている。

図表 II-3-⑨ 地域に対する愛着
【高齢者一般】



【一般 40～64 歳】



【年齢別（まったく思わない+あまり思わない）】

年齢	調査数 (n)	年齢別（まったく思わない+あまり思わない） (%)								
		地域の一員と 感じられない	町内会・自治会 は気が重い	地域での人づきあいは はわずらわしい	地域の人に 関心がない	地域の人とは よくあいさつをする	地域の人とは 声をかけ合っている	地域の人と 過ごすのは楽しい	地域の人には 助けられる	
一般 40～64歳	40～44歳 (296)	56.4	19.9	55.4	55.4	29.1	55.4	62.5	60.5	
	45～49歳 (387)	54.8	20.4	50.4	59.2	20.9	51.2	60.2	55.3	
	50～54歳 (408)	54.6	15.2	50.2	56.6	19.9	51.0	65.9	54.1	
	55～59歳 (361)	52.6	21.3	49.8	53.5	20.0	51.0	68.2	54.9	
	60～64歳 (349)	56.4	26.1	49.0	51.6	27.8	46.4	63.7	48.7	
高齢者 一般	65～69歳 (816)	60.4	31.5	53.1	55.8	21.8	41.4	56.8	45.7	
	70～74歳 (854)	58.9	35.1	55.5	56.0	20.5	36.4	51.1	43.1	
	75～79歳 (754)	54.9	33.9	56.2	53.8	19.3	34.7	43.0	40.0	
	80～84歳 (436)	49.1	36.5	50.5	49.3	16.3	26.8	38.3	33.0	
	85～89歳 (177)	43.5	33.3	47.4	40.1	14.1	24.8	34.5	27.1	
	90～94歳 (26)	34.6	34.6	38.5	38.4	11.5	26.9	15.3	7.6	
	95歳以上 (3)	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	66.7	33.3	

⑩ 地域活動に関する意識

問 近所や町内会における行動について、あなた（あて名ご本人）のお考えにもっとも近いものをお選びください。（○はひとつ）

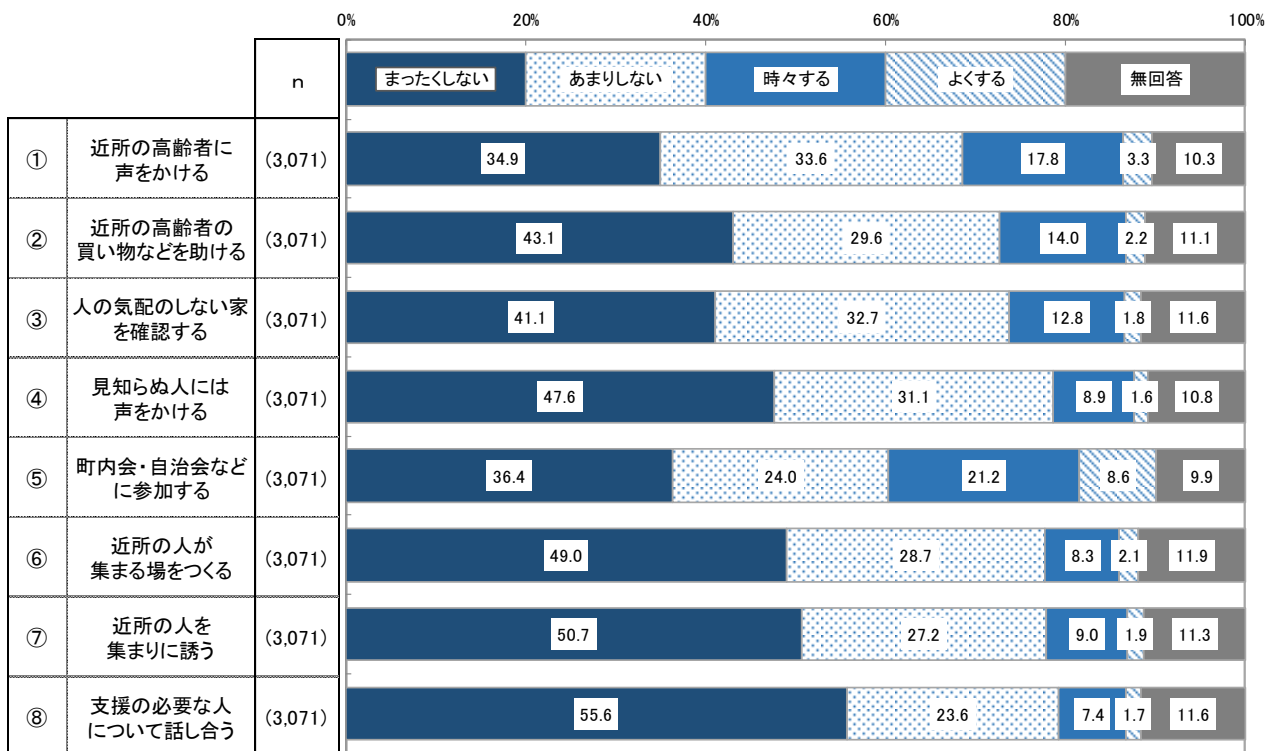
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	32	31																

地域活動に関する意識について、“高齢者一般”では、「まったくしない」「あまりしない」を合計した『しない』は、すべての項目で6割を超えており、⑤町内会・自治会などに参加する、が60.4%と最も低くなっている。

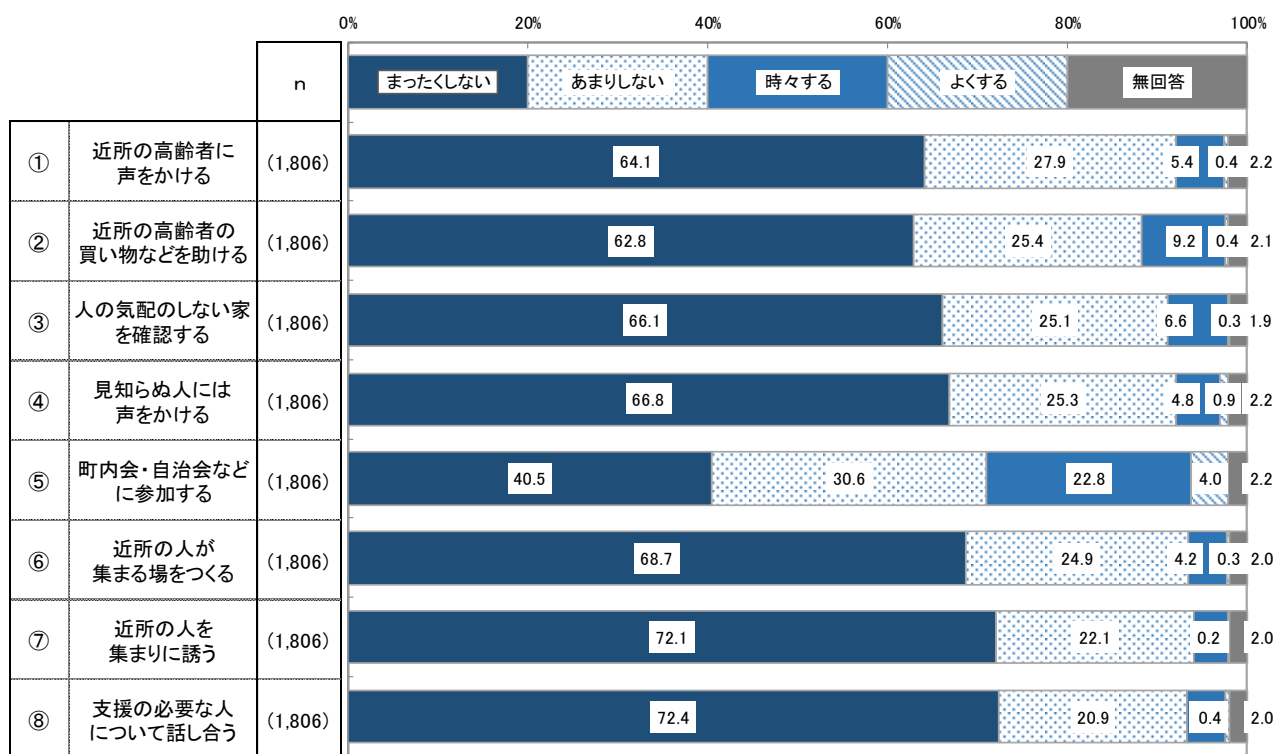
“一般 40～64 歳”ではすべての項目で7割を超えており、⑤町内会・自治会などに参加する（71.1%）を除く項目で、約9割が『しない』となっている。

年齢別でみると、「時々する」「よくする」の合計は、“一般 40～64 歳”では⑤町内会・自治会などに参加する、を除くすべての項目で1割程度となっている。また、①近所の高齢者に声をかける、は75歳以上の後期高齢者において2割以上と最も高くなっている。

図表 II-3-⑩ 地域活動に関する意識
【高齢者一般】



【一般 40～64 歳】



【年齢別（時々する＋よくする）】

		調査数 (n)	声をかける	近所の高齢者に	買物の高齢者を助ける	近所の高齢者の	人の気配のしない家を確認する	声をかける	見知らぬ人には	町内会・自治会などに参加する	近所の人が集まる場をつくる	近所の人を誘う	支援の必要な人について話し合う
一般 40～64 歳	40～44歳	(296)	4.1	5.7	3.7	4.8	22.6	5.1	2.0	3.4			
	45～49歳	(387)	3.9	9.9	4.9	5.7	27.1	3.4	3.7	3.9			
	50～54歳	(408)	5.2	8.0	5.6	6.8	25.7	2.7	3.2	3.4			
	55～59歳	(361)	7.2	12.2	8.9	5.0	26.0	5.0	5.0	5.0			
	60～64歳	(349)	9.2	12.3	11.2	5.7	32.1	6.5	5.2	8.1			
高齢者 一般	65～69歳	(816)	13.5	13.2	11.4	7.8	26.4	6.8	7.2	7.8			
	70～74歳	(854)	19.9	17.2	15.3	12.9	30.5	11.0	11.1	9.8			
	75～79歳	(754)	26.4	17.9	16.3	10.5	31.6	11.2	12.3	9.4			
	80～84歳	(436)	25.0	16.5	15.9	10.3	31.8	12.9	13.7	9.7			
	85～89歳	(177)	31.1	15.8	17.5	12.5	29.9	13.0	14.2	9.6			
	90～94歳	(26)	19.2	19.2	7.6	3.8	23.0	19.2	7.7	7.6			
	95歳以上	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

⑪ 地域に対する印象

問 地域にもっている印象について、あなた（あて名ご本人）のお考えにもっとも近いものをお選びください。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	33	32																

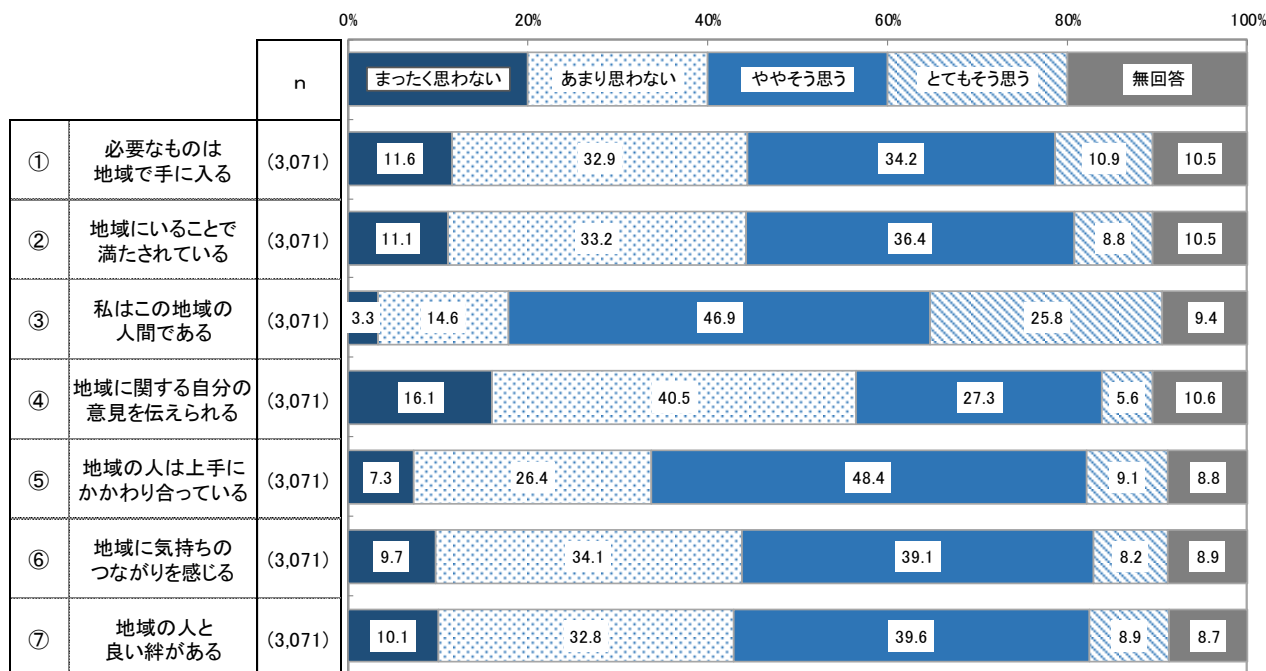
地域に対する印象について、“高齢者一般”では、「まったく思わない」「あまり思わない」を合計した『思わない』は、③私はこの地域の人間であるが17.9%と最も低く、④地域に関する自分の意見を伝えられるが56.6%と最も高くなっている。

“一般40～64歳”では、③私はこの地域の人間であるが29.7%と最も低く、④地域に関する自分の意見を伝えられるが76.3%と最も高くなっている。

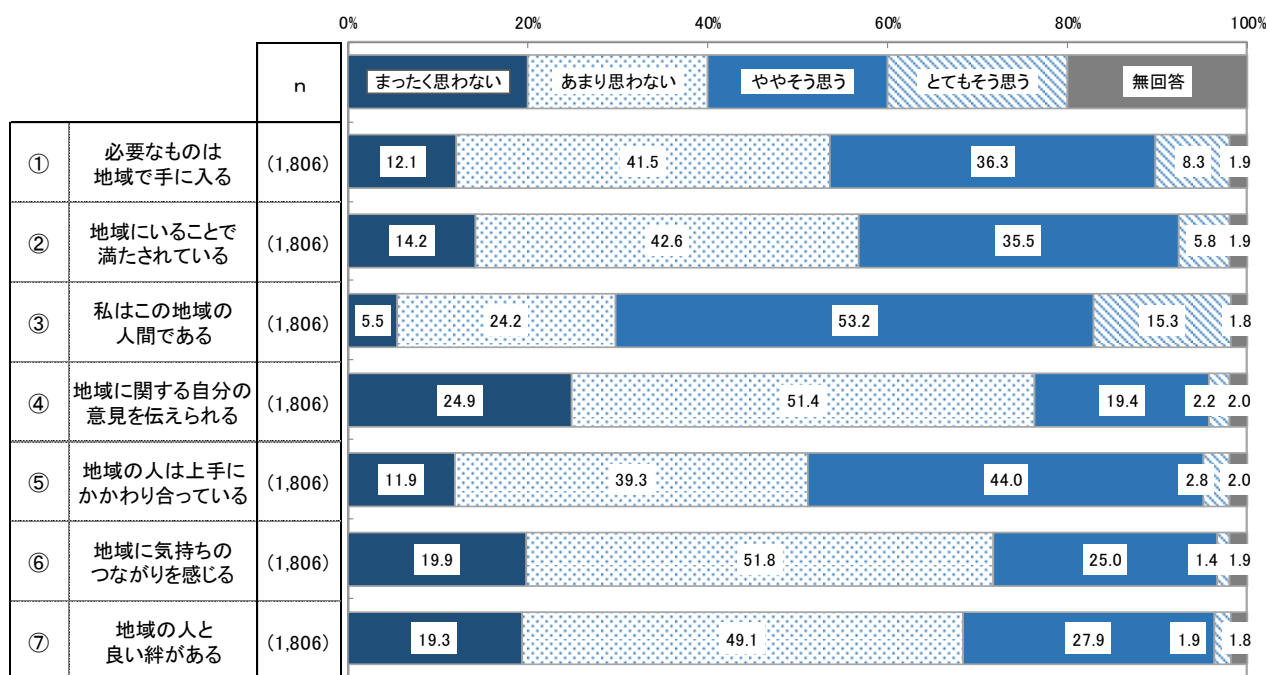
年齢別でみると、「ややそう思う」「とてもそう思う」の合計は、①必要なものは地域で手に入る、②地域にいて満足されている、③私はこの地域の人間である、では年齢による大きな変化はなく、どの年代でも一定の水準となっている。

一方で、④地域に関する意見を伝えられる、⑤地域の方は上手にかかわり合っている、⑥地域に気持ちのつながりを感じる、⑦地域の人との良い絆がある、では年代が高くなるにつれて割合が高くなっている。

図表 II-3-⑪ 地域に対する印象
【高齢者一般】



【一般 40～64 歳】



【年齢別（ややそう思う＋とてもそう思う）】

		調査数 (n)	必要なのは地域で手に入る	地域にいることで満たされている	私はこの地域の人間である	地域に関する自分の意見を伝えられる	地域の人とは上手にかかわり合っている	地域に気持ちのつながりを感じる	良い絆がある
一般 40～64 歳	40～44歳	(296)	43.6	39.8	65.5	16.5	41.9	22.0	28.7
	45～49歳	(387)	47.1	41.9	67.5	18.6	47.5	26.1	29.9
	50～54歳	(408)	46.0	43.9	72.5	22.6	46.8	25.0	27.9
	55～59歳	(361)	43.0	40.4	69.8	24.9	47.6	26.9	29.7
	60～64歳	(349)	43.0	39.8	66.5	24.6	49.6	31.8	33.3
高齢者 一般	65～69歳	(816)	46.4	45.0	71.2	30.3	51.7	40.3	40.0
	70～74歳	(854)	47.1	48.0	74.8	33.0	58.9	47.6	49.3
	75～79歳	(754)	43.7	44.0	73.9	33.8	60.1	48.8	51.7
	80～84歳	(436)	41.8	43.4	70.2	35.3	59.9	53.2	52.9
	85～89歳	(177)	43.5	44.0	71.2	33.9	59.9	57.1	58.7
	90～94歳	(26)	34.6	34.6	65.4	30.7	57.7	50.0	42.3
	95歳以上	(3)	66.6	100.0	100.0	33.3	100.0	33.3	33.3

⑫ 家族介護者の負担感

問 在宅での介護について、困ったり、負担に感じていることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号		50-3	59	56	52	51	46	51										

家族介護者の負担感について、すべてで「精神的なストレスがたまっている」が高く、特に“小多機・看多機”“定期巡回”“特養申込者”では半数を上回っている。

図表 II-3-⑫ 家族介護者の負担感

	(%)						
	02 一 般 4 0 5 6 4 歳	03 要 支 援	04 要 介 護	05 未 利 用	06 小 規 模 ・ 看 多 機	07 定 期 巡 回	08 特 養 申 込 者
調査数(n)	(146)	(250)	(1,437)	(573)	(336)	(107)	(1,975)
精神的なストレスがたまっている	40.4	18.8	48.5	24.6	53.9	57.9	66.6
本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	32.2	2.8	31.5	13.4	47.0	43.9	56.6
本人の言動が理解できないことがある	29.5	8.4	29.1	15.0	39.6	41.1	46.1
自分の自由になる時間が持てない	25.3	10.8	35.8	15.4	42.0	44.9	42.9
日中、家を空けるのを不安に感じる	24.0	17.2	44.1	27.6	42.0	42.1	47.8
自分の用事・都合をすませることができない	22.6	8.4	30.5	13.4	38.4	45.8	43.3
本人に正確な症状を伝えるのが難しい	19.9	2.8	21.2	9.1	31.8	31.8	39.1
先々のことを考える余裕がない	19.2	8.0	26.4	13.3	35.4	30.8	39.7
身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	16.4	13.6	33.3	19.2	35.1	29.0	49.8
経済的につらいと感じるときがある	16.4	8.0	19.5	10.1	30.4	28.0	35.9
仕事と介護の両立が困難	14.4	5.2	13.6	4.7	32.1	24.3	29.6
適切な介護方法がわからない	13.7	6.0	10.0	8.0	18.2	15.0	20.6
来客にも気を遣う	12.3	6.0	17.0	9.1	21.4	15.9	22.0
症状への対応がわからない	11.6	6.4	10.9	5.6	18.8	21.5	20.8
介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	11.6	1.6	2.9	0.7	4.5	2.8	6.7
サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	11.0	8.0	6.9	6.3	12.5	16.8	13.2
介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	10.3	1.6	8.3	5.4	10.7	5.6	10.7
他の家族等に介護を協力してもらえない	9.6	3.6	12.1	4.5	20.5	15.9	26.3
睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	9.6	3.6	20.0	8.0	26.8	19.6	34.7
本人に受診を勧めても同意してもらえない	8.2	2.8	5.5	5.4	5.7	5.6	9.2
家事と介護の両立が困難	6.8	2.0	8.1	4.4	16.7	10.3	19.0
外出中に道に迷うため目が離せない	6.2	-	8.1	2.8	10.4	2.8	14.6
サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	6.2	0.4	3.5	1.0	4.2	8.4	8.5
介護することに対して、周囲の理解が得られない	5.5	-	2.3	1.0	4.2	2.8	4.5
誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	4.8	3.6	3.6	4.4	7.4	5.6	6.9
サービス事業者との関係がうまくいかない	3.4	0.4	2.2	1.4	3.9	5.6	3.7
ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.7	1.6	1.5	1.2	4.2	2.8	4.5
育児と介護の両立が困難	0.7	-	0.7	0.2	1.5	0.9	3.6
その他	5.5	2.0	3.9	2.4	10.4	4.7	7.6
特に困っていることはない	15.8	20.4	7.7	14.5	5.1	1.9	0.8
無回答	8.9	31.2	11.2	30.0	7.1	9.3	9.1

※03～08 は主な介護者が回答

⑬ 家族介護による離職状況

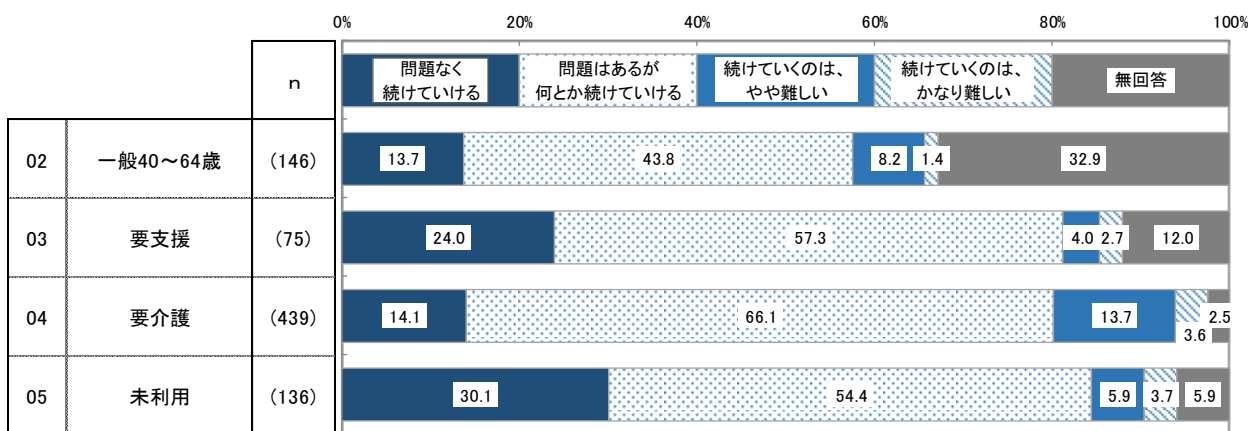
問 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号		50-7	60-3	57-3	53-3													

今後も働きながら介護を続けていけるかについて、「問題なく続けていける」は“未利用”で30.1%となっており、“一般40～64歳”では13.7%となっている。

一方で、「続けていくのはかなり難しい」は、すべての調査種別で1割以下となっている。

図表 II-3-⑬ 家族介護による離職状況



※03・04・05は主な介護者が回答

4 医療・介護・保健福祉の連携

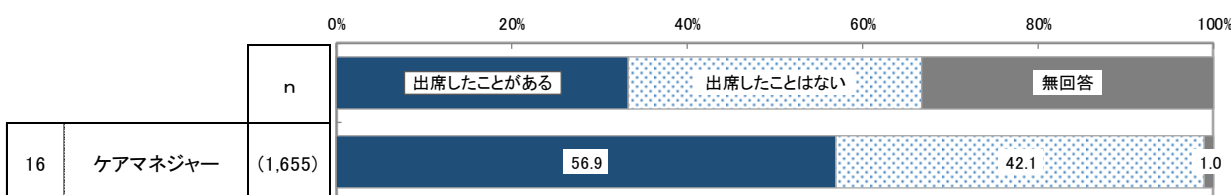
① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況

問 横浜市の地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）に出席したことはありますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																39		

地域ケア会議への参加状況について、「出席したことがある」が56.9%となっている。

図表 II-4-① ケアマネジャーの地域ケア会議への参加状況



② ケアマネジャーが地域ケア会議に期待していること

問 地域ケア会議に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																40		

ケアマネジャーが地域ケア会議に期待していることについて、「多様な職種・立場の人達から意見が聞ける」が79.8%と最も高く、次いで「よりよい支援につなげられること」が64.3%となっている。

図表 II-4-② ケアマネジャーが地域ケア会議に期待していること

調査数 (n)	多様な職種・立場の人達から意見が聞ける	よりよい支援につなげられること	自らの知識・見識を広げる	その他	無回答
16 ケアマネジャー (1,655)	79.8	64.3	55.6	3.7	4.0

③ ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題

問 現時点で、地域ケア会議で課題に思うことは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																41		

ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題について、「参加する機会がない」が40.5%と最も高く、次いで「形式的に開催されているだけと感じる」が27.6%となっている。

図表 II-4-③ ケアマネジャーが感じる地域ケア会議の課題

		(%)									
調査数 (n)	参加する機会がない	形式的に開催されているだけと感じる	参加する時間がない(参加と依頼があるが、自身の時間がとれない)	参加する時間がない(参加と依頼があるが、自身の時間がとれない)	担当者会議以上の効果は期待できない	指摘されるだけの不足点を指摘する	自らのケアプランの不足点を指摘する	その他	特になし	無回答	
16 ケアマネジャー	(1,655)	40.5	27.6	22.0	13.2	6.7	6.3	13.1	2.7		

④ 地域ケア会議で重視していること

問 地域ケア会議で重視していることは何ですか。

(個別ケース、包括レベルそれぞれ、○は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														18				

地域ケアプラザが地域ケア会議で重視していることについて、個別ケースでは、「個別課題の解決やそのためのヒントが得られる」が68.9%と最も高く、次いで「他の専門的な職種から意見が聞ける」が46.7%となっている。

包括レベルでは、「地域課題の把握、明確化」が82.0%と最も高く、次いで「地域住民、団体との連携強化」が68.0%となっている。

図表 II-4-④ 地域ケア会議で重視していること

【個別ケース】

		(%)										
調査数 (n)	個別課題の解決やそのためのヒントが得られる	他の専門的な職種から意見が聞ける	地域住民から意見が聞ける	地域住民、団体との連携強化	地域課題の把握、明確化	医療と介護の連携強化	ケースの自立支援に資するケアマネジメントの検討	社会資源の開発	その他	無回答		
14 ケアプラザ (122)	68.9	46.7	41.8	40.2	35.2	18.9	13.9	5.7	1.6	3.3		

【包括レベル】

		(%)										
調査数 (n)	個別課題の解決やそのためのヒントが得られる	他の専門的な職種から意見が聞ける	地域住民から意見が聞ける	地域住民、団体との連携強化	地域課題の把握、明確化	医療と介護の連携強化	ケースの自立支援に資するケアマネジメントの検討	社会資源の開発	その他	無回答		
14 ケアプラザ (122)	4.9	21.3	41.8	68.0	82.0	16.4	0.8	41.8	1.6	1.6		

⑤ 地域ケア会議の課題

問 現時点で、地域ケア会議（個別ケース、包括レベル）で課題に思うことは何ですか。
（個別ケース、包括レベルそれぞれ、○は3つまで）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号														19				

地域ケアプラザにおける現時点の地域ケア会議の課題について、個別ケースでは「課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない」が37.7%と最も高く、次いで「会議の事前準備の調整が難しい」が36.9%、「会議後の課題解決策の実践について評価ができていない」が36.1%となっている。

包括レベルでは「会議の事前準備の調整が難しい」が50.0%と最も高く、次いで「課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない」が43.4%、「会議後の課題解決策の実践について評価ができていない」が36.9%となっている。

図表 II-4-⑤ 地域ケア会議の課題
【個別ケース】

		(%)													
調査数 (n)	課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない	会議の事前準備の調整(出席者への依頼、出席者への説明等)が難しい	会議後の課題解決策の実践について評価ができていない	蓄積、分析し、地域課題として抽出することが難しい	個別ケース検討結果で得た課題を蓄積、分析し、地域課題として抽出することが難しい	参加者のケア会議に対する理解が不足している	会議の運営・進行が難しい	自立支援に資するケアマネジメントの検討ができていない	事例検討会との違いがわからない(見いだせない)	必要な専門職の参加が不足している	ケア会議の開催目的が共有できていない	会議後の役割をどう分担してよいかかわからない	個別ケースその他	無回答	
14 ケアプラザ	(122)	37.7	36.9	36.1	32.8	25.4	18.0	16.4	11.5	10.7	8.2	7.4	6.6	3.3	

【包括レベル】

		(%)													
調査数 (n)	課題の共有までで終わってしまい解決策の提案に至らない	会議の事前準備の調整(出席者への依頼、出席者への説明等)が難しい	会議後の課題解決策の実践について評価ができていない	蓄積、分析し、地域課題として抽出することが難しい	個別ケース検討結果で得た課題を蓄積、分析し、地域課題として抽出することが難しい	参加者のケア会議に対する理解が不足している	会議の運営・進行が難しい	自立支援に資するケアマネジメントの検討ができていない	事例検討会との違いがわからない(見いだせない)	必要な専門職の参加が不足している	ケア会議の開催目的が共有できていない	会議後の役割をどう分担してよいかかわからない	包括レベルその他	無回答	
14 ケアプラザ	(122)	43.4	50.0	36.9	23.8	20.5	27.0	4.1	2.5	9.0	9.8	13.1	3.3	4.9	

⑥ 介護事業者間の連携

問 他の介護事業者とどのように連携していますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									36	35	34	23						

介護事業者間の連携方法について、“特養”と“老健”では、「事業環境などの情報交換」が約5割となっている。一方で、「特に連携していない」はすべての調査種別で約2割となっている。

図表 II-4-⑥ 介護事業者間の連携

		(%)										
調査数 (n)	事業環境などの情報交換	勉強会、ケース検討会の共同開催	定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携	技術的に対応できない場合の紹介・連携	交換研修の実施	NPO・ボランティア等活動団体との連絡会	地域包括支援センターとの連絡会などの連携	その他	特に連携していない	無回答		
09 特養 (89)	48.3	32.6	29.2	19.1	18.0			4.5	18.0	4.5		
10 老健 (40)	55.0	42.5	30.0	25.0	15.0			-	15.0	2.5		
11 居住系 (395)	35.4	28.6	31.4	10.9	19.2			7.1	19.5	4.6		
12 訪問・通所系 (1,666)	24.1	36.5	22.6	11.3	14.5	6.2	34.5	2.6	21.9	5.3		

⑦ ケアプランの満足度

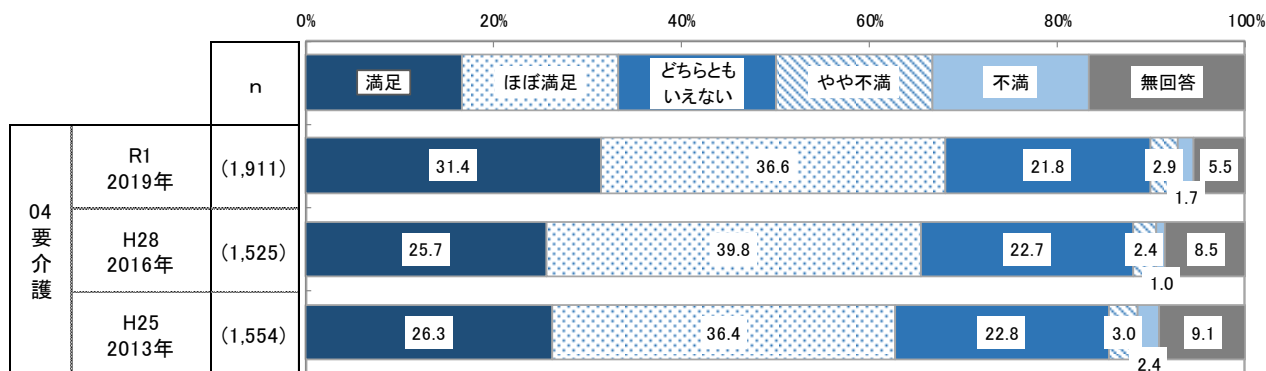
問 ケアプランの内容について、満足していますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号				33														

ケアプランの満足度について、「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』は、68.0%となっている。

過去の結果と比較すると、『満足』はH25 調査で62.7%、H28 調査で65.5%となっており、経年で増加している。

図表 II-4-⑦ ケアプランの満足度



⑧ ケアプランの意向反映状況

問 ケアプランの内容について、あなたの意向が反映されたものになっていますか。

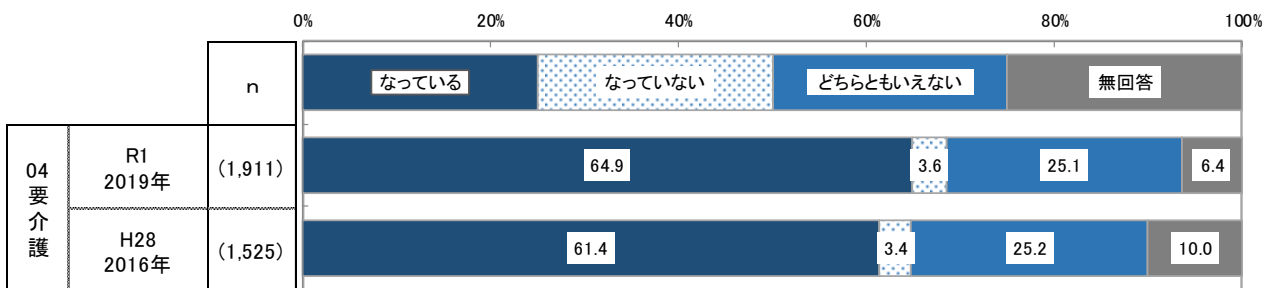
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号				33														

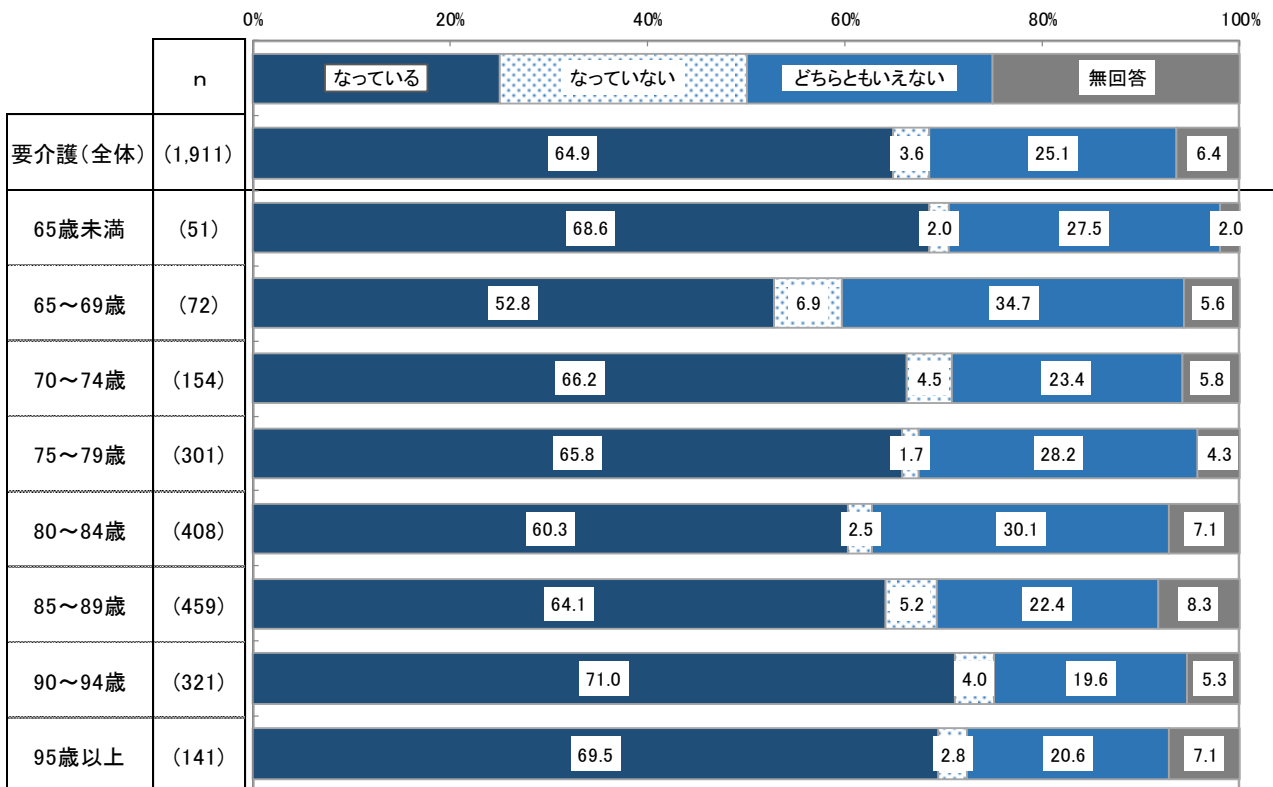
ケアプランの内容で意向が反映されているかについて、「なっている」は64.9%となっており、H28調査の61.4%に比べて高くなっている。

年齢別でみると、65～69歳では「なっている」が52.8%と、他の年齢層に比べると低くなっている。

図表 II-4-⑧ ケアプランの意向反映状況



【年齢別の比較】



⑨ 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題

問 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題と考えることは何ですか。
(○は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														8				

地域ケアプラザにおける介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題について、「委託を受ける居宅介護支援事業者が少ない／無い」が68.0%と最も高く、次いで「認定結果が出る前の暫定プランを立てにくい」が44.3%となっている。

図表 II-4-⑨ 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務の課題

		調査数 (n)	委託を受ける居宅介護支援事業者が少ない／無い	認定結果が出る前の暫定プランを立てにくい(作業後に要介護となつた場合無報酬)	委託先のケアマネジャーが作成したケアプランへの指導がしにくい	利用者への介護予防を理解してもらうのが困難	インフォーマルサービスが不足している	サービス提供事業者が見つからない	委託先のケアマネジャーが介護予防を理解していない	介護予防プランを作成するための知識・技術を習得する機会が不足している	その他	特になし	無回答
14	ケアプラザ	(122)	68.0	44.3	38.5	31.1	26.2	18.9	18.0	9.8	10.7	-	2.5

⑩ ケアマネジャーと連携する上での課題

問 ケアマネジャー（予防の担当職員を含む。以下同じ。）との連携で、課題がありますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号												24						

介護事業所におけるケアマネジャーと連携する上での課題について、「ケアマネジャーが利用者の状況を十分把握していない」が34.5%と最も高く、次いで「利用者が要求するサービス内容と実際の依頼内容にずれがある」が32.1%となっている。

図表 II-4-⑩ ケアマネジャーと連携する上での課題

		調査数 (n)	ケアマネジャーが利用者の状況を十分把握していない	利用者が要求するサービス内容と実際の依頼内容にずれがある	利用者へケアマネジャーを介在せず直接サービス提供者に予定変更を伝えていく	利用者の既往症や病気などの情報が不明	サービスの依頼が来ても、利用者の情報が不明なため、個別のサービス計画がたてられない	ケアマネジャーとのやりとりが煩雑	その他	連携はうまくいっており、特に課題はない	無回答
12	訪問・通所系	(1,666)	34.5	32.1	24.0	20.8	13.8	12.9	6.4	35.9	4.9

⑪ ケアマネジャー業務を行う上での課題

問 ケアマネジャー業務を行う上で、課題として考えているのはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																42		

ケアマネジャー自身が業務を行う上での課題について、「記録など書類の量が多く負担となっている」が79.2%で最も高く、次いで「要介護認定が出る前のいわゆる「暫定ケアプラン」調整の労力について、「要支援」の認定が出た際には介護報酬で評価されない」が60.3%となっている。

図表 II-4-⑪ ケアマネジャー業務を行う上での課題

		(%)																	
調査数 (n)	記録など書類の量が多く負担となっている	要介護認定が出る前のいわゆる「暫定ケアプラン」調整の労力について、「要支援」の認定が出た際には介護報酬で評価されない	介護報酬で算定できない	インフォーマルサービスや民間サービスだけのケアプラン調整だと、インフォーマルサービスや民間サービスに理解されない	介護保険の目的である自立支援に向けたプランを作成しても、利用者・家族に理解されない	支援困難事例のケアマネジメントの方法がわからない	医療機関との連携がうまくとれない	家族に受け入れられない	インフォーマルサービスや民間サービスの利用を提案しても利用者や	忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が充分とれない	サービス事業者に関する情報が少ない	区や市との連携がうまくいかない	相談する人が身近にいない	地域包括支援センター（地域ケアプラザ等）との連携がうまくいかない	認知症ケアの方法がわからない	所属事業所の関連事業者からのサービスに偏る	その他	課題はない	無回答
16 ケアマネジャー	(1,655)	79.2	60.3	40.8	30.8	20.0	17.9	17.0	15.0	9.5	9.5	6.3	6.2	5.0	4.4	8.2	0.7	1.4	

⑫ ケアマネジャー業務の中で負担になっていること

問 ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担感を感じますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号																43		

ケアマネジャー業務の中で負担になっていることについて、「利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整」が 57.3%と割合が最も高く、次いで「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」と「利用者の経済的問題等の相談」が 53.7%となっている。

図表 II-4-⑫ ケアマネジャー業務の中で負担になっていること

		(%)																	
調査数 (n)	利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整	ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと	利用者の経済的問題等の相談	夜間や休日の相談対応	サービス担当者会議の開催・調整	認知症等の利用者にかかわる成年後見手続等の手配	利用者や事業所の苦情対応	主治医や医療機関と連絡調整	介護報酬請求事務	ケアプランの交付(書類の作成など)	利用者や家族に対する業務内容の説明と同意	状況確認のための毎月の居宅訪問・面接	課題分析のための居宅訪問・面接	ケアプラン原案に対する利用者・家族の同意	要介護認定などの申請代行	その他	特に負担に感じることはない	無回答	
16 ケアマネジャー	(1,655)	57.3	53.7	53.7	37.0	30.6	26.6	25.7	23.3	18.1	16.6	12.4	11.9	10.3	5.0	4.9	7.6	2.4	1.0

⑬ ケアマネジャーの相談相手

問 ケアプランを作成する上で、わからないことや困ったことがあったとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																44		

ケアプラン作成時の相談相手について、「同一法人のケアマネジャー」が 87.3%で最も割合が高く、次いで「地域包括支援センター」が 56.4%となっている。

図表 II-4-⑬ ケアマネジャーの相談相手

		(%)															
		調査数 (n)	同一法人のケアマネジャー	地域包括支援センター(地域ケアプラザ等)	区役所(高齢・障害支援課)	他法人のケアマネジャー	サービス事業者	地域のケアマネジャー連絡会	横浜市健康福祉局	医師	国民健康保険団体連合会	神奈川県	かながわ福祉サービス振興会	その他	相談できる相手がいない	困ったりすることは無い	無回答
16	ケアマネジャー	(1,655)	87.3	56.4	24.1	23.9	22.5	10.5	10.1	8.0	3.7	0.4	0.2	2.6	1.7	0.8	0.8

⑭ 相談内容

問 ケアプラン作成時に、どのようなことを相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																45		

ケアプラン作成時の相談内容について、「支援困難事例への対応に関すること」が 79.5%と最も割合が高く、次いで「在宅サービスの適否判断の解釈に関すること」が 45.5%となっている。

図表 II-4-⑭ 相談内容

		(%)										
		調査数 (n)	支援困難事例への対応に関すること	居宅サービスの適否判断の解釈に関すること(運営基準等を含む)	介護保険外のサービスの利用に関すること	利用者・家族間の意見調整に関すること	医療知識に関すること	介護報酬請求事務に関すること	その他のケアマネジャー業務に関すること	その他	特に相談することはない	無回答
16	ケアマネジャー	(1,655)	79.5	45.5	38.0	34.6	33.1	28.6	22.8	1.3	1.0	2.1

III. 認知症にやさしい地域づくり

1 市民理解・地域づくり

① 認知症への関心度

問 あなた（あて名ご本人）は、認知症について、どの程度関心がありますか。（○はひとつ）

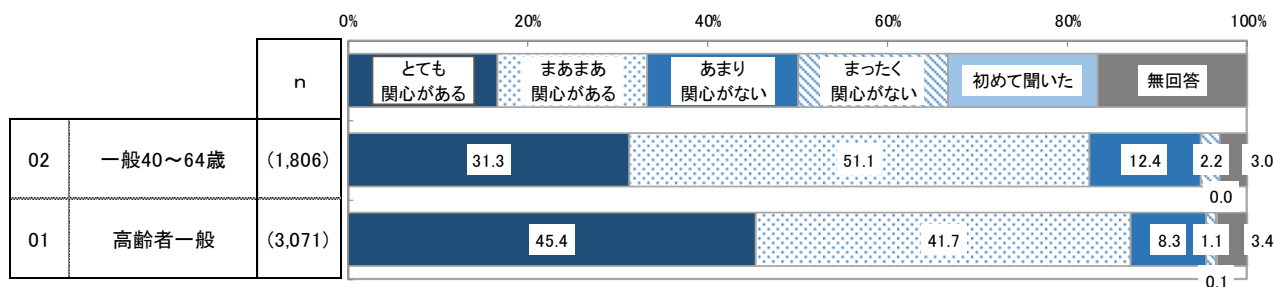
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	47	43																

認知症の関心度について、「とても関心がある」と「まあまあ関心がある」を合計した『関心がある』は、“高齢者一般”では87.1%、“一般40～64歳”では82.4%となっている。

年齢別でみると、『関心がある』はほぼすべての年代で7割以上の大半を占めている。特に、「とても関心がある」については、年齢が高くなるにつれて割合が増える傾向である。

家族介護の状況別でみると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに、現在介護をしている人では、「とても関心がある」が半数を超えているものの、現時点で介護をしていない人では半数を下回っている。

図表 III-1-① 認知症への関心度



【年齢別の比較】

		(%)						
		調査数 (n)	とても 関心有 る	まあ まあ 関心有 る	あま り関 心が ない	ま った く関 心が ない	初 め て 聞 いた	無 回 答
一 般 4 0 ～ 6 4 歳	40～44歳	(296)	23.3	51.4	17.2	4.4	0.0	3.7
	45～49歳	(387)	26.6	54.5	13.4	2.6	0.0	2.8
	50～54歳	(408)	33.6	50.0	12.5	0.7	0.0	3.2
	55～59歳	(361)	37.1	50.1	8.6	1.9	0.0	2.2
	60～64歳	(349)	35.0	49.9	10.6	1.7	0.0	2.9
高 齢 者 一 般	65～69歳	(816)	37.9	48.3	9.9	1.1	0.2	2.6
	70～74歳	(854)	41.6	45.2	9.7	1.2	0.1	2.2
	75～79歳	(754)	53.6	35.9	6.6	0.8	0.0	3.1
	80～84歳	(436)	51.4	34.2	5.7	1.8	0.0	6.9
	85～89歳	(177)	50.3	37.3	7.3	0.0	0.0	5.1
	90～94歳	(26)	42.3	46.2	3.8	7.7	0.0	0.0
	95歳以上	(3)	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0

【家族介護の状況別の比較】

		(%)						
		調査数 (n)	とても 関心有 る	まあ まあ 関心有 る	あま り関 心が ない	ま った く関 心が ない	初 め て 聞 いた	無 回 答
一 般 4 0 ～ 6 4 歳	現在介護をしている	(146)	55.5	37.7	5.5	0.0	0.0	1.4
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(1,137)	31.5	55.8	9.0	1.2	0.0	2.6
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(455)	23.7	45.9	23.1	5.5	0.0	1.8
高 齢 者 一 般	現在介護をしている	(266)	58.3	35.0	3.4	0.4	0.0	3.0
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(1,135)	48.0	42.6	6.3	0.7	0.0	2.4
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(1,449)	40.6	43.2	11.0	1.7	0.2	3.2

② 認知症に関する相談先の認知度

問 あなた（あて名ご本人）は、あなたやご家族が認知症になった時の相談先を知っていますか。 (○はひとつ)

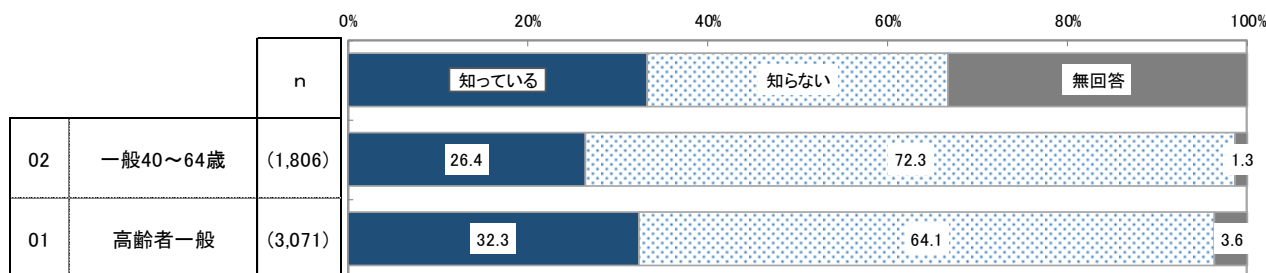
調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	51	48																

自身や家族が認知症になった時の相談先の認知度について、“高齢者一般”と“一般 40～64 歳”ともに「知らない」が6割以上と高くなっている。

年齢別で見ると、“一般 40～64 歳”では年齢が高くなるにつれて「知らない」は減っているが、“高齢者一般”ではすべての年代で「知らない」が6割前後で横並びとなっている。

家族介護の状況別で見ると、“一般 40～64 歳”“高齢者一般”ともに、現在介護をしている人では、「知っている」が半数を超えているものの、現時点で介護をしていない人では約2～3割となっており、大半が「知らない」となっている。

図表 III-1-② 認知症に関する相談先の認知度



【年齢別の比較】

		(%)			
		調査数 (n)	知っている	知らない	無回答
一般 40～64歳	40～44歳	(296)	18.2	81.4	0.3
	45～49歳	(387)	16.3	82.4	1.3
	50～54歳	(408)	29.2	69.6	1.2
	55～59歳	(361)	34.9	64.3	0.8
	60～64歳	(349)	32.7	64.8	2.6
高齢者 一般	65～69歳	(816)	36.9	61.2	2.0
	70～74歳	(854)	29.4	67.9	2.7
	75～79歳	(754)	31.6	64.6	3.8
	80～84歳	(436)	29.1	64.7	6.2
	85～89歳	(177)	37.9	55.4	6.8
	90～94歳	(26)	23.1	61.5	15.4
	95歳以上	(3)	33.3	66.7	0.0

【家族介護の状況別の比較】

		(%)			
		調査数 (n)	知っている	知らない	無回答
一般 40～64歳	現在介護をしている	(146)	63.0	36.3	0.7
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(1,137)	24.2	74.8	1.0
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(455)	20.0	79.6	0.4
高齢者 一般	現在介護をしている	(266)	53.8	43.6	2.6
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(1,135)	33.9	63.3	2.7
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(1,449)	27.1	69.5	3.5

③ 認知症に関する相談先の具体事例

問 相談先として知っているものをお選びください。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	51-1	48-1																

認知症に関する相談先の具体事例について、“高齢者一般”では「かかりつけ医」が62.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が59.6%となっている。“一般40～64歳”では「地域包括支援センター」が63.5%と最も高く、次いで「かかりつけ医」が61.8%となっている。

年齢別にみると、「ケアマネジャー」の割合は55～59歳で60.3%とピークになり、それ以降は高齢になるにつれて低くなっている。

家族介護の状況別にみると、“一般40～64歳”“高齢者一般”ともに、現在介護をしている人では、「ケアマネジャー」が半数を超えているものの、現時点で介護をしていない人では半数を下回っている。

図表 III-1-③ 認知症に関する相談先の具体事例

																		(%)
		調査数 (n)	かかりつけ医 (病院・診療所)	地域包括支援センター (地域ケアプラザ)	区役所 (福祉保健センター)	ケアマネジャー (介護支援専門員)	民生委員	認知症疾患医療センター	市・区社会福祉協議会	認知症コールセンター	家族会	若年性認知症支援コーディネーター	その他	無回答				
02	一般40～64歳	(477)	61.8	63.5	57.2	48.6	6.7	7.3	10.3	5.9	4.6	2.1	-					1.0
01	高齢者一般	(991)	62.5	59.6	53.2	34.2	13.6	11.4	11.1	6.1	3.6	2.6	0.5					0.8

【年齢別の比較】

(%)

		調査数 (n)	かかりつけ医 (病院・診療所)	地域包括支援センター (地域ケアプラザ)	区役所 (福祉保健センター)	ケアマネジャー (介護支援専門員)	民生委員	認知症疾患医療センター	市・区社会福祉協議会	認知症コールセンター	家族会	若年性認知症支援コーディネーター	その他	無回答
一般 40 5 6 4 歳	40～44歳	(54)	68.5	66.7	70.4	42.6	13.0	5.6	14.8	9.3	5.6	0.0	0.0	0.0
	45～49歳	(63)	69.8	71.4	60.3	44.4	9.5	6.3	7.9	7.9	6.3	4.8	0.0	0.0
	50～54歳	(119)	61.3	56.3	57.1	52.1	4.2	11.8	8.4	5.9	2.5	1.7	0.0	2.5
	55～59歳	(126)	64.3	66.7	55.6	60.3	7.1	7.1	9.5	5.6	4.0	1.6	0.0	0.8
	60～64歳	(114)	51.8	62.3	51.8	37.7	4.4	4.4	12.3	3.5	6.1	2.6	0.0	0.9
高齢者 一般	65～69歳	(301)	60.5	64.8	58.5	42.2	11.3	11.0	9.0	6.6	4.0	3.7	0.3	1.0
	70～74歳	(251)	59.4	60.2	57.8	38.2	10.4	12.4	12.7	5.2	3.2	2.8	0.4	1.6
	75～79歳	(238)	66.4	59.2	51.3	26.9	13.9	13.9	13.0	9.2	3.8	2.5	0.4	0.0
	80～84歳	(127)	63.0	55.1	43.3	28.3	18.9	7.9	12.6	3.1	2.4	0.8	0.8	0.0
	85～89歳	(67)	67.2	46.3	43.3	22.4	23.9	9.0	6.0	1.5	6.0	1.5	1.5	1.5
	90～94歳	(6)	83.3	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	95歳以上	(1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【家族介護の状況別の比較】

(%)

		調査数 (n)	かかりつけ医 (病院・診療所)	地域包括支援センター (地域ケアプラザ)	区役所 (福祉保健センター)	ケアマネジャー (介護支援専門員)	民生委員	認知症疾患医療センター	市・区社会福祉協議会	認知症コールセンター	家族会	若年性認知症支援コーディネーター	その他	無回答
一般 40 5 6 4 歳	現在介護をしている	(92)	60.9	66.3	51.1	67.4	9.8	5.4	8.7	4.3	6.5	2.2	0.0	1.1
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(275)	64.4	61.5	57.8	44.7	6.9	7.6	9.8	6.5	2.5	1.8	0.0	1.5
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(91)	56.0	67.0	62.6	38.5	4.4	8.8	14.3	6.6	9.9	3.3	0.0	0.0
高齢者 一般	現在介護をしている	(143)	68.5	67.8	44.1	56.6	7.7	11.9	3.5	3.5	2.1	1.4	1.4	0.0
	現在は介護していないが、 今後介護する立場になる可能性が高い	(385)	64.4	62.9	57.1	29.9	14.5	14.3	14.0	6.8	3.9	3.9	0.5	0.3
	現在介護をしていないし、 今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(392)	59.4	54.6	54.8	31.9	15.3	8.9	12.2	6.4	3.8	2.0	0.0	1.8

④ 地域ケアプラザにおける認知症に関する取組

問 認知症に関してどのような取組を行なっていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号														21				

地域ケアプラザにおける認知症に関する取組について、「認知症サポーター養成講座の開催」が97.5%と最も高く、次いで「介護者のつどい等の介護者に対する支援」が91.0%となっている。

図表 III-1-④ 地域ケアプラザにおける認知症に関する取組

		(%)													
調査数 (n)	認知症サポーター養成講座の開催	介護者のつどい等の介護者に対する支援(家族の会)	成年後見制度や権利擁護に関する講演会等の開催	認知症予防の講座の開催	認知症キャラバン・メイトの支援	カフェ等	認知症の人や家族等とのための交流の場や居場所づくり(認知症カフェ等)	地域のネットワーク構築のための事業への参加	包括エリアネットワーク構築のための連絡会の開催	認知症に関する相談会等の開催(総合相談以外)	若年性認知症の人への支援	その他	特になし	無回答	
14 ケアプラザ	(122)	97.5	91.0	86.1	82.0	79.5	57.4	52.5	30.3	20.5	12.3	2.5	-	-	

⑤ 認知症に関する取組の認知度

問 認知症に関する取組について知っているものをお選びください。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	52	49																

認知症に関する取組の認知度について、「高齢者一般」と「一般40～64歳」ともに「知っているものはない」が約7割と大半を占めている。

年齢別にみても、「知っているものはない」が大半を占めている。

家族介護の状況別にみると、現在介護をしている人では、「知っているものはない」が他に比べて低くなっているものの、それでも半数となっている。

図表 III-1-⑤ 認知症に関する取組の認知度

		(%)									
調査数 (n)	介護者のつどい	認知症カフェ	ル 認知症高齢者等見守りシ-	パ(認知症サポーター養成講座)	認知症サポーター養成講座	ネットワーク	認知症高齢者等 SOS	認知症初期集中支援チーム	知っているものはない	無回答	
02 一般40～64歳	(1,806)	7.6	12.2	6.5	8.7	3.0	1.1	75.6	2.8		
01 高齢者一般	(3,071)	10.7	10.5	7.6	7.4	4.4	2.2	66.1	9.5		

【年齢別の比較】

		(%)									
		調査数 (n)	介護者のつどい	認知症カフェ	認知症高齢者等見守りシール	認知症サポーター養成講座(認知症サポーターキャラバン)	認知症サポーターネットワーク	認知症高齢者等SOSネット	認知症初期集中支援チーム	知っているものはない	無回答
一般 40～64歳	40～44歳	(296)	7.8	11.8	6.4	8.1	3.4	1.7	77.7	1.0	
	45～49歳	(387)	3.9	8.8	4.4	8.0	1.8	1.0	80.4	2.8	
	50～54歳	(408)	8.1	13.2	6.4	8.8	2.5	0.5	75.2	2.7	
	55～59歳	(361)	11.1	14.7	8.9	11.4	4.4	1.9	71.5	2.8	
	60～64歳	(349)	7.7	12.6	6.6	7.4	3.2	0.3	73.1	4.3	
高齢者 一般	65～69歳	(816)	12.0	16.2	8.9	8.5	4.4	2.0	67.2	5.1	
	70～74歳	(854)	10.4	9.4	7.0	6.7	3.7	1.4	69.9	6.4	
	75～79歳	(754)	11.0	8.6	7.3	8.4	5.0	3.2	62.9	12.6	
	80～84歳	(436)	10.1	7.1	6.9	6.0	3.4	2.3	64.2	13.8	
	85～89歳	(177)	7.9	6.8	7.9	4.5	6.2	4.0	63.3	18.6	
	90～94歳	(26)	7.7	3.8	3.8	7.7	7.7	0.0	57.7	26.9	
	95歳以上	(3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

【家族介護の状況別の比較】

		(%)									
		調査数 (n)	介護者のつどい	認知症カフェ	認知症高齢者等見守りシール	認知症サポーター養成講座(認知症サポーターキャラバン)	認知症サポーターネットワーク	認知症高齢者等SOSネット	認知症初期集中支援チーム	知っているものはない	無回答
一般 40～64歳	現在介護をしている	(146)	17.8	32.2	11.0	17.8	8.2	2.1	51.4	2.7	
	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い	(1,137)	6.7	11.0	6.5	7.7	2.5	0.8	77.7	2.3	
	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(455)	7.5	9.2	5.5	7.9	3.1	1.3	80.0	2.2	
高齢者 一般	現在介護をしている	(266)	17.3	12.4	11.3	10.2	4.1	1.5	57.5	10.2	
	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い	(1,135)	12.1	12.3	8.3	7.8	5.0	2.6	64.8	8.6	
	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない	(1,449)	8.3	8.9	6.4	6.1	3.9	2.1	70.9	7.8	

2 認知症予防、早期診断・早期対応

① 若年性認知症の認知度

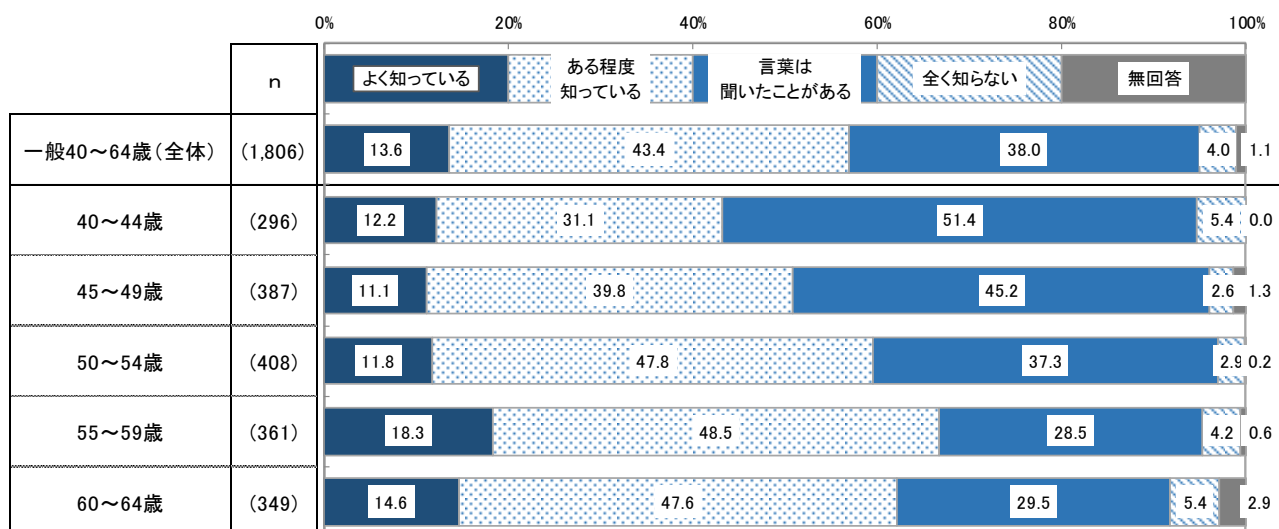
問 あなた（あて名ご本人）は65歳未満で発症する「若年性認知症」のことを知っていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号		46																

若年性認知症の認知度について、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合計した『知っている』は、57.0%となっている。

年齢別にみると、『知っている』は40～44歳では43.3%となっているが、年齢が高くなるにつれて割合が高くなり、60～64歳では62.2%となっている。

図表 III-2-① 若年性認知症の認知度



② 認知症医療機関の相談先（診療・診療以外）

問 認知症に関する困りごとについてどの機関（関係者）に相談していますか。

（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号															16			

認知症の医療機関の相談先について、“診療”では、「専門病院」が37.6%と最も高く、次いで「認知症専門医」が20.4%となっている。

“診療以外”では、「地域包括支援センター」が25.2%と最も高く、次いで「区役所高齢・障害支援課」が18.3%となっている。

図表 III-2-② 認知症医療機関の相談先（診療・診療以外）

【診療】

		調査数（n）	専門病院	認知症専門医	認知症疾患医療センター	在宅医療連携拠点	サポ－ト医	その他	し特に相 ていな ない	無 回 答
15	認知症	(1,414)	37.6	20.4	17.3	6.9	6.1	5.0	37.2	1.6

【診療以外】

		調査数（n）	支地域包 援センタ ー	区役所高 齢・障 害支 援課	専門病 院	在宅医 療連 携拠 点	認知 症専 門医	認知 症疾 患医 療セ ンタ ー	サポ ー ト 医	その 他	し特に相 ていな ない	無 回 答
15	認知症	(1,414)	25.2	18.3	16.1	8.5	8.4	7.4	3.0	3.1	44.3	4.6

③ 横浜市の認知症に関する取組

問 以下の中から、横浜市の取組として、「知っているもの」「活用したことがあるもの」「重要と考えるもの」を選んでください。

(「知っているもの」「活用したことがあるもの」はあてはまるものすべてに○)

(「重要と考えるもの」は3つまで回答可)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号															18			

認知症医療機関における横浜市の認知症に関する取組について、知っている取組は、「認知症サポート医」が40.6%と最も高く、次いで「認知症に関する研修」が40.0%、「認知症疾患医療センター」が38.6%となっている。

活用したことがある取組は、「認知症に関する研修」が11.9%と最も高く、次いで「認知症疾患医療センター」が10.5%となっている。

重要だと考える取組は、「認知症疾患医療センター」が39.7%と最も高く、次いで「認知症サポート医」が27.3%、「認知症初期集中支援チーム」が25.8%となっている。

図表 III-2-③ 横浜市の認知症に関する取組

		調査数 (n)	認知症サポート医	認知症に関する研修	認知症疾患医療センター	認知症カフェ	認知症初期集中支援チーム	認知症サポーター養成講座	認知症高齢者等見守りシール	横浜市認知症ケアパスガイドブック (オレンジガイド)	介護者のつどい	SOSネットワーク	若年性認知症コーディネータ	無回答 (%)
15 認知症	知っている取組	(1,413)	40.6	40.0	38.6	28.1	22.5	20.6	19.6	19.2	17.9	15.1	11.1	36.4
	活用したことがある取組	(1,413)	4.3	11.9	10.5	2.1	2.5	2.8	0.8	2.3	1.3	0.9	0.4	78.1
	重要だと考える取組	(1,413)	27.3	11.6	39.7	2.8	25.8	5.2	2.5	2.3	6.7	7.0	6.1	47.4

④ 今後期待する認知症施策

問 今後の横浜市の取組としてどのようなことを期待しますか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号															19			

認知症医療機関が横浜市に期待していることとして、「専門医療機関と地域医療機関との医療連携の体制」が57.2%と最も高く、次いで「認知症専門医療機関の情報」が47.1%となっている。

図表 III-2-④ 今後期待する認知症施策

									(%)	
調査数 (n)		専門医療機関と地域医療機関との医療連携の体制	認知症専門医療機関の情報	市民への普及啓発	機関（認知症）医療機関と介護関連との連携	認知症診療についての研修会の開催	その他	特になし	無回答	
15	認知症	(1,413)	57.2	47.1	44.4	35.2	21.2	2.8	6.2	6.4

⑤ 認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携

問 認知症の人の医療連携を進める上で必要なことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																37		

ケアマネジャーにおける認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携について、「認知症の周辺症状が悪化したときに、入院できる病院があること」が69.2%と最も高く、次いで「身体の病状が急変したときに、入院できる病院の相談があること」が60.3%となっている。

図表 III-2-⑤ 認知症高齢者の対応に向けて必要な医療連携

		(%)								
調査数 (n)	認知症の周辺症状があること	身体病状が急変したときに、入院できる病院の相談があること	受診時、医師が認知症の人への適切な対応をしてくれること	受診につながる人がいない人に対する医師の訪問	医師から認知症の周辺症状について助言が受けられること	医師から身体健康管理等について助言が受けられること	その他	無回答		
16 ケアマネジャー (1,655)	69.2	60.3	58.9	56.1	55.5	46.3	1.7	1.7		

IV. ニーズや状況に応じた施設・住まいづくり

1 個々の状況に応じた施設・住まいの整備・供給

① 介護サービスと暮らし方のバランス

問 あなた（あて名ご本人）は、介護サービスの利用と住まいについて、どのようにお考えですか。最も近いものをお選びください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	53	51	41	37														

介護サービスとの利用と暮らし方のバランスについて、“高齢者一般”“一般40～64歳”“要支援”“要介護”ともに「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が最も高く、“要介護”では54.2%となっている。次いで「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が2～3割となっている。

過去の結果と比較すると、4種類とも「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」がH28調査から低くなっており、特に“要介護”ではH25・H28調査の7割以上から低くなっており、一方で「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が高くなっている。

図表 IV-1-① 介護サービスと暮らし方のバランス

		調査数（n）	「介護が必要になったら自宅で暮らしたいが、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」	「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」	「介護が必要になったら、介護サービスを利用せず、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」	「サービス付き高齢者向け住宅」に入居したい	「ケアサービスを受けながら暮らしたい」	「在宅介護サービスを受けながら暮らしたい」	「健康なうちから将来介護を受けられる老人ホームなどに入所したい」	「すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている」	その他	わからない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	39.1	24.9	2.7	6.3	7.1	3.7	0.1	0.6	10.7	4.8	
01	高齢者一般	(3,071)	46.1	20.1	4.3	4.0	2.9	2.1	0.2	0.8	6.4	13.2	
03	要支援	(534)	40.8	29.4	4.5	1.5	1.9	2.2	0.7	0.7	8.1	10.1	
04	要介護	(1,911)	54.2	26.4		1.0	1.4	1.0	1.7		9.1	5.2	

【経年比較】

	02 一般40～64歳			01 高齢者一般			03 要支援			04 要介護		
	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25	R1	H28	H25
	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年	2019年	2016年	2013年
	(%)											
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	39.1	49.6	50.5	46.1	51.1	53.1	40.8	47.3	36.6	54.2	71.6	70.4
できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	24.9	21.7	20.8	20.1	20.8	18.2	29.4	22.2	27.6	26.4	6.8	5.5
介護が必要になっても、介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	2.7	4.2	5.0	4.3	8.0	9.6	4.5	4.9	7.3			
「サービス付き高齢者向け住宅」に入居したい	6.3	5.9	5.6	4.0	3.7	2.8	1.5	1.3	3.5	1.0	1.0	1.6
バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて、在宅介護サービスを受けながら暮らしたい	7.1	6.7	6.5	2.9	4.0	3.3	1.9	1.9	2.3	1.4	2.1	2.3
健康なうちから将来介護を受けられる老人ホームなどに入所したい	3.7	1.9	2.2	2.1	1.6	2.0	2.2	2.1	2.5	1.0	1.3	2.1
すでに介護施設等に入所・入居申込みをしている	0.1	0.1		0.2	0.4		0.7	0.2		1.7	1.2	
その他	0.6	0.4	1.2	0.8	1.0	0.9	0.7	0.8	1.2			
わからない	10.7	8.6	7.3	6.4	5.9	5.8	8.1	3.2	8.0	9.1	5.7	8.3

※ “一般 40～64 歳” は、H28 調査以前は 55～64 歳が対象

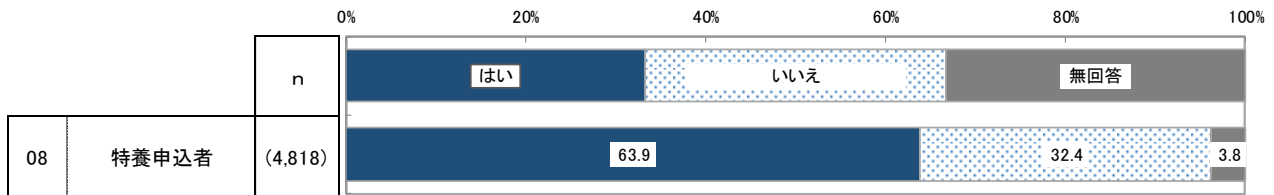
② 特別養護老人ホームへの入所希望

問 引き続き、特別養護老人ホームへの入所を希望しますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号								2										

特別養護老人ホームへの入所希望について、「はい」が 63.9%と半数以上を占めており、「いいえ」は 32.4%となっている。

図表 IV-1-② 特別養護老人ホームへの入所希望



③ 特別養護老人ホームを希望する理由

問 特別養護老人ホームに入所の申込をした理由は何ですか。あてはまる理由を3つまでお選びください。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号								34										

特別養護老人ホームを入所希望する理由について、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が 32.2%と最も高く、次いで「要介護度が重い、認知度、食事・排せつができないほど、介護の必要性が高くなったため」が 30.1%となっている。

図表 IV-1-③ 特別養護老人ホームを希望する理由

調査数 (n)	専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため	要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため	必要があるため	すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため	介護者が高齢や病気がちで健康状態が良くないため	他の施設より安いため	介護者の精神的ストレスが大きいため	介護者が就労しているため	他の施設に入院・入所中だが、退院・退所の期限があるため	今の在宅での生活を続けたいが、先々の心配があるため	在宅での生活を続けるには、住まいの環境がよくないため	同居者の中にも要介護者または障害者・病気がかかっている人・乳幼児等があり、介護に負担がかかるため	介護者がいないため	本人が入所を希望しているため	在宅では施設より金銭的な負担が大きいため	介護者が育児をしているため	その他	無回答 (%)
08 特養申込者 (3,078)	32.2	30.1	23.0	22.7	20.8	20.6	20.0	14.9	14.8	13.5	9.4	9.0	4.6	3.9	1.4	4.7	7.4	

④ 特別養護老人ホームを希望しない理由

問 特別養護老人ホームへの入所を希望しない主な理由は何ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
問番号								2-1											

特別養護老人ホームを希望しない理由について、「特別養護老人ホームに入所した」が37.8%と最も高く、次いで「亡くなった」が25.7%、「このまま在宅で過ごすことにした」が6.9%となっている。

図表 IV-1-④ 特別養護老人ホームを希望しない理由

													(%)	
		調査数 (n)	特別養護老人ホームに入所した	亡くなった	このまま在宅で過ごすことにした	病院に入院した	介護老人保健施設に入所した	有料老人ホームに入居した	認知症高齢者グループホームに入居した	介護療養型医療施設に入所した	他の市町村へ引っ越した	その他	無回答	
08	特養申込者	(1,559)	37.8	25.7	6.9	6.7	6.0	5.3	2.7	2.2	0.3	4.3	2.2	

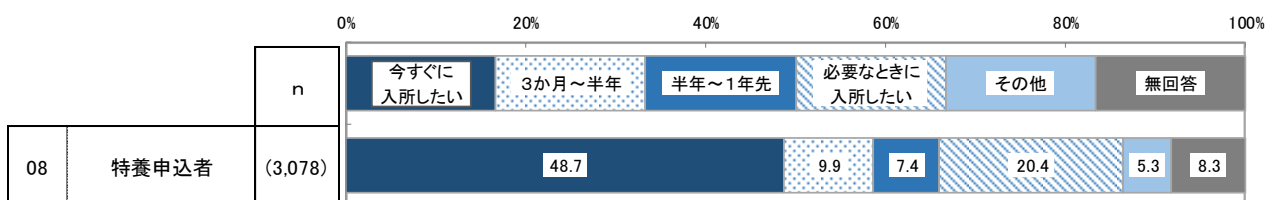
⑤ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期

問 特別養護老人ホームに入所したい時期はいつ頃ですか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号								36										

特別養護老人ホームに入所したい時期について、「今すぐに入所したい」が48.7%、「3か月～半年」が9.9%となっており、「半年～1年先」を加えた『1年以内』は66.0%となっている。

図表 IV-1-⑤ 特別養護老人ホームに入所を希望する時期



⑥ 医療的ケアの状況

問 あなた（特養入所希望者）は、現在、次のような医療を受けていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号								19										

現在受けている医療的ケアについて、「胃ろう」が4.6%と最も高く、次いで「バルーンカテーテル留置」が4.5%、「じょくそうの処置」が4.1%となっている。
また、「医療処置は受けていない」は52.7%と半数を占めている。

図表 IV-1-⑥ 医療的ケアの状況

		(%)																		
		調査数 (n)	胃ろう	バルーンカテーテル留置	じょくそうの処置	たんの吸引	インシュリン	ベースメーカー	ストーマ (人工肛門・人工膀胱)	透析	在宅酸素	口腔 (経管栄養)	鼻腔 (経管栄養)	食道ろう	I V H (中心静脈栄養)	腸ろう	気管切開	その他	医療処置は受けていない	無回答
08	特養申込者	(3,078)	4.6	4.5	4.1	3.7	3.2	2.1	1.2	1.1	0.9	0.8	0.6	0.2	0.2	0.1	0.1	15.5	52.7	12.4

⑦ 令和元年11月に利用した介護サービス

問 以下の介護保険の在宅サービスのうち、令和元年11月に利用したサービスすべてに○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号								20										

令和元年11月に利用した介護サービスについて、「通所介護（デイサービス）」が26.2%と最も高く、次いで「福祉用具貸与」が25.2%、「短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）」が24.7%となっている。

一方で、「在宅サービスは利用していない」は24.7%となっている。

図表 IV-1-⑦ 介護サービスの利用状況

	(%)	(%)
	08 特 養 申 込 者	08 特 養 申 込 者
調査数	(3,078)	(3,078)
通所介護(デイサービス)	26.2	
福祉用具貸与	25.2	
短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	24.7	
訪問介護	15.4	
訪問看護	11.6	
特定施設入居者生活介護 (有料老人ホーム、ケアハウス)	11.1	
福祉用具購入	5.8	
訪問リハビリテーション	5.3	
通所リハビリテーション(デイケア)	5.3	
訪問入浴介護	5.1	
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	4.6	
小規模多機能型居宅介護 (1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供)	3.4	
住宅改修		3.2
短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)		2.8
居宅療養管理指導		2.6
認知症対応型通所介護		2.5
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		1.9
夜間対応型訪問介護		1.2
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (29人以下の小規模な特別養護老人ホーム)		1.2
地域密着型通所介護(18人以下の小規模な通所介護)		1.1
地域密着型特定施設入居者生活介護 (29人以下の小規模な特定施設入居者生活介護)		0.6
看護小規模多機能型居宅介護		0.5
在宅サービスは利用していない		24.7
無回答		11.1

⑧ 利用したくても、利用できない介護サービス

問 以下の介護保険の在宅サービスのうち、事業所が近くにない、利用したいが予約がいっぱいで利用できないなど、事業者側の都合で、利用したいのに利用できない（できなかった）サービスはありますか。 （あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号								23										

利用したくても利用できていない介護サービスについて、「短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）」が7.0%と最も高く、次いで「特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス）」が3.2%、「通所介護（デイサービス）」が2.9%となっている。また、「あてはまるものはない」が28.0%となっている。

一方で、「在宅サービスは利用していない」は23.7%となっている。

図表 IV-1-⑧ 利用したくても、利用できない介護サービス

	(%)		(%)
	08 特 養 申 込 者		08 特 養 申 込 者
調査数	(3,078)	調査数	(3,078)
短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	7.0	認知症対応型通所介護	0.8
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス)	3.2	訪問入浴介護	0.7
通所介護(デイサービス)	2.9	福祉用具購入	0.7
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (29人以下の小規模な特別養護老人ホーム)	2.3	住宅改修	0.7
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2.0	地域密着型特定施設入居者生活介護 (29人以下の小規模な特定施設入居者生活介護)	0.7
短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	1.9	夜間対応型訪問介護	0.6
通所リハビリテーション(デイケア)	1.4	看護小規模多機能型居宅介護	0.6
福祉用具貸与	1.4	居宅療養管理指導	0.4
小規模多機能型居宅介護 (1か所で通い、訪問、宿泊の各サービスを提供)	1.2	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.3
訪問介護	1.1	地域密着型通所介護 (18人以下の小規模な通所介護)	0.3
訪問リハビリテーション	0.9	あてはまるものはない	28.0
訪問看護	0.8	在宅サービスは利用していない	23.7
		無回答	30.2

⑨ 施設サービスの質の向上のための取組

問 サービスの質の向上のために、次の取組を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号									33	32	31	20						

施設サービスの質の向上のためにを行っている取組について、「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」はすべての調査種別で8割以上と高くなっている。

一方で、「外部評価を受けている」は、“特養”で25.8%、“居住系”で56.7%となっているものの、“老健”“訪問・通所系”では約1割となっている。

図表 IV-1-⑨ 施設サービスの質の向上のための取組

		(%)												
調査数 (n)		事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている	サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している	施設を開放し、ボランティア団体や保育園・幼稚園、小学校など地域との交流を行っている	管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している	多問題事例等に関するケース検討会を行っている	ユニットケアを実施している	利用者や家族に対し満足度調査を行っている	利用者が地域活動に出向くなど、地域の一員として暮らせるような工夫をしている	利用者や家族に対し満足度調査を行っている	外部評価を受けている(介護サービス情報の公開を除く、ISO、第三者評価など)	その他	特に行っていない	無回答
09	特養	(89)	91.0	74.2	74.2	53.9	52.8	44.9	42.7	33.7	25.8	1.1	-	2.2
10	老健	(40)	97.5	60.0	57.5	45.0	55.0	20.0	35.0	15.0	10.0	-	-	-
11	居住系	(395)	86.6	63.0	49.6	74.9	44.8	40.8	44.6	40.8	56.7	2.8	1.3	2.5
12	訪問・通所系	(1,666)	80.7	63.8		72.6	39.6		40.6		12.4	4.1	3.2	2.3

2 相談体制・情報提供の充実

① 特別養護老人ホームの申し込みに関する相談先

問 特別養護老人ホームの入所申込について、どちらかに相談しましたか。

(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号								24										

特別養護老人ホームの申込に関する相談先について、「ケアマネジャーに相談した」が 54.8%と最も高く、次いで「市役所・区役所」「地域包括支援センター」が 7.1%となっている。

過去の結果と比較すると、「ケアマネジャーに相談した」は H28 調査の 64.3%に対して低くなっている。

図表 IV-2-① 特別養護老人ホームの申し込みに関する相談先

		調査数 (n)	ケアマネジャーに相談した	市役所・区役所に相談した	地域包括支援センター(地域ケアプラザ)に相談した	高齢者施設・住まいの相談センター	事業者の相談窓口	その他	相談先がわからず、相談しなかった	特に相談しようと思わなかった	無回答 (%)
08 特養申込者	R1 2019年	(3,078)	54.8	7.1	7.1	6.4	3.7	4.1	1.5	3.2	12.1
	H28 2016年	(1,373)	64.3	9.3	8.5		3.3	3.1	2.0	3.3	6.2
	H25 2013年	(1,314)	61.7	11.7	7.4		3.2	2.6	2.2	3.4	7.8

② 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況

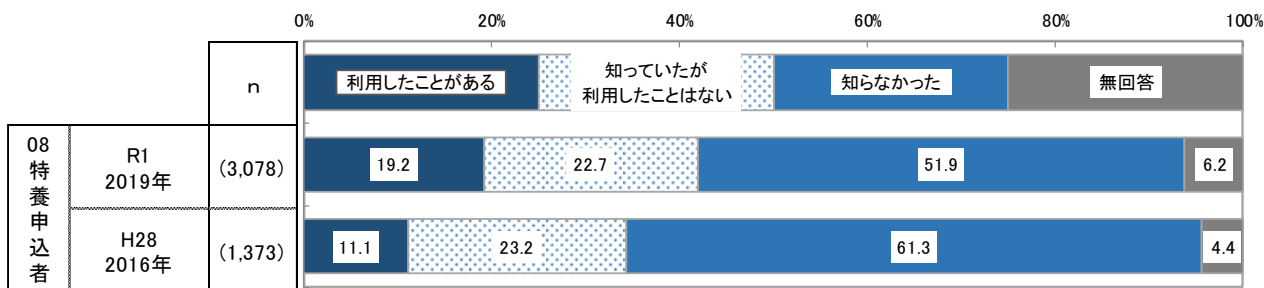
問 「高齢者施設・住まいの相談センター」で高齢者の施設や住まいについての相談を受けています。利用したことがありますか。 (○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号								41										

高齢者施設・住まい相談センターの利用状況について、「利用したことがある」は19.2%となっており、「知らなかった」は51.9%となっている。

過去の結果と比較すると、「利用したことがある」はH28調査から増加し、「知らなかった」が減少している。

図表 IV-2-② 高齢者施設・住まいの相談センターの利用状況



③ 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

問 利用したことはない理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号								41-1										

高齢者施設・住まい相談センターを利用しない理由について、「どういった情報を得られるかわからない」が35.9%と最も高く、H28調査も同様の傾向となっている。

図表 IV-2-③ 高齢者施設・住まいの相談センターを利用しない理由

調査年度	調査数 (n)	理由 (%)								無回答 (%)
		困る(情報がわからないから)	わからない(情報を得られない)	どうも(情報)	相談する(時間)	忙しい(相談する時間)	平日(受け付けていない)	日中(9時~17時)	自宅(遠い)	
R1 2019年	(699)	35.9	21.9	17.3	13.0	10.0	9.6	16.7	5.4	
H28 2016年	(318)	39.9	22.0	21.1	13.2	10.7	9.7	16.7	4.4	

④ 高齢者施設・住まいの相談センターの今後の利用意向

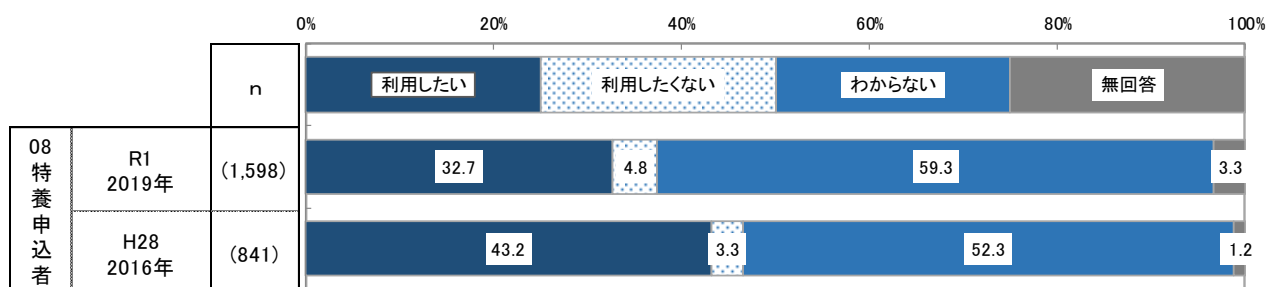
問 今後利用したいと思いますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号								41-2										

高齢者施設・住まいの相談センターの今後の利用意向について、「利用したい」は32.7%となっており、「利用したくない」は4.8%となっている。また、「わからない」は59.3%と最も高い割合となっている。

過去の結果と比較すると、「利用したい」はH28調査に比べて減少しており、「わからない」が増加している。

図表 IV-2-④ 高齢者施設・住まいの相談センターの今後の利用意向



V. 安心の介護を提供する体制づくり

1 新たな介護人材の確保

① 施設を運営する上での課題

問 貴施設を運営する上での問題点はどれですか。 (〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									45	44	43							

施設を運営する上での課題について、「良質な人材の確保が難しい」はすべての調査種別で最も高くなっており、“特養”“老健”では6割、“居住系”では44.1%となっている。次いで、「今の介護報酬では、人材の確保・定着のために十分な賃金を払えない」となっている。

図表 V-1-① 施設を運営する上での課題

調査数 (n)	良質な人材の確保が難しい	十分な賃金を払えない	今の介護報酬では、人材の確保・定着のために	教育・研修の時間が十分に取れない	指定介護サービス提供に関する書類作成が煩雑で、時間に追われている	経営(収支)が苦しく、労働条件や労働環境改善をたくとも出来ない	新規利用者の確保が難しい	介護従事者の確保が難しい	介護従事者の介護業務に関する知識や技術が不足している	管理者の指導・管理能力が不足している	介護従事者間のコミュニケーションが不足している	介護従事者の介護業務に臨む意欲や姿勢に問題がある	経営者・管理者と職員間のコミュニケーションが不足している	利用者や利用者の家族の介護サービスに対する理解が不足している	介護保険の改正等についての的確な情報や説明が得られない	雇用管理等についての情報や指導が不足している	その他	特に問題はない	無回答	(%)
09 特養 (89)	64.0	32.6	21.3	21.3	20.2	16.9	7.9	7.9	6.7	5.6	2.2	1.1	1.1	1.1	1.1	4.5	0.0	19.1		
10 老健 (40)	60.0	37.5	12.5	17.5	20.0	25.0	7.5	0.0	7.5	5.0	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	22.5		
11 居住系 (395)	44.1	28.1	23.0	11.1	10.9	9.1	12.9	4.8	2.5	8.1	2.8	5.1	1.8	0.8	1.0	3.5	28.4			

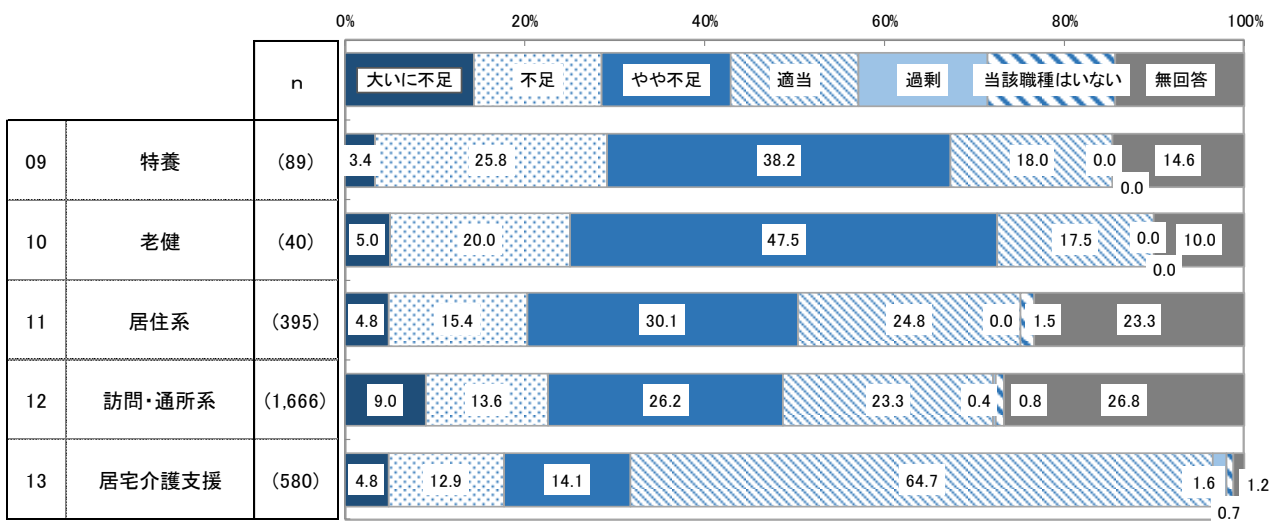
② 施設職員の不足状況（全体）

問 貴施設では、従業員の過不足の状況はいかがですか。「不足している」とは、募集を必要としていることを指します。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									7	7	7	8	9					

施設職員の不足状況について、「大いに不足」「不足」「やや不足」を合計した『不足』は、“特養”と“老健”では約7割と大半を占めており、“居住系”“訪問・通所系”でも約5割となっている。“居宅介護支援”では『不足』は31.8%と他と比較して低くなっており、「適当」が64.7%と最も高い割合となっている。

図表 V-1-② 施設職員の不足状況



③ 外国人労働者の雇用状況

問 貴施設における海外から来日した介護人材の雇用人数についてご記入ください。

(令和元年 10月1日現在)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									6-1	6-1	7-1							

介護施設における外国人労働者の雇用状況について、“特養”では「経済連携協定に基づく外国人」の雇用が22.5%と最も高く、「外国人技能実習制度に基づく外国人」「外国人留学生、就学生」が14.6%となっている。また、外国人労働者を雇用している施設の平均外国人労働者数は5.6人となっている。

“老健”では「その他」が25.0%と最も高く、「経済連携協定に基づく外国人」「在留資格介護に基づく外国人」が22.5%となっている。また、外国人労働者を雇用している施設の平均外国人労働者数は6.3人となっている。

“居住系”では「在留資格介護に基づく外国人」が6.8%と最も高く、「その他」が5.6%となっている。また、外国人労働者を雇用している施設の平均外国人労働者数は2.0人となっている。

図表 V-1-③ 外国人労働者の雇用状況

		調査数 (n)	(%)					(人)	
			経済連携協定に基づく外国人	在留資格介護に基づく外国人	外国人技能実習制度に基づく外国人	特定技能1号に基づく外国人	外国人留学生、就学生	その他	平均人数(施設当たり※)
09	特養	(89)	22.5	9.0	14.6	4.5	14.6	14.6	5.6
10	老健	(40)	22.5	22.5	7.5	7.5	12.5	25.0	6.3
11	居住系	(395)	3.0	6.8	4.1	3.0	3.3	5.6	2.0

※平均人数は外国人労働者を雇用している施設を母数として算出

④ 今後の外国人労働者の雇用予定

問 今後、外国人労働者を活用する予定はありますか。活用する予定がある場合、どの区分での受入れを考えていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									12	12	13							

今後の外国人労働者の雇用予定について、“特養”では「外国人技能実習制度に基づく外国人」が40.4%と他と比較して高くなっている。一方で、“居住系”では、「活用予定はない」が42.5%となっている。

図表 V-1-④ 今後の外国人労働者の雇用予定

		(%)								
	調査数 (n)	外国人技能実習制度に基づく外国人	経済連携協定 (EPA) に基づく外国人	特定技能1号に基づく外国人	外国人留学生、就学生	在留資格介護に基づく外国人	その他	活用予定はない	無回答	
09	特養	(89)	40.4	19.1	19.1	16.9	10.1	4.5	22.5	9.0
10	老健	(40)	25.0	10.0	10.0	7.5	5.0	15.0	32.5	12.5
11	居住系	(395)	20.5	7.8	10.4	3.5	16.2	6.1	42.5	21.3

⑤ 外国人労働者が施設介護職員になった理由

問 あなたはなぜ日本で介護職員になろうと思おもいましたか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																		41

外国人労働者が施設介護職員になった理由について、「介護を学ぶため」が 50.0%と最も高く、次いで「日本語を学ぶため」が 48.9%となっている。

図表 V-1-⑤ 外国人労働者が施設介護職員になった理由

												(%)	
		調査数 (n)	介護を学ぶため	日本語を学ぶため	家計を助けるため	日本の文化に興味があるため	日本で生活したかったため	日本の制度を学ぶため	人に勧められて	その他	無回答		
18	介護職員	(182)	50.0	48.9	47.3	38.5	35.7	15.9	11.0	4.4	4.4		

⑥ 外国人労働者が横浜を就労の場を選んだ理由

問 あなたはなぜ働く場所を横浜にしようと思いましたか。(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																		42

外国人労働者が横浜を就労の場を選んだ理由について、「今の職場に就職したため」が 19.8%と最も高く、次いで「国内で人気の都市のため」が 12.1%となっている。

図表 V-1-⑥ 外国人労働者が横浜を就労の場を選んだ理由

												(%)	
		調査数 (n)	今の職場に就職したため	国内で人気の都市のため	条件が他の都市より良かったため	都市については選択肢がなかったため	都心に近いため	外国人が多いため	治安がよい(安全)と思っ	人に勧められたため	無回答		
18	介護職員	(182)	19.8	12.1	10.4	9.3	8.8	6.6	6.6	3.8	22.5		

⑦ 外国人労働者が現在の施設を職場に選んだ理由

問 あなたが今の職場（施設）を選んだ理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																		43

外国人労働者が現在の施設を職場に選んだ理由について、「勉強時間への配慮があるから」が23.6%と最も高くなっており、次いで「同じ国の人がいたから」が22.0%となっている。

図表 V-1-⑦ 外国人労働者が現在の施設を職場に選んだ理由

		調査数 (n)	ら勉強時間への配慮があるか	同じ国の人がいたから	職場の環境がよいから	上司や同僚などの人間関係がよいから	通勤がしやすいから	人に勧められたから	給料がよいから	他に選択肢がなかったから	宿舎（寮、アパート）があるから	外国人が多いから	その他	特に理由はない	無回答
18	介護職員	(182)	23.6	22.0	18.1	15.9	15.4	15.4	13.2	10.4	7.1	5.5	3.8	19.2	6.0

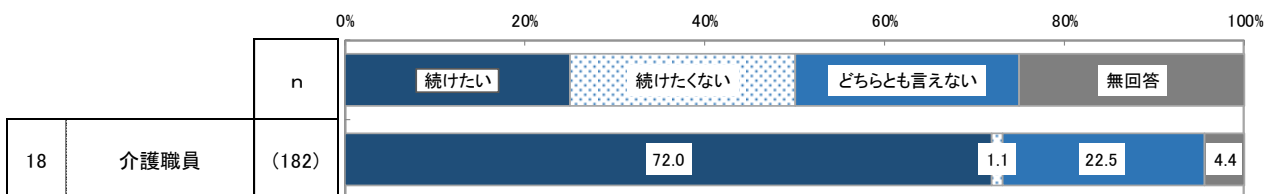
⑧ 外国人労働者の今後の就労継続意向

問 あなたは介護の仕事が続けたいですか。（○はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																		44

外国人労働者の今後の就労継続意向について、就労を「続けたい」が72.0%と大半を占めており、「続けたくない」は1.1%となっている。

図表 V-1-⑧ 外国人労働者の今後の就労継続意向



⑨ 外国人労働者が今後も介護の仕事をするために必要なこと

問 あなたが今の職場で介護の仕事をしていくとしたら、何があったらよいですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
問 番 号																			45

外国人労働者が介護の仕事をするために必要なことについて、「日本語を学ぶ時間や場所」が45.6%と最も多く、次いで「介護を学ぶ時間や場所」が37.9%となっている。

図表 V-1-⑨ 外国人労働者が今後も介護の仕事をするために必要なこと

		(%)										
	調査数 (n)	日本語を学ぶ時間や場所	介護を学ぶ時間や場所	上司や同僚の協力	住むところの支援	職場の中で相談できる人	同じ国出身の人との交流	職場以外で相談できる人	その他	特にない	無回答	
18	介護職員	(182)	45.6	37.9	31.9	31.3	19.8	15.4	9.3	5.5	12.6	12.1

2 介護人材の定着支援

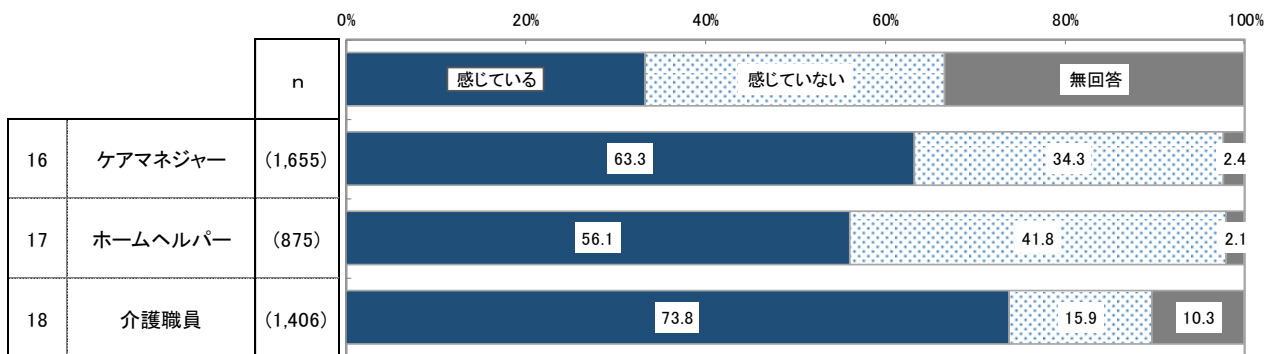
① 現在の職場で悩みを抱えている職員の有無

問 あなたは、現在の職場（事業所）の労働条件や労働環境に対して、悩みや不満を感じていますか。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																13	12	13

現在の職場で悩みや不満を抱えているかについて、すべての調査種別で「感じている」方が半数を上回っている。特に、“介護職員”では「感じている」が73.8%で最も高くなっている。

図表 V-2-① 現在の職場で悩みを抱えている職員の有無



② 抱えている悩みの内容

問 労働条件や労働環境のどこに悩みや不満を感じていますか。（あてはまるものすべてに〇）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																13-1	12-1	13-1

悩みや不満を抱えている内容について、“ケアマネジャー”では「仕事内容のわりに賃金が低い」が61.5%と最も高く、次いで「精神的にきつい」が37.2%となっている。

“ホームヘルパー”“介護職員”では、「人手が足りない」が約7～8割と最も高く、次いで「仕事内容のわりに賃金が低い」が約5割となっている。

図表 V-2-② 抱えている悩みの内容

調査数 (n)	仕事内容のわりに賃金が低い	精神的にきつい	業務に対する社会的評価が低い	休憩が取りにくい	有給休暇が取りにくい	人手が足りない	夜間や深夜時間帯に何か起こるのではないか不安がある	職場での人間関係がよくない	労働時間が長い	トラブル時に組織として対応してくれないか不安がある	不払い残業がある・多い	身体的負担が大きい（腰痛や体力に不安がある）	労働時間が不規則である	健康面（感染症や怪我）の不安がある	福祉機器の不足、機器操作の不慣れ、事業所の構造に不安がある	雇用が不安定である	正規職員になれない	仕事上の怪我等への補償がない	職務として行う医療的な行為に不安がある	その他	無回答
16 ケアマネジャー (1,047)	61.5	37.2	28.9	23.7	20.5	19.0	15.2	14.3	14.1	13.4	10.0	7.3	5.9	5.3	4.4	4.4	1.9	0.9	0.4	7.5	0.0
17 ホームヘルパー (491)	47.0	18.7	28.9	21.6	31.4	66.4	7.5	11.0	9.4	12.6	2.9	28.3	12.8	13.2	3.3	6.5	2.2	3.3	2.9	7.9	0.2
18 介護職員 (1,037)	55.1	32.9	33.6	17.7	35.4	78.7	28.5	19.0	13.5	20.9	6.9	49.2	21.3	20.3	20.0	5.8	0.9	4.8	5.5	7.9	0.2

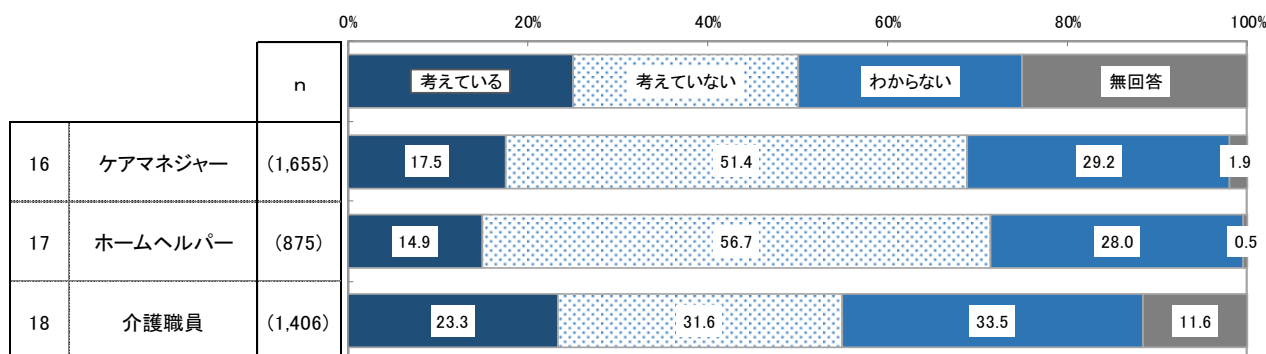
③ 今後の転職意向

問 あなたは、今後、他の職場へ転職することを考えていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																15	14	15

今後の転職意向について、“介護職員”では「考えている」が23.3%と他と比較して高くなっている。また、すべての調査種別で「わからない」が約3割となっている。

図表 V-2-③ 今後の転職意向



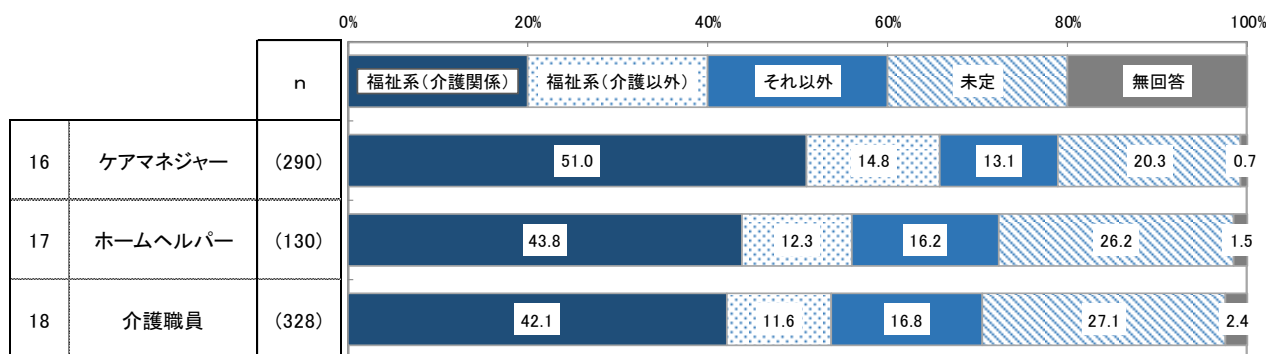
④ 転職先として検討している業界

問 今後どのような分野への転職を考えていますか。 (〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																15-1	14-1	15-1

転職先として検討している業界について、全てで「福祉系(介護関係)」が4割以上となっている。

図表 V-2-④ 転職先として検討している業界



⑤ 転職を検討している理由

問 他の職場へ転職することを考えている理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																15-2	14-2	15-2

転職を検討している理由について、すべての調査種別で「法人や事業所の理念や運営のあり方に不満があったため」が3割以上となっている。また、“ホームヘルパー”“介護職員”では、「収入が少なかったため」についても3割を超えている。

図表 V-2-⑤ 転職を検討している理由

		(%)																
	調査数 (n)	法人や事業所の理念や運営のあり方に不満があったため	収入が少なかったため	職場の人間関係に問題があったため	自分の将来の見込みが立たなかったため	自分に向かない仕事だったため	他に良い仕事・職場があったため	新しい資格を取ったから	定年・雇用契約の満了のため	家族の介護・看護のため	病気・高齢のため	家族の移転のため	家族の転職・転勤、又は事業のため	結婚・出産・妊娠・育児のため	散・事業不振等のため	人員整理・勧奨退職・法人解散のため	その他	無回答
16	ケアマネジャー (290)	36.2	26.6	19.0	17.6	13.1	11.7	8.6	7.9	6.2	4.5	2.1	2.1	1.7	13.8	2.4		
17	ホームヘルパー (130)	33.1	35.4	16.2	20.8	3.8	8.5	5.4	1.5	5.4	3.8	2.3	5.4	1.5	20.8	2.3		
18	介護職員 (328)	32.6	30.2	20.7	28.0	6.4	13.1	6.1	2.7	4.6	3.0	0.6	6.4	4.0	21.0	6.7		

⑥ 待遇面で法人等に希望する取組

問 法人や事業所に待遇面で取り組んでほしいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																	34	31

待遇面で法人等に希望する取組について、ともに「賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい」が最も高く、“ホームヘルパー”で36.9%、“介護職員”で51.3%となっている。また、“介護職員”では“ホームヘルパー”と比較して全体的に割合が高い傾向となっている。

“ホームヘルパー”では「特にない」が19.3%となっており“介護職員”と比較して高い割合となっている。

図表 V-2-⑥ 待遇面で法人等に希望する取組

		(%)																					
調査数 (n)		賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい	能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映してほしい	職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図ってほしい	キャリアに応じた給与体系を整備してほしい	業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れてほしい	労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いてほしい	能力開発(社内研修実施、社外講習等の受講・支援等)を充実してほしい	福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めてほしい	職場環境を整えてほしい(休憩室、談話室、出社時に座れる席の確保)	仕事内容の希望(持ち場の移動など)を聞いてほしい	悩み、不安、不満などの相談窓口を設けてほしい	経営者・管理者と従業員が経営方針・ケア方針を共有する機会を設けてほしい	管理者・リーダー層の部下育成や動機付け能力向上に向けた教育研修	新人の指導担当・アドバイザーを置いてほしい	健康対策や健康管理に力を入れてほしい	職員の仕事内容と必要な能力等を明示してほしい	ハラスメント等のトラブルに対して組織で対応してほしい	子育て支援を行ってほしい(子ども預り所を設ける、保育費用支援等)	非正規職員から正規職員への転換の機会を設けてほしい	その他	特にない	無回答
17	ホームヘルパー (875)	36.9	27.0	19.0	18.4	17.6	14.3	14.3	13.9	11.4	11.3	11.1	10.3	10.2	8.7	8.5	7.9	7.4	6.7	3.9	2.2	19.3	8.5
18	介護職員 (1,406)	51.3	41.7	25.9	29.8	39.0	15.3	19.2	19.8	27.0	14.7	21.3	17.1	22.8	21.6	14.3	13.7	13.8	18.2	4.1	4.0	5.7	12.9

⑦ 利用者や利用者家族に対する悩みや不安

問 あなたが利用者及び利用者の家族について、悩み、不安・不満等を感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																	39	36

利用者や利用者家族に対する悩みや不安について、ともに「利用者に適切なケアができていないか不安がある」が最も高くなっている。

“ホームヘルパー”では「定められたサービス以外の仕事を要求される」が25.8%となっており“介護職員”と比較して高い割合となっている。また、“介護職員”では「介護事故で利用者に怪我をおわせてしまう不安がある」が36.6%となっており“ホームヘルパー”と比較して高くなっている。

図表 V-2-⑦ 利用者や利用者家族に対する悩みや不安

		(%)														
調査数 (n)	ある利用者 に適切な ケアが できて いるか 不安が	利用者 は何を やって もらっ ても当 然と思 って	利用者 と家族 の希望 が一致 しない	外(医療 行為以 外)で 要求さ れる	利用者 の家族 が必要 なサポ ートや ヘルパ ーの理 解をし てくれ ない	介護事 故(転倒 、誤嚥 その他)で利 用者に 怪我を おわせ てしま う不安 がある	ハラス メント 行為に 利用者 及び家 族が気 づいて いない	良いと 思っ てやっ たこと が利用 者に理 解され ない	利用者 の行動 が理解 できず に対処 方法が 分から ない	利用者 や、そ の家族 との人 間関係 がうまく いかない	禁じら れている 医療行 為を求 められ る	その他	利用者 及びそ の他家 族につ いて、 特に悩 み、不 安・不 満等は 感じて いない	無回答		
17	ホームヘルパー (875)	38.6	33.1	33.0	25.8	17.5	17.1	11.8	11.7	7.7	7.0	5.3	2.4	12.5	10.5	
18	介護職員 (1,406)	44.4	22.5	31.1	6.2	16.3	36.6	11.8	17.5	14.9	7.8	3.1	2.3	10.6	14.7	

⑧ 介護職で生きがいを感じること

問 あなたは、現在の事業所で就業してやりがい（働きがい）を感じるのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																	38	35

介護職で生きがいを感じることに付いて、ともに「利用者や家族から感謝されること」の割合が最も高く、“ホームヘルパー”では63.3%、“介護職員”では49.0%となっている

図表 V-2-⑧ 介護職で生きがいを感じること

		(%)												
調査数 (n)		利用者や家族から感謝されること	利用者とのコミュニケーションがスムーズに図られること	持っている資格が生かせること	経験・勤続年数を生かした働き方ができること	スタッフの自主性を尊重してくれること	先輩からノウハウやスキルを学べること	研修や勉強会に参加して新たな知識やネットワークを広げられること	能力に見合った賃金が支払われること	専門技術・ノウハウを生かせること	その他	特にない	無回答	
17	ホームヘルパー (875)	63.3	56.0	53.7	38.6	27.5	22.6	22.2	19.0	16.8	1.6	5.1	4.9	
18	介護職員 (1,406)	49.0	44.4	36.6	32.4	19.5	19.6	16.9	13.4	14.2	1.8	8.5	12.5	

⑨ 職員の早期離職防止や定着のために実施している取組

問 職員の早期離職防止や定着促進を図るために、実施しているものを教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号									13-1	13-1	14-1	14-1						

事業所において職員の早期離職防止や定着のために実施している取組について、「非正規職員から正規職員への転換」は“特養”“老健”で8割以上となっている。

一方で、“居住系”“訪問・通所系”では、“特養”“老健”と比較すると全体的に取組状況が低い傾向となっている。特に、“居住系”では「福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めている」、「介護ロボットやICT等の導入による働きやすい職場作りに力を入れている」、「子育て支援を行っている」で3割を下回っている。

また、“訪問・通所系”では「管理者・リーダー層の部下育成や動機付け、能力向上に向けた教育研修に力を入れている」、「介護ロボットやICT等の導入による働きやすい職場作りに力を入れている」、「子育て支援を行っている」で3割を下回っている。

尚、「特に方策をとっていない」は、全ての調査種別で1%程度となっており、ほぼ全ての事業所において早期離職予防や定着促進を図るための取組が実施されている。

図表 V-2-⑨ 職員の早期離職防止や定着のために実施している取組

調査数(n)	(%)			
	09 特 養	10 老 健	11 居 住 系	12 訪 問 ・ 通 所 系
非正規職員から正規職員への転換の機会を設けている	86.5	85.0	69.4	57.4
残業を少なくする、有給休暇を取りやすくする等の労働条件の改善に取り組んでいる	77.5	77.5	84.1	72.6
能力開発を充実させている(社内研修実施、社外講習等の受講・支援等)	76.4	70.0	59.2	49.3
本人の希望に応じた勤務体制にする等の労働条件の改善に取り組んでいる	70.8	72.5	80.0	76.1
悩み、不満、不安などの相談窓口を設けている(メンタルヘルス対策を含む)	64.0	60.0	54.4	47.7
職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図っている(定期的なミーティング、意見交換会、チームケア等)	64.0	67.5	78.7	69.5
業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れている	61.8	57.5	57.0	46.6
賃金水準を向上させている	59.6	60.0	54.2	48.7
経営者・管理者と従業員が経営方針、ケア方針を共有する機会を設けている	59.6	55.0	54.9	48.0
能力や仕事を評価し、賃金などの処遇に反映している	56.2	67.5	55.4	50.4
キャリアに応じた給与体系を整備している	55.1	65.0	53.4	44.6
管理者・リーダー層の部下育成や動機付け、能力向上に向けた教育研修に力を入れている	50.6	50.0	46.6	28.0
新人の指導担当・アドバイザーを置いている	49.4	57.5	37.5	31.0
健康対策や健康管理に力を入れている	48.3	42.5	41.8	38.9
職場環境を整えている(休憩室、談話室、出社時に座れる席の確保等)	47.2	45.0	39.7	33.1
福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めている(カラオケ、ボーリングなどの同好会、親睦会等の実施を含む)	46.1	45.0	25.8	33.1
職員の仕事内容と必要な能力等を明示している	44.9	42.5	34.7	30.0
仕事内容の希望を聞いて配置している	42.7	47.5	48.1	45.1
介護ロボットやICT等の導入による働きやすい職場作りに力を入れている	42.7	20.0	6.6	8.3
子育て支援を行っている(子ども預かり所を設ける、保育費用支援等)	20.2	32.5	7.6	14.9
その他	1.1	0.0	1.3	0.8
特に方策はとっていない	1.1	0.0	1.0	1.4
無回答	1.1	2.5	2.8	3.4

⑩ 職場定着支援助成金の活用状況

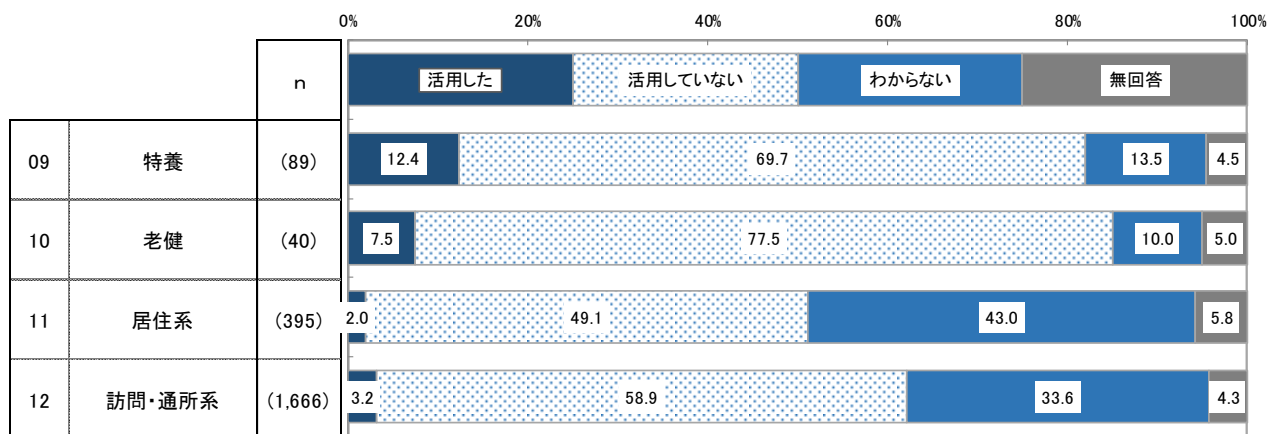
問 職場定着支援助成金（個別企業助成コース・介護労働者雇用管理制度助成※）を活用しましたか。（〇はひとつ）

※介護労働者の職場への定着の促進に資する賃金制度の整備を行った介護事業主に対する助成金

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									14	14	15	15						

職場定着支援助成金の活用状況について、“特養”では「活用した」が12.4%、“老健”では7.5%、“居宅系”では2.0%、“訪問・通所系”では3.2%となっている。

図表 V-2-⑩ 職場定着支援助成金の活用状況



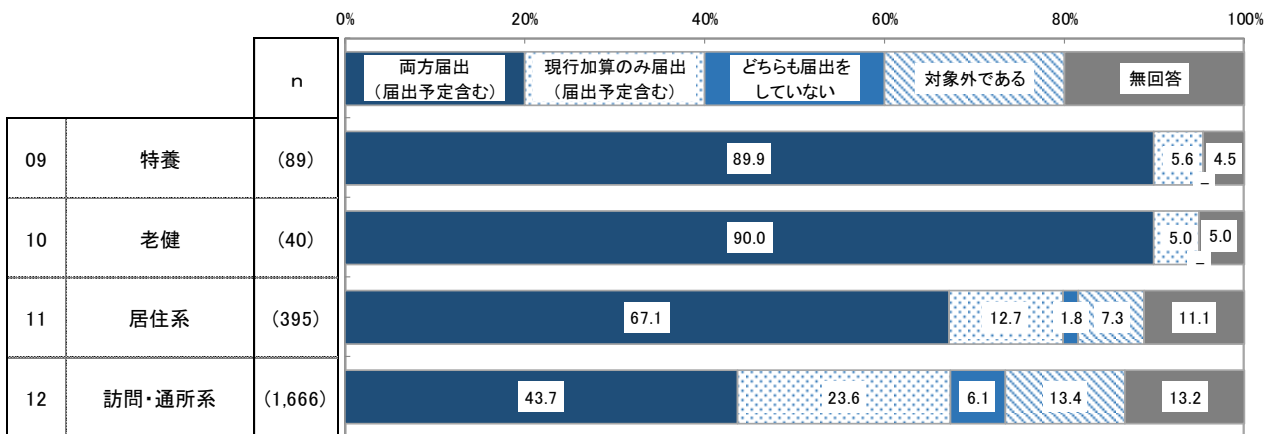
⑪ 介護職員処遇改善加算等の届出状況

問 貴施設における介護職員処遇改善加算（現行加算）や特定処遇改善加算（特定加算）の届出状況について、教えてください。（〇はひとつ）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									16	16	17	17						

介護職員処遇改善加算等の届出状況について、“特養”と“老健”では現行加算と特定加算の「両方届出」が約9割となっている。一方で“居住系”では67.1%、“訪問・通所系”が43.7%となっている。

図表 V-2-⑪ 介護職員処遇改善加算等の届出状況



⑫ 職員による虐待・ハラスメント防止のための取組

問 職員による利用者への虐待やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号									42	41	37	28						

職員による虐待・ハラスメント防止のための取組について、「研修会などへの参加を促すとともに、研修内容を全職員に展開している」がすべての調査種別で最も高く、特に“特養”“老健”では8割以上となっている。

一方で、「ミーティング時に虐待防止マニュアル等を全職員で確認している」は、“居住系”で73.7%となっており他に比べて高くなっている。

図表 V-2-⑫ 職員による虐待・ハラスメント防止のための取組

		調査数 (n)	てに研 い、修 修内 容を 全職 員に 展 開し も	し、全 職員の 未然防 止に役 立って いる	いるミ ニユー アール 等全職 員に虐 待防止 マニ ュアル を	て気 軽に 相談 がで きる 窓口 を整 え	て全 職員 への 啓発 活動 をお こな す	講師 を招 いて 、研 修を 行う など	研分 析し 、要 因等 を全 職員 間で	他施 設の 事例 等を 共有 する	そ の 他	特 に 行 っ て い な い	(%) 無 回 答
09	特養	(89)	88.8	65.2	48.3	38.2	23.6	18.0	3.4	1.1	3.4		
10	老健	(40)	82.5	57.5	40.0	37.5	22.5	15.0	7.5	-	2.5		
11	居住系	(395)	77.7	44.3	73.7	49.9	8.9	17.0	2.5	1.5	1.5		
12	訪問・通所系	(1,666)	61.2	32.7	53.2	40.6	10.4	11.9	2.6	6.8	3.1		

⑬ 利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組

問 利用者による職員への暴力やハラスメントを防止するため、どのような工夫を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									43	42	38	29						

利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組について、“居住系”では「日々の声かけなど小さな変化をとらえ情報を共有できる環境を整えている」が79.0%と他と比較して高い割合となっている。

また、「暴力やハラスメントがあった場合は、施設として対応できる環境を整えている」は“老健”で60.0%となっており、他と比較して高くなっている。

図表 V-2-⑬ 利用者による暴力・ハラスメント防止のための取組

		調査数 (n)	有 日 々 の 声 か け な ど 小 さ な 変 化 を と ら え 情 報 を 共 有 で き る 環 境 を 整 え て い る	気 軽 に 相 談 で き る 窓 口 を 整 え て い る	暴 力 や ハ ラ ス メ ン ト が あ っ た 場 合 は 、 施 設 と し て 対 応 で き る 環 境 を 整 え て い る	複 数 人 対 応 を 基 本 と し て い る	契 約 条 項 な ど に ハ ラ ス メ ン ト に 対 す る 対 処 方 法 等 を 明 記 ・ 説 明 し 、 未 然 防 止 に 努 め て い る	非 常 通 報 機 能 を 有 す る ベル や 笛 等 、 周 圍 に 知 ら せ る 機 器 等 を 携 行 し て い る	そ の 他	特 に 行 っ て い な い	無 回 答
09	特養	(89)	53.9	46.1	44.9	41.6	38.2	2.2	2.2	1.1	4.5
10	老健	(40)	50.0	42.5	60.0	32.5	40.0	2.5	2.5	-	5.0
11	居住系	(395)	79.0	51.6	45.3	37.0	34.7	4.8	3.5	3.8	2.0
12	訪問・通所系	(1,666)	61.0	43.8	41.9	27.0	31.2	1.6	2.4	6.9	3.2

⑭ 導入している介護ロボットなどの介護福祉機器

問 介護職員の身体的負担軽減や腰痛の予防、緩和等に効果があると思われるものについて、貴施設で導入している介護福祉機器をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									39-2	38-2	39-2							

導入している介護ロボットなどの介護福祉機器について、“居住系”では他と比較して全体的に割合が低い傾向となっており、「ベッド」が61.8%で最も高い割合となっている。

図表 V-2-⑭ 導入している介護ロボットなどの介護福祉機器

		調査数 (n)	車いす体重計	ストレッチャ（入浴用を使用するものを含む）	ベッド（傾斜角度、高さが調整できるもの。マットレスは除く）	移動するもの、側面が開閉可能なもの	特殊浴槽（移動用リフトと共に稼働するもの）	リフト部分のみ	自動車用車いすリフト（福祉車両の場合は、車両本体を除いたリフトのみ）	シャワーキャリー	昇降装置（人の移動に使用するものに限る）	移動用リフト（立位補助機（スタンディングマシーン）を含む）	座面昇降機能付車いす	その他介護福祉機器	無回答
09	特養	(89)	92.1	89.9	88.8	82.0	74.2	64.0	16.9	13.5	11.2	14.6	2.2		
10	老健	(40)	82.5	85.0	77.5	87.5	57.5	57.5	12.5	20.0	10.0	2.5	2.5		
11	居住系	(395)	31.9	18.0	61.8	24.8	22.8	37.5	6.1	2.8	2.5	3.0	33.2		

⑮ 効果があると思われる介護福祉機器

問 介護職員の身体的負担軽減や腰痛の予防、緩和等に効果があると思われるものについてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									39-1	38-1	39-1							

効果があると思われる介護福祉機器について、“居住系”では他と比較して全体的に割合が低い傾向となっている。

図表 V-2-⑮ 効果があると思われる介護福祉機器

		調査数 (n)	車いす体重計	ストレッチャ（入浴用を使用するものを含む）	ベッド（傾斜角度、高さが調整できるもの。マットレスは除く）	移動するもの、側面が開閉可能なもの	特殊浴槽（移動用リフトと共に稼働するもの）	リフト部分のみ	自動車用車いすリフト（福祉車両の場合は、車両本体を除いたリフトのみ）	シャワーキャリー	昇降装置（人の移動に使用するものに限る）	移動用リフト（立位補助機（スタンディングマシーン）を含む）	座面昇降機能付車いす	その他介護福祉機器	無回答
09	特養	(89)	84.3	78.7	78.7	80.9	62.9	59.6	33.7	48.3	34.8	15.7	7.9		
10	老健	(40)	65.0	67.5	70.0	75.0	50.0	50.0	32.5	47.5	22.5	2.5	10.0		
11	居住系	(395)	45.8	33.2	58.0	39.7	34.7	40.5	22.3	28.1	25.3	3.0	32.2		

⑩ 介護ロボットなどの導入による課題

問 介護ロボット等の導入や利用についてどのような課題・問題があるとお考えですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									41	40	41							

介護ロボットなどの導入による課題について、すべての調査種別で「導入する予算がない」が約5割で最も高い。

次いで、“特養”では「投資に見合うだけの効果がない」が31.5%、“老健”では「介護現場の実態に適う介護ロボットがない、現場の役に立つ介護ロボットがない」が37.5%、“居住系”では「設置や保管等に場所をとられてしまう」が31.9%となっている。

図表 V-2-⑩ 介護ロボットなどの導入による課題

		調査数 (n)	導入する予算がない	投資に見合うだけの効果がない	技術的に使いこなせるか心配である	清掃や消耗品管理などの維持管理が大変である	介護現場の実態に現場に適う介護ロボットがない	誤作動の不安がある	設置や保管等に場所をとられてしまう	ケアに介護ロボットと違和感を覚える	どのような介護ロボットがあるかわからない	その他	課題・問題は特にない	無回答
09	特養	(89)	51.7	31.5	28.1	28.1	28.1	18.0	16.9	10.1	9.0	6.7	3.4	4.5
10	老健	(40)	55.0	35.0	30.0	25.0	37.5	20.0	30.0	12.5	10.0	7.5	-	5.0
11	居住系	(395)	49.6	17.2	28.4	29.1	18.5	27.6	31.9	19.5	18.2	2.8	3.0	21.0

⑰ 介護事業所で活用している介護福祉機器

問 介護職員の負担軽減や働き方改革等に効果があると思われるものについて、貴事業所で導入している介護福祉機器と、効果があると思われる介護福祉機器についてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号												26						

介護事業所で活用している介護福祉機器について、導入している介護福祉機器は「請求業務等の事務効率化技術」が30.9%で最も高い割合となっており、次いで「タブレット導入等による現場の記録支援技術」が26.2%となっている。

効果があると思われる介護福祉機器は、「タブレット導入時による現場の記録支援技術」が44.3%と最も高い割合となっており、次いで「請求業務等の事務効率化技術」が43.3%となっている。

図表 V-2-⑰ 介護事業所で活用している介護福祉機器

【導入している介護福祉機器】

		(%)					
調査数 (n)	① 現場のタブレット記録支援技術による	② 作成報告や引継ぎなどの文書	③ 技術請求業務等の事務効率化	④ 用いた医療介護連携ソフト等を	⑤ その他	無回答	
12 訪問・通所系 (1,666)	26.2	12.8	30.9	10.0	0.8	55.0	

【効果があると思われる介護福祉機器】

		(%)					
調査数 (n)	① 現場のタブレット記録支援技術による	② 作成報告や引継ぎなどの文書	③ 技術請求業務等の事務効率化	④ 用いた医療介護連携ソフト等を	⑤ その他	無回答	
12 訪問・通所系 (1,666)	44.3	41.8	43.3	25.9	1.1	30.8	

⑱ 介護事業所で介護福祉機器を導入する上での課題

問 働き方改革を促進するツール等の導入や利用についてどのような課題・問題があるとお考えですか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号												27						

介護事業所で介護福祉機器を導入する上での課題について、「どのようなツールがあるかわからない」が38.7%で最も高い割合となっており、次いで「導入する予算がない」が36.1%となっている。

図表 V-2-⑱ 介護事業所で介護福祉機器を導入する上での課題

		調査数 (n)	わからない どのようなツールがあるか	導入する予算がない	技術的に使いこなせるか心配である	維持管理が大変である	投資に見合うだけの効果がない	介護現場の実態に合うツールがない	設置や保管等に場所をとらせてしまう	その他	課題・問題は特にない	無回答
12	訪問・通所系	(1,666)	38.7	36.1	34.8	20.5	16.8	16.0	8.0	2.0	7.7	7.2

⑲ 地域ケアプラザで活用している介護福祉機器

問 働き方改革等に効果があると思われるものについて、導入している介護福祉機器についてお答えください。 (あてはまるもの全てに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号														23-2				

地域ケアプラザで活用している介護福祉機器について、「報告や引継ぎなどの文書作成支援技術」が11.5%と最も高い割合となっており、次いで「タブレット導入等による現場における記録支援技術」が5.7%となっている。

図表 V-2-⑲ 地域ケアプラザで活用している介護福祉機器

		調査数 (n)	① タブレット導入等による現場における記録支援技術	② 報告や引継ぎなどの文書作成支援技術	③ 医療介護連携システム等を用いた連携技術(多職種・法人を超えた情報共有を実現するためのクラウドシステムの利用など)	④ その他	無回答
14	ケアプラザ	(122)	5.7	11.5	2.5	-	83.6

3 専門性の向上

① 職員研修や資格取得のための取組

問 職員の研修や資格取得について、次の取組を行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号									34	33	32	21						

職員研修や資格取得のための取組について、「自施設で研修を実施している」がすべての調査種別で最も高く、“特養”“老健”で約9割、“居住系”“訪問・通所系”で約8割となっている。

一方で、「外部研修への参加を奨励している」は、“特養”“老健”では約8割となっているものの、“居住系”“訪問・通所系”では6割以下となっている。

図表 V-3-① 職員研修や資格取得のための取組

		(%)								
調査数 (n)		自施設で研修を実施している	外部の研修への参加を奨励している	外部の研修への補助を行っている	外部の研修への参加費を自己負担している	外部の研修機関に委託して実施している	その他	特に行ってない	無回答	
09	特養	(89)	91.0	83.1	44.9	33.7	1.1	-	2.2	
10	老健	(40)	90.0	80.0	45.0	45.0	5.0	-	2.5	
11	居住系	(395)	77.0	56.7	35.7	17.5	9.1	3.3	3.0	
12	訪問・通所系	(1,666)	80.4	55.5	39.3	16.0	3.7	4.4	2.2	

② 介護職員のキャリアアップのために必要なこと

問 あなたは、ご自身のキャリアアップのためには、何が必要と考えますか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号																	17	20

介護職員のキャリアアップのために必要なことについて、ともに「介護に関するノウハウやスキル向上のための研修への参加」が半数以上と最も高くなっている。

“ホームヘルパー”では「様々な現場での経験を積む」が41.9%と“介護職員”(30.8%)と比較して高い割合となっている。また、「給与や待遇面の向上」は29.7%となっており“介護職員”(39.9%)と比較して低い割合となっている。

図表 V-3-② 介護職員のキャリアアップのために必要なこと

		(%)												
調査数 (n)	介護に関するノウハウやスキル向上のための研修への参加	様々な現場での経験を積む	現場での職員同士の相互研鑽(ミーティングや情報交換など含む)	給与や処遇面の向上	他職種との連携・協働の機会を多く持つ	事業所の運営やマネジメントの知識・スキルを身につける	他事業所、他分野の専門職とのネットワークづくりや自主的サークル活動に取り組む	スーパーバイザーになる、スーパーバイザーとしての職務をこなす経験を積む	研究レポートを取りまとめ、学会等で発表する	その他	必要なものはない	無回答		
17	ホームヘルパー (875)	57.4	41.9	36.0	29.7	24.7	19.7	10.6	5.3	0.7	0.7	4.7	2.4	
18	介護職員 (1,406)	52.2	30.8	35.6	39.9	32.5	18.0	10.7	9.0	2.2	2.1	3.4	10.2	

③ 介護職員の研修への参加状況

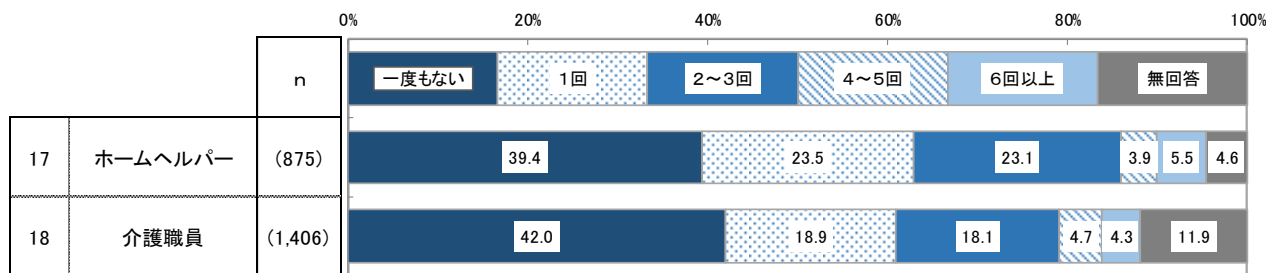
問 あなたは、今の事業所で過去1年間に外部研修に参加したことはありますか。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号																	36	33

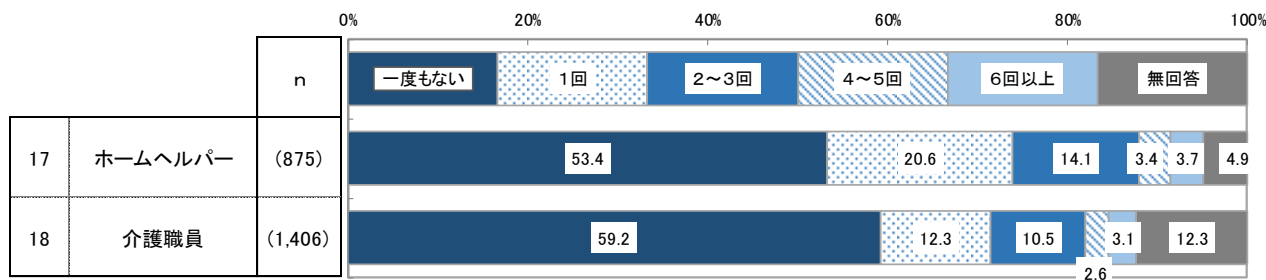
介護職員の研修への参加状況について、事業所指定の研修では、「一度もない」がともに約4割となっており、『1～3回』が“ホームヘルパー”では46.6%、“介護職員”では37.0%となっている。

自主参加の研修では、「一度もない」が半数以上となっており、事業所指定の研修に比べて参加自体が低くなっている。

図表 V-3-③ 介護職員の研修への参加状況
【事業所指定の研修】



【自主参加の研修】



④ 施設の運営やサービス向上のための取組

問 貴施設の運営やサービス向上のために、どのような情報や支援が必要ですか。次のうち必要と考えられる情報・支援を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									35	34	33	22						

施設の運営やサービス向上のために必要な情報等について、“特養”“老健”“訪問・通所系”では「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」が最も高く半数近くを占めている。一方で、“居住系”では「困難事例、多問題事例に関するケース情報提供、助言」が32.4%と最も高くなっている。

また、“老健”では「周辺事業所や医療機関に関する情報」が30.0%と他と比較して高い割合となっている。

図表 V-3-④ 施設の運営やサービス向上のための取組

	(%)			
	09 特 養	10 老 健	11 居 住 系	12 訪 問 ・ 通 所 系
調査数(n)	(89)	(40)	(395)	(1,666)
介護保険制度・介護報酬等に関する情報	49.4	50.0	28.9	46.2
困難事例、多問題事例に関するケース情報提供、助言	40.4	32.5	32.4	27.4
研修・講座等に関する情報	25.8	22.5	24.3	16.3
介護技術・方法に関する情報	21.3	27.5	24.8	20.6
認知症ケアに関する情報	19.1	10.0	30.4	15.3
医療処置を必要とする場合のケアに関する情報	19.1	17.5	15.7	12.4
情報提供・相談等の窓口	16.9	17.5	10.1	12.2
介護保険以外の保健・福祉サービスに関する情報	15.7	12.5	13.7	14.0
周辺事業所や医療機関に関する情報	13.5	30.0	9.1	6.2
定員の空き状況、空室・空床に関する情報	7.9	2.5	10.6	3.1
事業者連絡会等に関する運営サポート、バックアップ	6.7	10.0	5.1	5.9
緊急時ショートステイや入院などの受け入れ先情報	5.6	7.5	7.6	4.9
ケアカンファレンス等の運営サポート、バックアップ	5.6	0.0	5.1	3.2
介護予防に関する情報	1.1	0.0	3.8	4.3
サービス展開のための土地・建物に関する情報	1.1	0.0	1.5	1.8
職員研修、交流会				15.0
医療機関との連携				17.3
その他	2.2	5.0	1.5	2.2
特に必要な情報・支援はない	2.2	0.0	2.0	3.2
無回答	10.1	7.5	13.2	12.1

⑤ ケアマネジャーの質の向上のための取組

問 今後、ケアマネジャー業務の質の向上を図るために、どのような取り組みをしようと思っ
ていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号													13					

居宅介護支援事業所がケアマネジャー業務の質の向上のためにやっている取組は、「介護保障制度に関する情報収集・研修の強化」が84.8%と最も高く、次いで「地域包括支援センターや市・区との連携強化」が74.7%となっている。

図表 V-3-⑤ ケアマネジャーの質の向上のための取組

		調査数 (n)	介護保障制度に関する情報収集・研修の強化	地域包括支援センターや市・区との連携強化	ケアマネジャーの情報収集・研修の強化	介護保障以外の情報収集・福祉研修の強化	事業参加促進	事業者連絡会等への積極的な参加	サービスマン提供事業所に関する情報収集	別事例毎の検討・助言体制づくり	ケースカンファレンス等個別事例の検討・助言体制づくり	作成等(定例会議、データ共有促進)	事業所内での情報共有促進	積極的な活用	第三者評価、外部監査等の積極的な活用	その他	無回答
13	居宅介護支援	(580)	84.8	74.7	73.3	67.9	57.4	53.3	53.1	48.8	9.7	2.9	0.5				

⑥ ケアマネジャーがスキルアップのために取組んでいること

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在、どのような取組を行っ
ていますか。 (あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																46		

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために取組んでいることについて、「地域包括支援センターが主催する研修、事例検討会に参加する」が65.0%で最も高く、次いで「外部研修に積極的に参加している」が51.3%となっている。

図表 V-3-⑥ ケアマネジャーがスキルアップのために取組んでいること

		調査数 (n)	地域包括支援センターが主催する研修、事例検討会に参加する	外部研修に積極的に参加している	インターネットの活用	法人内の研修に積極的に参加している	事業者連絡会等に参加している	参考書などを読んでいる	具体的な検討をし、助言を受けている	ケースカンファレンス等個別事例の検討・助言体制づくり	自主的な勉強会を行っている	その他	特にない	無回答
16	ケアマネジャー	(1,655)	65.0	51.3	44.7	39.6	39.2	20.7	19.6	17.4	1.4	3.0	1.1	

⑦ ケアマネジャーがスキルアップのために今後取り組みたいこと

問 自分自身の「ケアマネジャー業務のレベルアップ」のために、現在は行っていないが、今後始めたいと思っている取組はありますか。(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号																47		

ケアマネジャーが自身のスキルアップのために今後取り組みたいことについて、「外部研修に積極的に参加したい」が39.9%と最も高く、次いで「具体的な検討・助言を得られるケースカンファレンス等を行いたい」が26.9%となっている。

図表 V-3-⑦ ケアマネジャーがスキルアップのために今後取り組みたいこと

		調査数 (n)											無回答		(%)
		外部研修に積極的に参加したい	具体的な検討・助言を得られるケースカンファレンス等を行いたい	関連資格の取得や勉強	ネットワークによる情報収集	参考書などを読んで知識などを増やしたい	事業者連絡会等に積極的に参加したい	自主的な勉強会を行いたい	法人内の研修に積極的に参加したい	その他	特になし	無回答		(%)	
16	ケアマネジャー	(1,655)	39.9	26.9	24.2	22.5	21.0	19.0	11.4	10.6	1.5	9.2	3.0		

⑧ ケアマネ業務を行う上で必要な情報

問 ケアマネジャー業務を行う上で、どのような情報が必要ですか。

(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号													14					

ケアマネ業務を行う上で必要な情報について、「地域のインフォーマルサービスの情報」が86.9%と最も高く、次いで「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」が85.5%となっている。

図表 V-3-⑧ ケアマネ業務を行う上で必要な情報

		(%)																
調査数 (n)	地域のインフォーマルサービスの情報	介護保険制度・介護報酬等に関する情報	介護保険以外の保健・福祉サービスに関する情報	地域の医療機関等に関する情報	ケアマネジメント技術に関する情報	ケアマネジャーを対象とした研修・講座等に関する情報	多職種連携に関する情報	サービス提供事業所に関する情報	認知症ケアに関する情報	個別のケアマネジメント事例(困難事例を含む)	介護予防に関する情報	定員の空き状況、空室・空床に関する情報	事業者連絡会等に関する情報	地域ケア会議に関する情報	情報提供・相談等の窓口	その他	特になし	無回答
13 居宅介護支援 (580)	86.9	85.5	78.8	67.8	66.2	63.6	62.8	59.8	57.9	51.4	48.3	45.2	43.4	42.1	38.8	2.2	0.5	0.7

VI. 地域包括ケア実現にむけた取組み

1 高齢者が安心して暮らせる社会づくりに向けた環境整備

① 平成 30 年度から実施している補助事業の活用

問 貴施設では、平成 30 年度から開始された次の補助事業について、令和元年度に申請（申請予定含む）しましたか。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									47	46	45							

補助事業等の活用について、“特養”では「介護ロボット等導入支援事業」が 28.1%となっており、「住居借上げ支援事業」が 14.6%となっている。

“老健”では「介護ロボット等導入支援事業」が 20.0%となっており、「住居借上げ支援事業」が 5.0%となっている。

“居住系”では「住居借上げ支援事業」が 1.0%となっている。

図表 VI-1-① 平成 30 年度から実施している補助事業の活用

		調査数 (n)	(%)			
	住居借上げ支援事業		介護ロボット等導入支援事業	申請の予定はない	無回答	
09	特養	(89)	14.6	28.1	40.4	19.1
10	老健	(40)	5.0	20.0	67.5	10.0
11	居住系	(395)	1.0		61.5	37.5

2 介護サービスの適正な量の提供と質の向上

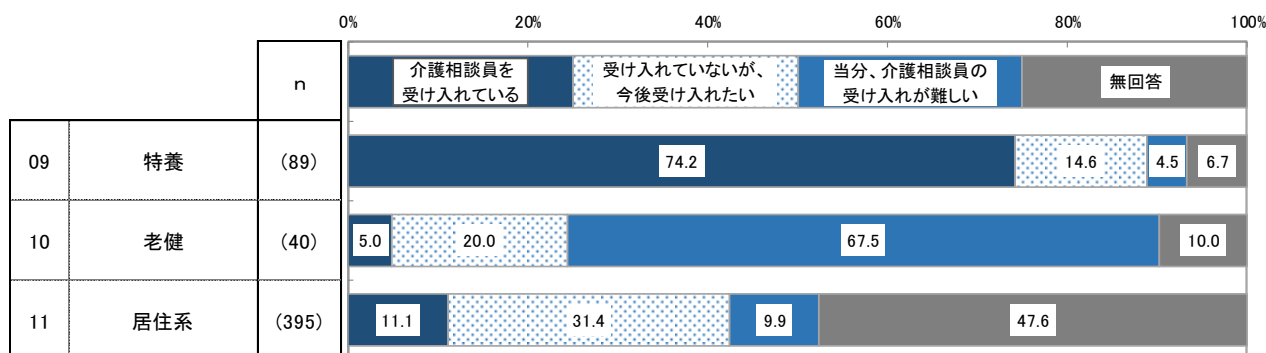
① 介護相談員派遣事業の活用状況

問 横浜市各区が派遣する介護相談員の受入状況についてお伺いします。(〇はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									46	45	44							

介護相談員派遣事業の活用状況について、“特養”では「介護相談員を受け入れている」が74.2%、“老健”では「当分、介護相談員の受け入れが難しい」が67.5%と他と比較して高い割合となっている。

図表 VI-2-① 介護相談員派遣事業の活用状況



② 介護相談員の受け入れによる効果

問 横浜市介護相談員派遣事業について、施設での活用方法や受入による効果について、お伺いします。(あてはまるものすべてに〇)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									46-1	45-1	44-1							

介護相談員の受け入れによる効果について、「利用者からの不安や不満、疑問などを知る機会として役立つ」が“特養”“老健”で大半を占めている。一方で、“居住系”では「利用者家族からの不安や不満、疑問などを知る機会として役立つ」が57.7%となっており“特養”や“老健”と比較して高くなっている。

図表 VI-2-② 介護相談員の受け入れによる効果

調査数 (n)	役立っている	利用者からの不安や不満、疑問などを知る機会として役立つ	施設での接遇研修などの際に活用する	施設で役立っている	利用者家族からの不安や不満、疑問などを知る機会として役立つ	介護担当者から職員としての意見や考えを知る機会として役立つ	地域や地域住民との交流を図るきっかけとなる	利用者のケア計画の見直しなどの際に活用する	ポッカテナを受け入れるきっかけとなる	活用方法がわからない、役に立たない	その他	無回答
09 特養 (79)	87.3	43.0	41.8	31.6	27.8	21.5	15.2	2.5	6.3	1.3		
10 老健 (34)	79.4	35.3	44.1	32.4	20.6	26.5	-	-	2.9	-		
11 居住系 (168)	55.4	32.7	57.7	39.9	40.5	37.5	26.2	6.5	1.8	1.8		

③ 施設の第三者評価の実施予定

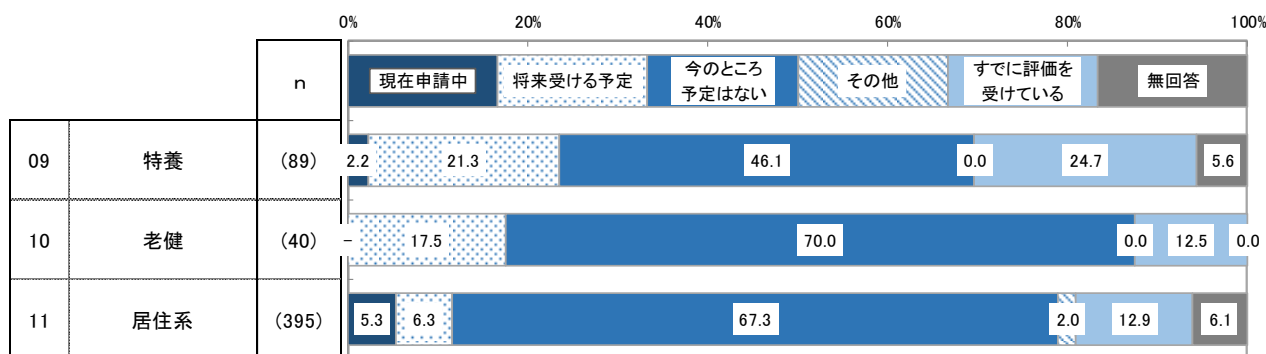
問 貴施設は、サービスの質について、横浜市の第三者評価を受ける予定はありますか。
(○はひとつ)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号									33-1	32-1	31-1							

施設の第三者評価の実施予定について、「すでに評価を受けている」は“特養”で24.7%、“老健”で12.5%、“居住系”で12.9%となっている。

一方で、「今のところ予定はない」は“老健”“居住系”で約7割と大半を占めており、“特養”でも46.1%となっている。

図表 VI-2-③ 施設の第三者評価の実施予定



3 市民に分かりやすい情報の公表と発信

① 健康づくり・医療・介護の情報入手先（健康づくり）

問 あなた（あて名ご本人）は、健康づくりについて、どのようにして知識や情報を得ていますか。知識や情報の入手先をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
問 番号	54	52																	

健康づくりの情報入手先について、“高齢者一般”“一般40～64歳”ともに「テレビ・ラジオ」が最も高く約7割を占めている。また、“一般40～64歳”では「インターネット」が56.5%となっている。

年齢別でみると、「テレビ・ラジオ」は45～74歳の幅広い世代で7割を超えている。一方で、「インターネット」は40～59歳では約6割と高いものの、高齢になるにつれて割合が低くなっている。

図表 VI-3-① 健康づくりの情報入手先

		調査数 (n)	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・書籍	友人・知人	家族・親族	市や区の広報紙、パンフレット等	インターネット	かかりつけ医などの医療機関	自治会・町内会	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	市（区）役所の相談窓口	保健活動推進員・食生活等改善推進員（ヘルスマイト）	市（区）社会福祉協議会	NPO（非営利）団体やボランティア団体	民生委員・児童委員	認知症サポーター養成講座への参加	その他	知識や情報は得ていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	69.5	51.6	32.4	31.0	17.6	56.5	11.1	5.4	3.2	3.0	2.2	1.4	1.3	1.7	1.3	2.4	4.6	7.1
01	高齢者一般	(3,071)	67.5	61.0	30.0	29.9	29.5	20.5	20.2	11.5	9.4	5.0	4.9	3.9	3.2	3.2	2.9	1.6	1.8	15.9
▼年齢別																				
一般40～64歳	40～44歳	(296)	61.5	42.6	33.8	33.8	16.6	63.9	6.8	6.1	3.0	2.7	4.1	1.0	1.4	3.0	1.7	2.4	8.1	4.4
	45～49歳	(387)	70.0	47.0	31.5	33.3	14.5	64.9	8.3	5.7	2.8	1.6	2.1	1.8	1.6	2.1	1.3	2.8	4.1	5.9
	50～54歳	(408)	68.9	51.5	31.9	26.7	15.7	53.7	8.8	3.2	1.5	2.5	1.5	1.0	0.7	0.5	-	2.0	4.7	9.3
	55～59歳	(361)	74.0	57.9	36.8	32.7	19.9	60.7	15.5	6.6	4.4	5.3	1.4	1.4	1.7	1.4	1.7	3.3	3.3	5.3
	60～64歳	(349)	72.8	58.2	28.7	29.5	22.1	40.7	15.8	5.7	4.3	3.4	2.6	2.0	1.4	1.7	2.0	1.7	3.4	8.9
高齢者一般	65～69歳	(816)	74.0	65.1	32.1	29.5	30.6	33.7	20.7	11.4	8.8	5.8	5.3	4.4	4.0	3.4	3.1	2.5	2.0	9.9
	70～74歳	(854)	71.4	64.8	34.2	31.7	30.3	24.1	16.6	11.7	9.7	4.6	4.9	3.7	2.9	2.6	2.9	1.3	2.2	12.9
	75～79歳	(754)	65.0	57.8	29.3	30.9	29.8	12.9	23.5	13.1	10.2	5.3	5.3	4.2	3.3	3.3	3.1	1.9	1.5	17.2
	80～84歳	(436)	58.7	57.1	24.3	27.5	27.8	9.4	19.7	9.6	9.2	3.9	4.8	2.8	2.5	3.4	2.8	0.2	1.1	24.3
	85～89歳	(177)	53.7	49.2	19.2	24.3	26.0	5.6	23.2	9.6	7.9	5.6	1.7	4.5	1.7	4.0	2.3	1.7	2.3	28.8
	90～94歳	(26)	61.5	57.7	15.4	34.6	19.2	3.8	23.1	11.5	7.7	0.0	3.8	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	30.8
	95歳以上	(3)	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

② 健康づくり・医療・介護の情報入手先（医療）

問 あなた（あて名ご本人）は、医療について、どのようにして知識や情報を得ていますか。知識や情報の入手先をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番号	54	52																

医療の情報入手先について、“高齢者一般”では「テレビ・ラジオ」が最も高く 51.4%となっており、“一般40～64歳”では「インターネット」が61.1%となっている。

年齢別でみると、「インターネット」は高齢になるにつれて低くなっており、反面、「かかりつけ医などの医療機関」が高齢になると高くなっている。

図表 VI-3-② 医療の情報入手先

		調査数（n）	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・書籍	友人・知人	家族・親族	市や区の広報紙、パンフレット等	インターネット	かかりつけ医などの医療機関	自治会・町内会	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	市（区）役所の相談窓口	保健活動推進員・食生活等改善推進員（ヘルスマイト）	市（区）社会福祉協議会	NPO（非営利）団体やボランティア	民生委員・児童委員	認知症サポーター養成講座への参加	その他	知識や情報は得ていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	58.2	42.4	28.0	29.1	13.1	61.1	28.1	1.7	1.6	3.5	0.8	0.9	0.8	0.6	0.7	2.5	3.3	7.9
01	高齢者一般	(3,071)	51.4	46.2	23.2	27.4	22.0	24.1	44.1	3.1	3.4	5.0	1.4	2.1	0.9	1.5	1.8	1.1	2.0	20.4

▼年齢別

一般40～64歳	40～44歳	(296)	52.7	31.8	29.4	32.8	12.2	67.6	20.6	1.7	1.7	2.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.4	5.1	6.1
	45～49歳	(387)	57.4	39.0	25.6	31.3	12.1	67.2	22.0	1.0	1.8	4.1	0.5	0.8	0.8	0.8	0.0	2.6	2.6	7.2
	50～54歳	(408)	56.9	44.9	31.6	26.5	12.3	60.8	28.7	1.2	2.0	3.2	1.0	0.7	0.5	0.2	0.2	2.7	3.7	9.1
	55～59歳	(361)	64.5	48.8	29.9	30.2	13.6	62.0	29.1	3.0	1.1	3.6	0.8	1.1	0.6	0.8	1.4	3.3	2.5	6.6
	60～64歳	(349)	59.3	45.8	23.8	25.8	15.8	49.0	39.5	1.4	1.4	4.3	1.4	1.1	1.1	0.9	0.9	2.3	3.2	9.5
高齢者一般	65～69歳	(816)	57.6	51.0	26.7	30.0	25.0	39.7	44.4	3.4	3.7	6.6	1.7	2.7	1.3	2.0	2.2	2.2	2.2	12.1
	70～74歳	(854)	53.3	48.7	27.8	28.3	20.7	28.0	45.0	2.9	2.8	5.0	1.4	1.8	0.8	1.2	1.4	0.6	2.1	18.5
	75～79歳	(754)	49.1	43.1	20.3	25.9	22.5	15.6	44.2	3.2	2.8	4.0	1.3	1.9	0.9	1.2	2.3	0.9	2.1	24.4
	80～84歳	(436)	45.4	41.5	17.0	25.2	19.5	9.9	42.0	3.4	5.5	4.6	1.4	1.8	0.7	2.1	1.1	0.9	0.9	26.8
	85～89歳	(177)	40.1	39.5	15.8	24.3	20.9	8.5	43.5	1.7	2.3	3.4	0.0	2.3	0.6	0.6	2.3	0.6	2.3	31.6
	90～94歳	(26)	42.3	38.5	3.8	23.1	11.5	3.8	46.2	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	26.9
	95歳以上	(3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7

③ 健康づくり・医療・介護の情報入手先（介護）

問 あなた（あて名ご本人）は、介護について、どのようにして知識や情報を得ていますか。知識や情報の入手先をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号	54	52																

介護の情報入手先について、“高齢者一般”では「テレビ・ラジオ」が最も高く 36.7%となっており、“一般40～64歳”でも「テレビ・ラジオ」が50.9%と最も高くなっている。

年齢別でみると、「テレビ・ラジオ」は50歳代で半数を上回りピークとなっている。

図表 VI-3-③ 介護の情報入手差先

		調査数（n）	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・書籍	友人・知人	家族・親族	市や区の広報紙、パンフレット等	インターネット	かかりつけ医などの医療機関	自治会・町内会	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	市（区）役所の相談窓口	保健活動推進員・食生活等改善推進員（ヘルスメイト）	市（区）社会福祉協議会	NPO（非営利）団体やボランティア団体	民生委員・児童委員	認知症サポーター養成講座への参加	その他	知識や情報は得ていない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	50.9	35.8	22.5	23.9	14.8	42.0	5.8	1.9	8.6	6.3	0.9	3.2	2.4	1.8	3.9	1.9	10.0	13.6
01	高齢者一般	(3,071)	36.7	35.3	16.9	19.2	21.0	13.1	7.0	3.7	11.1	7.2	1.2	4.5	2.8	3.9	3.5	0.9	4.1	36.8

▼年齢別

		調査数（n）	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・書籍	友人・知人	家族・親族	市や区の広報紙、パンフレット等	インターネット	かかりつけ医などの医療機関	自治会・町内会	地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	市（区）役所の相談窓口	保健活動推進員・食生活等改善推進員（ヘルスメイト）	市（区）社会福祉協議会	NPO（非営利）団体やボランティア団体	民生委員・児童委員	認知症サポーター養成講座への参加	その他	知識や情報は得ていない	無回答
一般40～64歳	40～44歳	(296)	47.0	27.4	20.3	22.0	9.1	42.9	4.4	1.7	5.7	4.7	0.0	3.7	3.0	1.7	4.4	1.7	17.6	9.5
	45～49歳	(387)	49.1	29.7	20.2	25.8	11.9	45.5	4.1	0.8	4.7	4.7	0.5	1.8	1.3	0.8	2.8	1.6	12.9	11.6
	50～54歳	(408)	54.2	40.2	24.0	24.3	16.7	43.6	5.1	2.0	7.6	5.6	1.2	2.5	2.9	1.2	4.2	2.9	9.3	13.5
	55～59歳	(361)	55.7	42.1	26.6	28.3	15.2	47.9	8.0	3.3	13.3	7.2	1.1	3.0	2.2	2.8	3.6	1.4	5.0	13.9
	60～64歳	(349)	48.1	38.4	21.5	18.9	20.6	29.8	7.2	2.0	11.7	9.2	1.7	5.2	2.9	2.9	4.9	1.7	6.3	18.3
高齢者一般	65～69歳	(816)	44.0	41.3	21.1	20.7	25.5	22.1	6.0	4.2	11.8	9.3	1.2	4.4	3.6	4.8	4.7	1.3	4.9	24.4
	70～74歳	(854)	39.1	37.6	18.6	19.4	18.9	15.1	6.4	3.2	11.7	7.0	1.6	5.7	2.9	4.0	3.6	0.8	5.2	33.5
	75～79歳	(754)	33.8	31.6	14.2	18.7	20.3	8.9	8.0	4.1	11.4	6.6	0.7	4.1	2.8	3.1	3.3	0.8	2.9	42.0
	80～84歳	(436)	29.1	30.0	13.1	18.1	20.9	5.3	7.8	4.6	9.4	5.5	1.8	2.8	2.1	4.6	2.3	0.7	2.8	49.5
	85～89歳	(177)	24.3	28.8	13.0	16.9	14.7	2.3	7.9	0.6	8.5	5.1	0.6	4.5	1.1	2.8	2.8	0.6	4.0	52.0
	90～94歳	(26)	26.9	19.2	3.8	15.4	15.4	0.0	3.8	3.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8
95歳以上	(3)	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	

④ 普段の生活に必要な情報

問 あなた（あて名ご本人）はふだん暮らしていくうえでどんな情報を必要としていますか。
（あてはまるものすべてに○）

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問番号	55	53																

普段の生活に必要な情報について、“高齢者一般”では「健康づくり」が65.4%と最も高くなっている。“一般40～64歳”では「医療」が44.5%と最も高く、「趣味・娯楽・生涯学習」が44.1%、「健康づくり」が44.0%と続いている。

年齢別でみると、「健康づくり」は年齢が高くなるにつれて割合も高くなる傾向がある。一方で、「趣味・娯楽・生涯学習」は、高齢になるにつれて割合が低くなる傾向がある。

図表 VI-3-④ 普段の生活に必要な情報

		調査数 (n)	健康づくり	医療	趣味・娯楽・生涯学習	福祉サービス	年金	介護保険	税金・資産運用・相続	住まい	ボランティア・地域活動	仕事	その他	必要ない	無回答
02	一般40～64歳	(1,806)	44.0	44.5	44.1	22.7	40.5	15.9	38.2	15.0	7.5	36.4	3.7	4.7	2.3
01	高齢者一般	(3,071)	65.4	51.5	35.6	34.4	32.9	28.6	22.2	10.4	9.7	8.8	1.3	4.0	4.4

▼年齢別

一般40～64歳	40～44歳	(296)	36.1	44.6	50.0	16.9	30.1	11.1	41.9	20.9	7.1	47.3	3.7	6.8	1.7
	45～49歳	(387)	41.1	42.1	42.6	19.9	31.5	12.9	39.8	14.7	4.9	41.6	4.1	4.7	1.8
	50～54歳	(408)	44.4	45.8	42.6	22.5	40.4	16.7	37.3	15.7	7.8	38.0	5.1	4.2	2.0
	55～59歳	(361)	47.1	45.4	42.7	28.8	48.8	20.5	39.3	14.4	8.3	33.5	2.5	3.0	0.8
	60～64歳	(349)	50.1	44.7	44.4	24.9	51.0	17.5	33.2	10.3	9.5	22.3	2.6	5.2	4.6
高齢者一般	65～69歳	(816)	62.0	51.0	38.8	32.5	39.8	25.6	26.5	11.8	12.5	16.4	1.2	4.9	3.2
	70～74歳	(854)	66.3	50.0	40.6	33.3	32.6	24.4	23.3	12.4	10.7	9.7	1.5	3.7	2.8
	75～79歳	(754)	68.6	51.6	33.3	35.3	31.3	32.4	20.0	9.2	7.3	4.9	1.1	3.4	6.9
	80～84歳	(436)	64.9	53.2	29.1	39.7	26.6	34.9	17.4	6.7	7.6	1.6	1.1	3.7	4.8
	85～89歳	(177)	67.2	56.5	24.9	33.3	26.0	31.1	20.3	9.0	8.5	4.0	1.7	4.0	5.1
	90～94歳	(26)	53.8	50.0	19.2	30.8	34.6	30.8	15.4	3.8	7.7	3.8	0.0	7.7	7.7
	95歳以上	(3)	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

4 苦情相談体制の充実

① 居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応

問 貴事業所では、利用者からの相談や苦情についてどのように対応していますか。
(あてはまるものすべてに○)

調査票番号	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18
問 番 号													12					

居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応について、「苦情対応マニュアルを作成している」が74.0%で最も高く、次いで「相談・苦情専門の担当を設けている」が72.2%となっている。

図表 VI-4-① 居宅介護支援事業所における相談・苦情等の対応

		調査数 (n)	苦情対応マニュアルを作成している	相談・苦情専門の担当を設けている(交代制も含む)	利用者アンケートなどを実施している	専門対応は設けていないが、個別に迅速に対応している	法人として第三者委員等を設置している	相談・苦情のデータベースを作成している	意見箱・苦情受付箱の設置	その他	無回答 (%)
13	居宅介護支援	(580)	74.0	72.2	43.1	33.4	23.3	22.6	13.3	2.1	0.2

横浜市高齢者実態調査 調査結果報告書

令和2年3月

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

横浜市 健康福祉局 高齢健康福祉部 高齢健康福祉課

電話 045(671)3412 FAX 045(550)3613